

平成30年度 第2回平塚市スポーツ推進審議会 次第

日時 平成30年12月26日(水)

午前10時00分～

場所 教育会館2階 中会議室

1 あいさつ

2 議 題

(1) 平塚市スポーツ推進計画の見直しについて 資料1

ア 平塚市スポーツ推進計画の中間見直しについて

(2) 平成31年度スポーツ課予算について 資料2

ア 補助金交付について

(3) 平成30年度スポーツ課事業について 資料3

ア 市民総合体育大会結果報告について

3 その他

4 閉会



第1章

第1章 計画の概要

1 計画策定の趣旨

(1) 計画策定の趣旨

都市化の進展や生活の利便性向上が図られるなどの社会・生活環境の変化は、市民に便利さをもたらす一方、運動不足という負の効果をもたらしています。また、生産年齢人口の減少や景気の低迷などに伴う業務の一層の迅速化、効率化が求められる経済・労働環境の変化は、働き手の精神的ストレスを増大させることに繋がっています。

我が国の総人口は平成20年(2008年)の1億2808万4000人をピークに減少し、少子高齢化が進んでいます。さらに、日本国民の平均寿命は大幅に延伸しているものの、平均寿命のうち日常生活で支援や介護を必要とせず、自立した生活を送れる期間を指す「健康寿命」と「平均寿命」の差は平成22年(2010年)には男性で9.13年、女性で12.68年の差があり、平成28年(2016年)には男性で8.84年、女性で12.35年の差になっています。今後、介護期間の長期化や生活習慣病¹を抱える人の増加などが見込まれることから、市民の一人ひとりが健康の保持増進のために継続的にスポーツに取り組む努力が必要となっています。また、社会の成熟化に伴い市民の価値観の多様化が進み、自由な時間や休日が多くゆとりある生活ができることを望む人が増えるなど、生活の質の向上や心の豊かさを求める傾向が高まっています。加えて、市民のライフスタイルの変化に伴い、スポーツのニーズも競技志向からレクリエーション²志向まで多様化しています。市民が体力や年齢、目的、身体状況に合わせて、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」といった様々な形でスポーツに参加できる環境を整えることが必要です。

さらに、核家族化や単身世帯の増加により、地域の間人関係が希薄になっていると言われる中、地域でのスポーツ活動を通じて、人と人とが交流を深めることは地域コミュニティを醸成し、地域活動の活性化につながると考えられます。

また、平成32年(2020年)に2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催されることに伴い、市民のスポーツに対する関心が高まることが期待され、2020年東京オリンピック・パラリンピックをきっかけにして、スポーツの推進に繋がる施策の展開も必要となります。

このような社会・生活環境の変化を踏まえ、市民のスポーツ活動を活性化するためには、行政だけでなく、スポーツ関係団体³、大学、トップスポーツ⁴などが連携・協働しながらスポーツ施策を推進することが必要です。

¹ 食生活や喫煙、飲酒、運動不足など生活習慣との関係が大きい病気のこと、癌、脳卒中、糖尿病などが含まれる。

² 仕事や勉強の疲れをいやすための休養や気分転換。またそのために行われる様々な活動のこと。

³ 平塚市体育協会、平塚市体育振興連絡協議会、平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚レクリエーション連盟、平塚市スポーツクラブ連合などの団体のこと。

⁴ プロスポーツを含むトップレベルのスポーツやトップアスリートのこと。

(2) スポーツの意義

スポーツには、勝利を得ることや記録や技能の向上を目的とした競技スポーツだけではなく、年齢や性別、障がいの有無などに関わらずそれぞれの状況に応じてスポーツを楽しむ生涯スポーツがあり、次のような意義を持つと考えられます。

ア スポーツを楽しむことは体力の向上だけではなく、満足感や喜び、爽快感をもたらすことから、市民の心身の健康の保持増進、生活の質の向上が図られ、市民がいつまでも元気でいきいきとした生活を送ることに寄与します。

イ スポーツは体力の向上とともに他人を思いやる心、フェアプレー精神や克己心を培うとともに、自ら学び、考える力を育むなど、青少年の健全育成に大きく寄与します。

ウ スポーツを通じた交流は、市民同士の交流を深めるとともに、地域コミュニティの醸成の一助となり、地域社会の活性化に効果を発揮します。

エ トップスポーツは、市民に誇りや喜び、夢や感動を与え、市民の活力を創出します。

このように生涯にわたってスポーツを楽しむことは、極めて大きな意義があります。市民の誰もが生涯にわたってスポーツを楽しみ、いつまでもいきいきとした生活を送ることができる社会の実現に向けて、本計画を策定します。

～本計画におけるスポーツの定義～

本計画では、スポーツを幅広く捉え、競技スポーツ、生涯スポーツ、学校体育⁵だけでなく、レベルや内容、目的に関わらず行う運動をスポーツとして扱うこととします。

なお、本計画では各課が行う事業の内容などに合わせ、「スポーツ」と「運動」の2つの表現を使用しています。

⁵ 学校の管理のもとで身体運動を用いて、計画的に行われる教育活動のこと。

2 計画策定の背景と中間年の見直し

(1) 見直しの趣旨と国等の動向

本市が取り組むスポーツ施策を示す「平塚市スポーツ推進計画」を平成 26 年 2 月に策定いたしましたが、本計画は、計画の進捗状況や国等の動きを踏まえた社会情勢の変化によっては、中間年で見直しを実施するものとしています。本計画の目標である「スポーツを楽しみ、健康で長寿のまち ひらつか」を実現するため、平成 30 年に改めて市民のスポーツの現状を把握するためのアンケートを実施し、また、本計画を推進していくための施策の見直しを行いました。

国では平成 23 年にスポーツ基本法が制定され、平成 24 年にはスポーツ基本法に基づき、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために、スポーツ基本計画が策定されました。スポーツ基本計画は同法の理念を具体化し、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となってスポーツ立国の実現を目指す上での重要な指針となるものです。平成 27 年にはスポーツ庁が設立され、スポーツ行政を総括的に推進することとしています。そして、平成 29 年には第 2 期スポーツ基本計画が策定されました。地方公共団体には、国民やスポーツ団体等のスポーツ活動を支援するため、第 2 期計画を参酌し、地域の特性や現場のニーズに応じたスポーツの施策を主体的に実施するとともに、健康増進、共生社会の実現、経済・地域の活性化など、スポーツを通じた活力ある社会づくりに関係部局・団体が一体となって取り組むことを期待するとしています。

神奈川県では、平成 16 年に神奈川県スポーツ振興指針「アクティブかながわ・スポーツビジョン」を策定、平成 23 年にはスポーツを通じて、健康で明るく豊かな生活を営んでいただくことを目指し改定しました。また、平成 28 年にはスポーツ関連施策を集約して、スポーツ行政をより効果的・一体的に推進するために新たにスポーツ局を設置しました。そして、県民のスポーツに対する機運を一過性のものとせず、県全体で確実にスポーツの推進を図り、誰もが生涯にわたりスポーツに親しむことができる地域社会を実現していくため、平成 29 年には「神奈川県スポーツ推進条例」に基づき、県民をはじめ、市町村やスポーツ関係団体などと連携・協働し、スポーツを推進するよう、県が総合的かつ計画的に取り組む施策を示した「神奈川県スポーツ推進計画」を策定しました。

本市では、平成 28 年にリトアニア共和国オリンピック委員会と、平成 30 年に同国パラリンピック委員会と事前キャンプに関する協定を締結しました。また、2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会開催に向け、国が推進するホストタウン事業⁶に伴い、同国の「ホストタウン」としての登録を受けており、様々な交流が実施されます。本市を取り巻く、スポーツ環境や社会環境も、2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会開催決定後から変化しています。こうした社会情勢の変化に対応するため、国等の動向も踏まえ、「平塚市スポーツ推進計画」の施策の中間年による見直しを実施いたしました。

スポーツを「する」「みる」「ささえる」といった多様な形で市民がスポーツに携わることで、本市のスポーツ参画人口を拡大し、「平塚市スポーツ推進計画」の目標である「スポーツを楽しみ、健康で長寿のまち ひらつか」を目指し、スポーツを通じた活力ある社会づくりを実現します。

⁶ 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、参加国等との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として登録する事業。

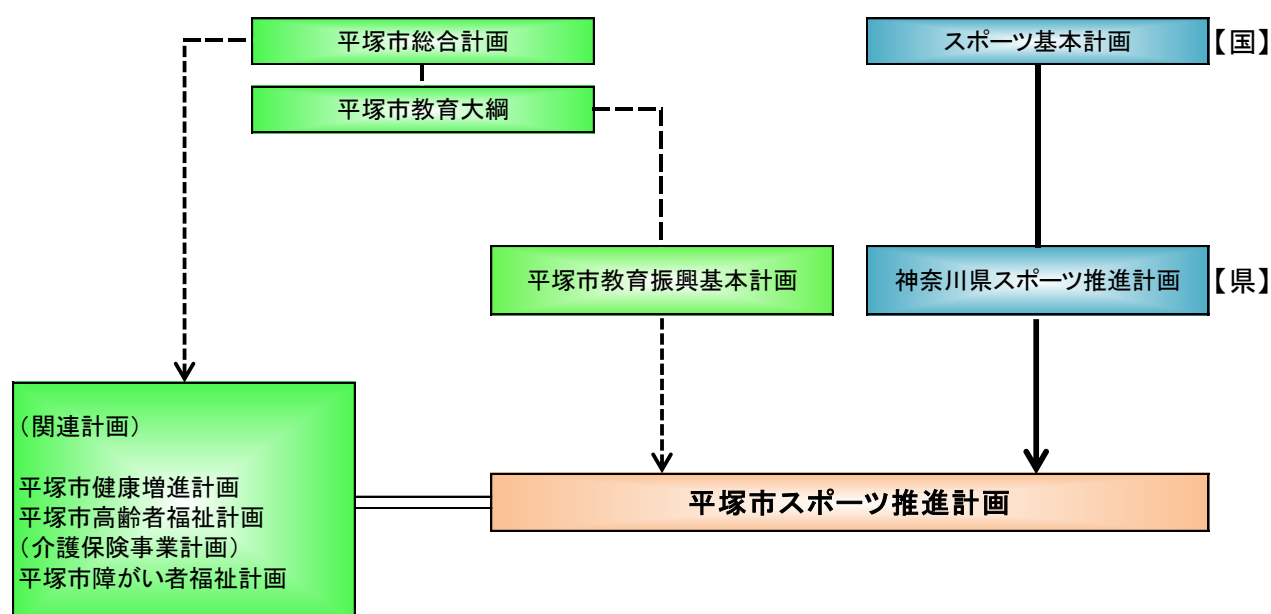
3 計画の位置づけ

本計画は、国のスポーツ基本法の目的・基本理念を踏まえ、同法第10条に規定する地方スポーツ推進計画として、「スポーツ基本計画」を参酌しながら、本市が取り組むスポーツ施策を示すものです。

さらに、「平塚市総合計画⁷」及び「平塚市教育振興基本計画⁸」「平塚市教育大綱⁹」を補完し、「生涯にわたる学習・スポーツ・レクリエーションを楽しむ環境を充実する」ために、市民、スポーツ関係団体、行政などが取り組む行動計画としての位置付けも有します。

その他に、「神奈川県スポーツ推進計画」を勘案して定めます。また、市民のスポーツを主体とした健康増進や疾病予防などの観点から、「平塚市健康増進計画¹⁰」、「平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画）¹¹」、「平塚市障がい者福祉計画¹²」との整合性も図ります。

図 1-1 平塚市スポーツ推進計画の位置づけ



⁷ 本市の行財政運営を総合的、計画的に進めるための基本となる指針を示した本市の最上位計画のこと。

⁸ 市民の学びをいかした生涯学習社会の実現を基本理念とした市の教育全体を包括する計画のこと。

⁹ 地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めたもの。

¹⁰ 生活習慣病予防に重点を置き、介護を必要とせず、健康で自立した生活を送ることができる期間の延伸や、生活の質の向上の実現を目指す計画のこと。

¹¹ 長寿社会を楽しみ、安心していきいきと暮らせるまちを目指す計画のこと。

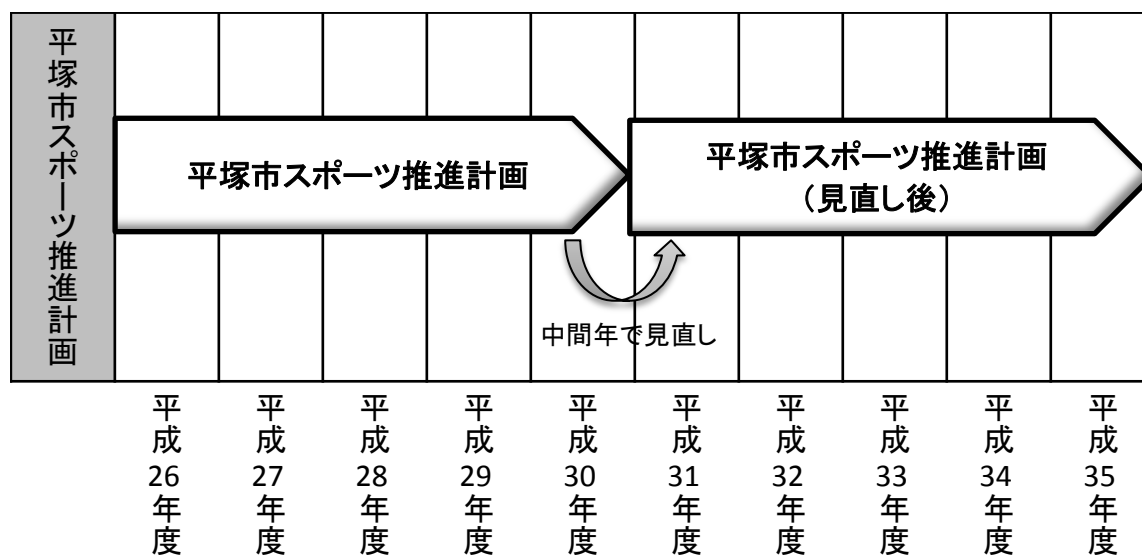
¹² 障がいのある人もない人も、ともにいきいきと生活するまちを目指す計画のこと。

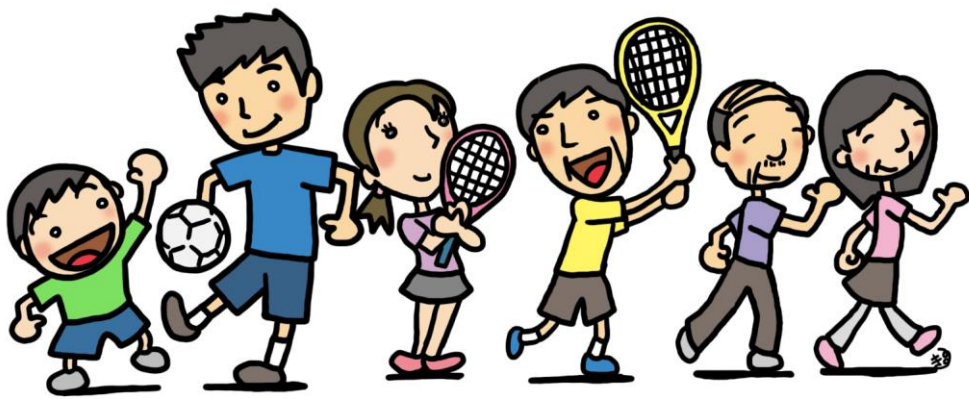
4 計画の期間

本計画の期間は、平成 26 年度から平成 35 年度までの 10 年間とし、中間年には計画の進捗状況を踏まえ、見直しを行います。

また、本計画の進捗状況や社会情勢などの変化によっては、必要に応じて見直しを行います。

図 1-2 計画の期間





第2章

第2章 現状と課題

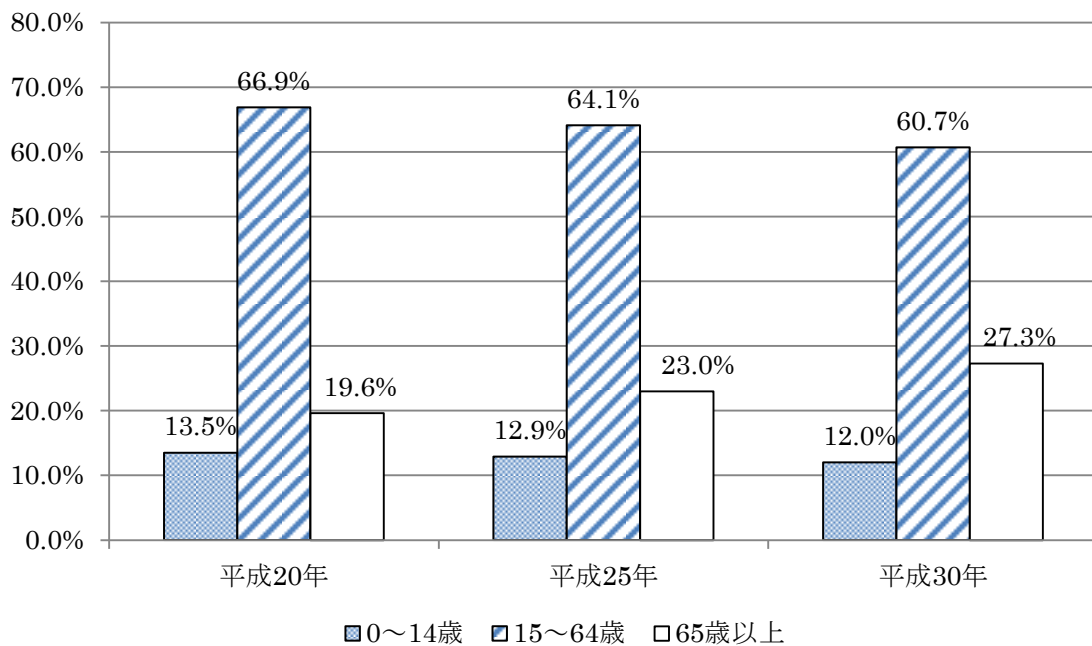
1 本市を取り巻く状況

(1) 人口の推移

本市の人口は、平成30年（2018年）1月1日時点で258,381人¹³、人口構成は年少人口（0～14歳）が12.0%の30,863人、生産年齢人口（15歳～64歳）が60.7%の155,692人、老年人口（65歳以上）が27.3%の70,004人となっています（図2-1）。今後、将来的に本市の人口は減少すると見込まれ、3区分別では、年少人口及び生産年齢人口は減少を続け、老年人口は増加し、少子高齢化が進むものと推測されます。

このことから、増加する高齢者、次代を担う子ども¹⁴たち、社会・経済の中心を担う勤労者世代が、それぞれの状況に応じてスポーツに取り組むことが大切です。

図2-1 年齢3区分別人口の推移



出典：平塚市資料

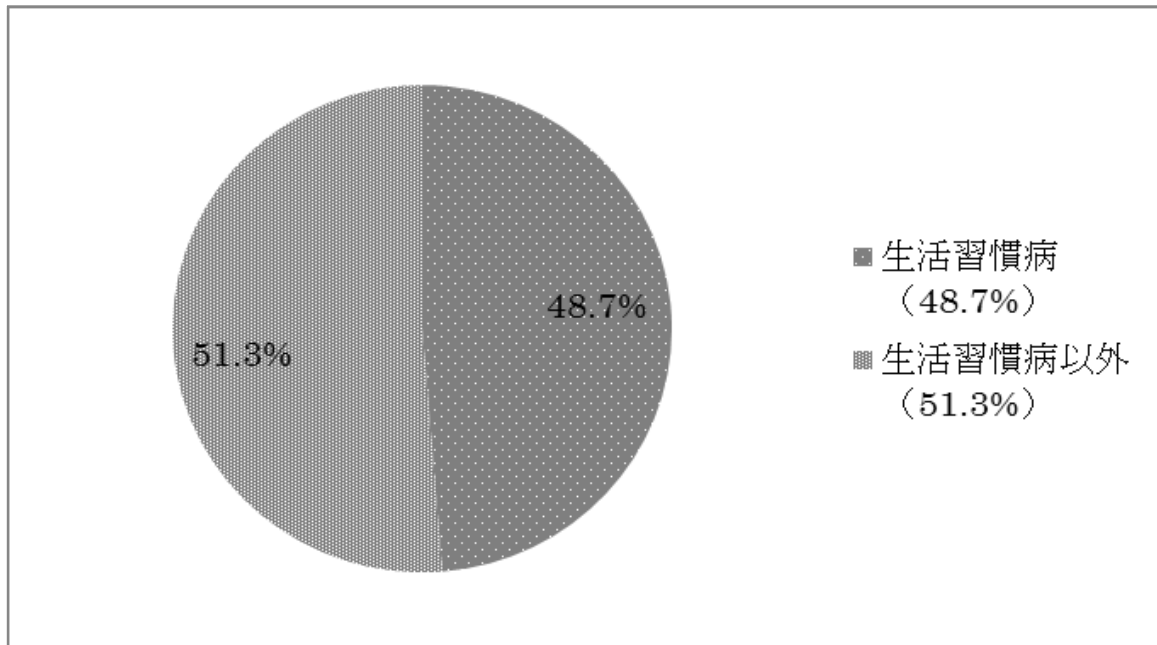
¹³ 平成30年（2018年）1月1日時点における住民基本台帳に登録された人口

¹⁴ このスポーツ推進計画では、「スポーツ基本計画」を参考とし、高校生までを子どもと定義する。

(2) 生活習慣病患者の割合

国民健康保険に加入している市民で病院を受診した人（40歳以上75歳未満）に占める生活習慣病患者の割合は、48.7%となっています（平成28年6月診療分のデータより）（図2-2）。生活習慣病の多くは不健全な生活の積み重ねが原因となって引き起こされるもので、健康や長寿の最大の阻害要因になると考えられています。

図2-2 受診者に占める生活習慣病患者の割合



出典：平塚市国民健康保険特定健康診査・特定保健指導実施計画（第3期）

(3) 要介護（要支援）認定者の状況

平成29年9月末日現在の要介護者数は10,932人です。そのうち、第1号被保険者認定者数は10,677人で認定率は15.37%です。また、高齢化の進行により要介護（要支援）認定者が高齢化人口に占める割合も増加が見込まれます（表2-1）。

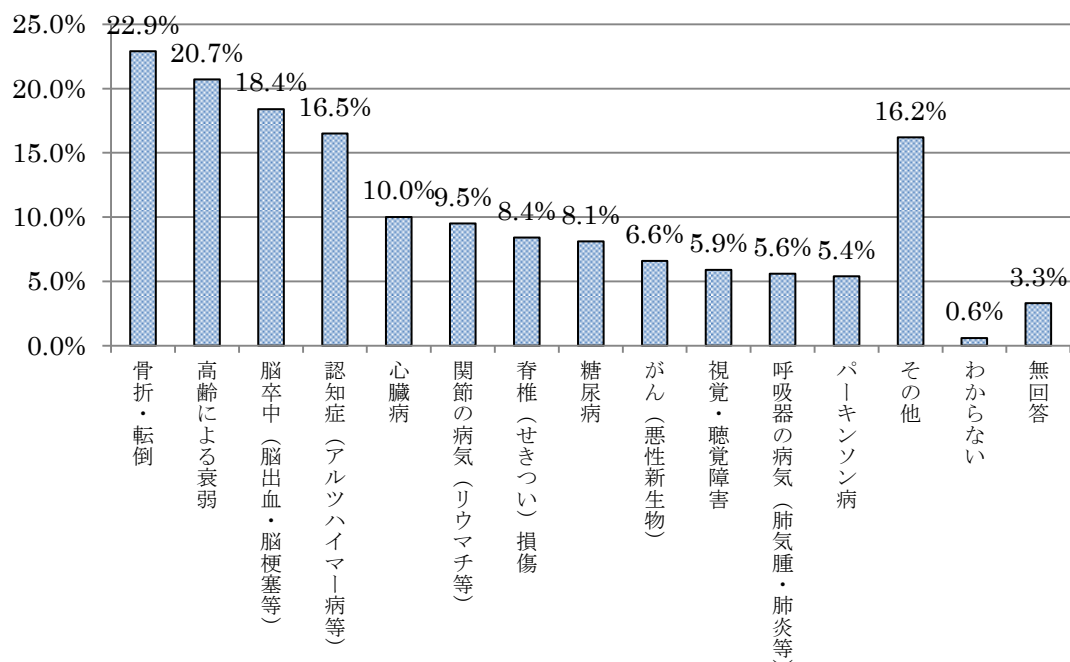
また、介護が必要となった主な原因は、1位が「骨折・転倒」、2位が「高齢による衰弱」、3位が「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」となっています（図2-3）。

表 2-1 要介護者等の状況（各年度9月末日現在）

	平成26年9月	平成27年9月	対前年比	平成28年9月	対前年比	平成29年9月	対前年比
要介護者数(総数)	9,875	10,341	104.7%	10,659	103.1%	10,932	102.6%
要支援1	1,096	1,211	110.5%	1,255	103.6%	1,233	98.2%
要支援2	1,109	1,096	98.8%	1,115	101.7%	1,100	98.7%
要介護1	1,832	2,028	110.7%	2,144	105.7%	2,351	109.7%
要介護2	1,898	1,941	102.3%	2,069	106.6%	2,142	103.5%
要介護3	1,400	1,475	105.4%	1,491	101.1%	1,543	103.5%
要介護4	1,363	1,369	100.4%	1,407	102.8%	1,399	99.4%
要介護5	1,177	1,221	103.7%	1,178	96.5%	1,164	98.8%
第1号被保険者認定者数	9,588	10,055	104.9%	10,377	103.2%	10,677	102.9%
要支援1	1,078	1,196	110.9%	1,234	103.2%	1,217	98.6%
要支援2	1,077	1,067	99.1%	1,086	101.8%	1,071	98.6%
要介護1	1,788	1,977	110.6%	2,083	105.4%	2,298	110.3%
要介護2	1,834	1,876	102.3%	2,014	107.4%	2,088	103.7%
要介護3	1,358	1,428	105.2%	1,455	101.9%	1,506	103.5%
要介護4	1,326	1,335	100.7%	1,377	103.1%	1,372	99.6%
要介護5	1,127	1,176	104.3%	1,128	95.9%	1,125	99.7%
第1号被保険者認定率	15.00%	15.20%	101.3%	15.27%	100.5%	15.37%	100.7%
要支援1	1.69%	1.81%	107.1%	1.82%	100.6%	1.75%	96.2%
要支援2	1.69%	1.61%	95.3%	1.60%	99.4%	1.54%	96.3%
要介護1	2.80%	2.99%	106.8%	3.06%	102.3%	3.31%	108.2%
要介護2	2.87%	2.84%	99.0%	2.96%	104.2%	3.01%	101.7%
要介護3	2.12%	2.16%	101.9%	2.14%	99.1%	2.17%	101.4%
要介護4	2.07%	2.02%	97.6%	2.03%	100.5%	1.98%	97.5%
要介護5	1.76%	1.78%	101.1%	1.66%	93.3%	1.62%	97.6%
第1号被保険者数	63,910	66,165		67,978		69,445	

出典：平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画第7期）

図 2-3 介護が必要になった主な原因



出典：平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画第7期）

2 本市を取り巻くスポーツ環境

(1) スポーツ関係団体の存在

本市には、平塚市体育協会、平塚市体育振興連絡協議会、平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚レクリエーション連盟、平塚市スポーツクラブ連合などのスポーツ団体が様々な活動を行い、本市のスポーツ活動の活性化を図っています。

ア 平塚市体育協会

平塚市体育協会は、市民及び各団体の体育の普及・発展に寄与することを目的に、昭和 25 年（1950 年）に発足しました。現在、27 の団体が加盟しており、市民総合体育大会¹⁵を始めとした各種スポーツ大会の競技運営や本市スポーツ選手の競技力強化、スポーツ指導者に対する講習会を行うなど、本市スポーツの振興に努めています（表 2-2）。

表 2-2 平塚市体育協会加盟団体（27 団体）

卓球協会	市野球協会	ソフトテニス協会
自転車協会	陸上競技協会	柔道協会
バレーボール協会	山岳協会	剣道連盟
射撃協会	水泳協会	空手道連盟
バスケットボール協会	ソフトボール協会	スキー協会
体操協会	テニス協会	バドミントン協会
サッカー協会	弓道協会	ボウリング協会
なぎなた協会	ヨット協会	ゲートボール協会
ゴルフ協会	太極拳協会	ラグビーフットボール協会

イ 平塚市体育振興連絡協議会

平塚市体育振興連絡協議会は、地区体育振興にかかわる連絡調整ならびに研修活動を図り、もって地区体育の普及・発展を図ることを目的に昭和 37 年（1962 年）に発足しました。市内 24 地区に体育振興会が設けられており、それぞれの地区でスポーツイベントなどを実施することで、スポーツの普及に努めています（表 2-3）。

表 2-3 平塚市体育振興連絡協議会地区体育振興会一覧（24 地区）

崇善地区	港地区	花水地区	松原地区	富士見地区	神田地区
岡崎地区	金目地区	中原地区	豊田地区	金田地区	城島地区
土屋地区	吉沢地区	南原地区	横内地区	なでしこ地区	真土地区
四之宮地区	八幡地区	松が丘地区	旭南地区	旭北地区	大神地区

¹⁵ スポーツを愛好する多くの市民にスポーツ活動の機会を与え、スポーツを通じて健康明朗な心身の育成を図るとともに、地域住民相互の親睦を図ることを目的に開催される市民のスポーツの祭典。市内 24 地区対抗で各種目の総得点を競う正式種目が 16 種目、19 競技、得点対象外の公開種目が 6 種目で行われている。

ウ 平塚市スポーツ推進委員協議会

平塚市スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に基づき教育委員会より委嘱される非常勤公務員で、教育委員会から推薦を受けた委員や小学校区を単位とした全 28 地区から推薦を受けた委員によって構成されています。それぞれのスポーツ推進委員が各地区におけるスポーツ振興のための助言や協力などを行っています。また、スポーツの推進に関する関係機関との連絡調整やスポーツ推進委員の資質向上を図ることなどを目的とし、平塚市スポーツ推進委員協議会を設けています(表 2-4)。

表 2-4 平塚市スポーツ推進委員地区割一覧 (28 地区)

崇善地区	港地区	松原地区	富士見地区	花水地区
旭地区	松延地区	勝原地区	山下地区	四之宮地区
真土地区	八幡地区	中原地区	南原地区	豊田地区
神田地区	大神地区	横内地区	城島地区	岡崎地区
金田地区	土屋地区	吉沢地区	金目地区	みずほ地区
なでしこ地区	松が丘地区	大原地区		

エ 平塚レクリエーション連盟

平塚レクリエーション連盟は市内のレクリエーション団体相互の連絡を図るとともに、健康で明るい郷土の建設と豊かな市民生活の向上に寄与することを目的に、昭和 51 年 (1976 年) に発足しました。現在、4 つの団体が加盟しており、それぞれの団体がレクリエーションの普及に努めています(表 2-5)。

表 2-5 平塚レクリエーション連盟加盟団体一覧 (4 団体)

平塚ママさんバレーボール協会	平塚市女性卓球連盟
平塚フォークダンス協会	平塚レクリエーション協会

オ 平塚市スポーツクラブ連合

平塚市スポーツクラブ連合はスポーツクラブの育成及び相互の連絡調整、情報交換を通して生涯スポーツの一層の普及振興を目的に、昭和 62 年 (1987 年) に発足しました。現在、4 種目が加盟しており、子どものスポーツを中心とした地域スポーツの推進を図っています(表 2-6)。

表 2-6 平塚市スポーツクラブ連合加盟種目一覧 (4 種目)

野球	サッカー	バレーボール	剣道
----	------	--------	----

(2) 大学の存在

本市には、理工系から情報系、社会・人文科学、そしてスポーツまで、文理融合型総合大学ならではの多様な 11 学部、大学院が併設された湘南キャンパスを置く東海大学と、横浜、湘南ひらつかにキャンパスをもち、7 学部 20 学科 2 プログラム及び大学院 9 研究科を有する神奈川大学があります。大学が有する専門的知識や優れた人材を活用できる環境が充実しています。



東海大学

東海大学



神奈川大学

(3) プロスポーツチームの存在

本市では、本市にホームスタジアムを置く湘南ベルマーレ¹⁶を始め、横浜 DeNA ベイスターズ¹⁷、横浜ビー・コルセアーズ¹⁸がホームゲームを開催しており、トップスポーツに触れる機会が充実しています。



湘南ベルマーレ



横浜 DeNA ベイスターズ



横浜ビー・コルセアーズ

¹⁶ 日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）に加盟する Jクラブの 1つ。平塚市を含む 9 市 11 町をホームタウンとする。

¹⁷ 日本プロ野球球団の 1つ。バッティングパレス相石スタジアムひらつかで 2 軍戦を年間約 20 試合を行う。

¹⁸ 日本プロバスケットボールリーグ（Bリーグ）に所属するチームの 1つ。トッケイセキュリティ平塚総合体育館で年間約 5 試合を行う。

3 本市のスポーツの現状と課題

本市では、広く市民の意見・要望を把握し、今後のスポーツ政策の参考にすることを目的に、平成24年（2012年）6月に20歳から79歳までの市民の中から無作為で抽出した3,000人を対象に「平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査」（有効回答数1,066人、回答率35.5%）を実施しました。また、市民のスポーツに関する意識、スポーツ実施状況及び変化を把握するために平成30年（2018年）4月に改めて同調査（有効回答数1,098人、回答率36.6%）を実施しました。ここでは、本調査の結果を中心に各種調査や統計を参考にしながら、本市のスポーツの現状を、「する」「みる」「ささえる」といったスポーツの係わり方について3つの視点で分析するとともに、スポーツの実践に欠かせない「施設」や「情報」について分析しました。

(1) 「する」スポーツの現状と課題

ア 子どものスポーツ

「平成29年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査」によると、神奈川県の子どもの体力・運動能力は、新体力テスト¹⁹の各テスト項目の合計点の平均値を全国平均値と比較すると、すべての年齢において下回っています（図2-4）。週1日以上運動・スポーツの実施状況では、すべての年齢で女子よりも男子の方が実施頻度は高く、男子は15歳以降、女子は12歳以降から運動をしていない割合が増加しています（図2-5）（図2-6）。

平塚市の6歳～17歳の運動・スポーツの実施状況では男子も女子も運動の頻度が高い人の方が運動の頻度が低い人に比べて点数が高いことがわかります。（図2-7）（図2-8）。また、運動部・スポーツクラブに加入している生徒ほど体力が高い傾向があります。

また、本市の児童生徒数に占める少年少女スポーツ大会・スポーツ教室参加者数の割合は、平成29年度には13.2%となっています（図2-9）。

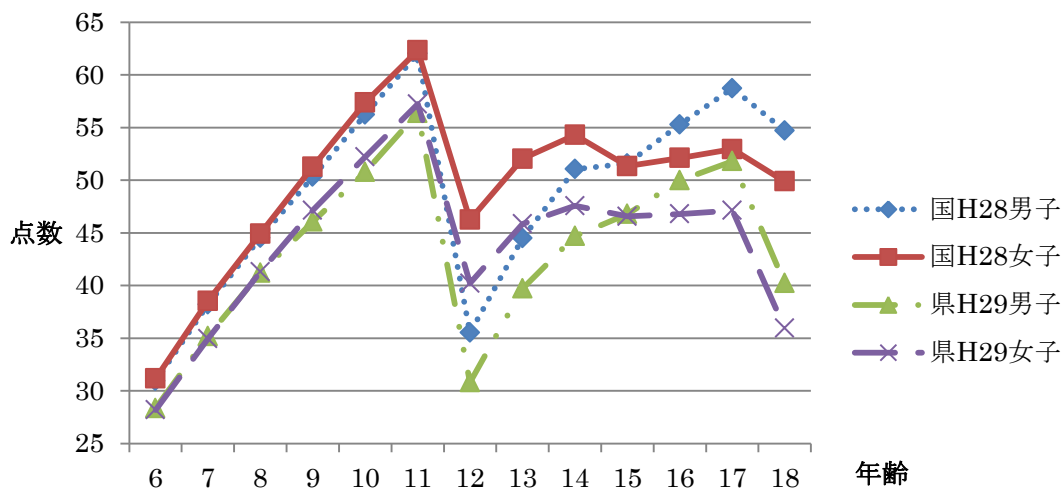
¹⁹ スポーツ庁が6～79歳までの男女を対象に体力・運動能力を調査するため行う体力テスト。6～11歳（小学生）、12～19歳（青少年）のテスト項目は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン（12～19歳は20mシャトルランと持久走を選択実施）、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ（12～19歳はハンドボール投げ）で、項目別の記録を得点化して、その合計を総合評価基準表によりA～Eの5段階で総合評価をする。

総合評価基準表

段階	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
A	39≧	47≧	53≧	59≧	65≧	71≧	51≧	57≧	60≧	61≧	63≧	65≧	65≧	65≧
B	33~38	41~46	46~52	52~58	58~64	63~70	41~50	47~56	51~59	52~60	53~62	54~64	54~64	54~64
C	27~32	34~40	39~45	45~51	50~57	55~62	32~40	37~46	41~50	41~51	42~52	43~53	43~53	43~53
D	22~26	27~33	32~38	38~44	42~49	46~54	22~31	27~36	31~40	31~41	31~42	31~42	31~42	31~42
E	21≦	26≦	31≦	37≦	41≦	45≦	21≦	26≦	30≦	30≦	30≦	30≦	30≦	30≦

運動頻度の増加は子どもの体力向上に繋がることから、子どものスポーツを楽しむ習慣やスポーツへの意欲を高めることが必要です。子どもの体力向上のため、スポーツに取り組む機会や、学校体育や運動部活動を充実することが求められます。

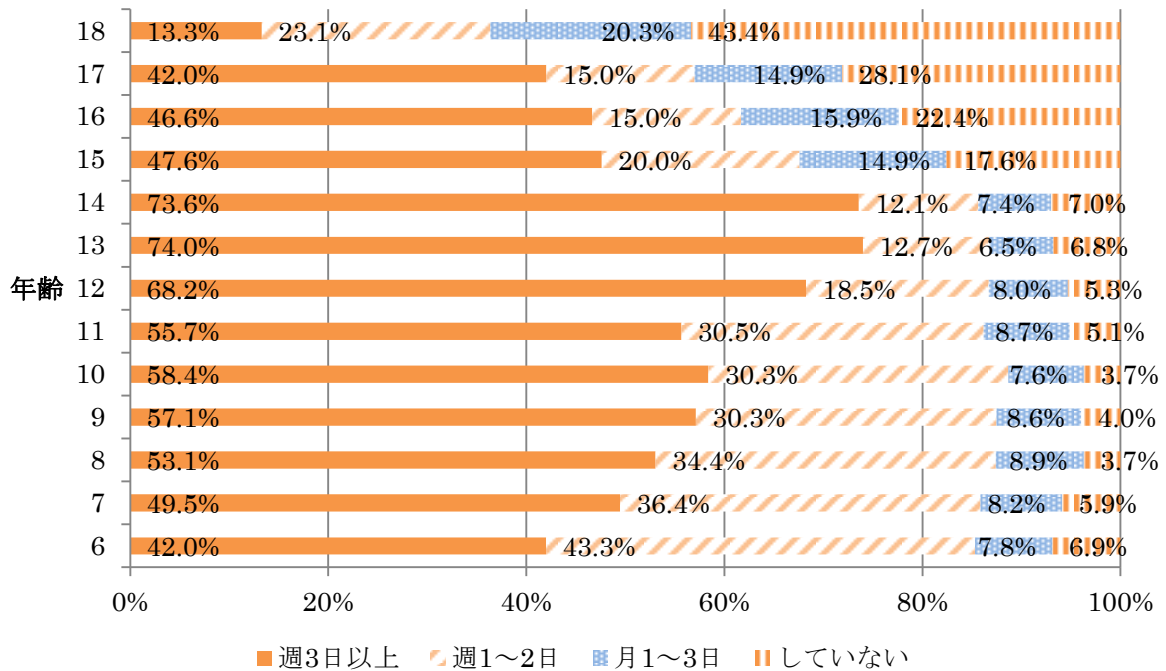
図 2-4 児童生徒の体力・運動能力の平均値（合計得点）



出典：平成 29 年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査

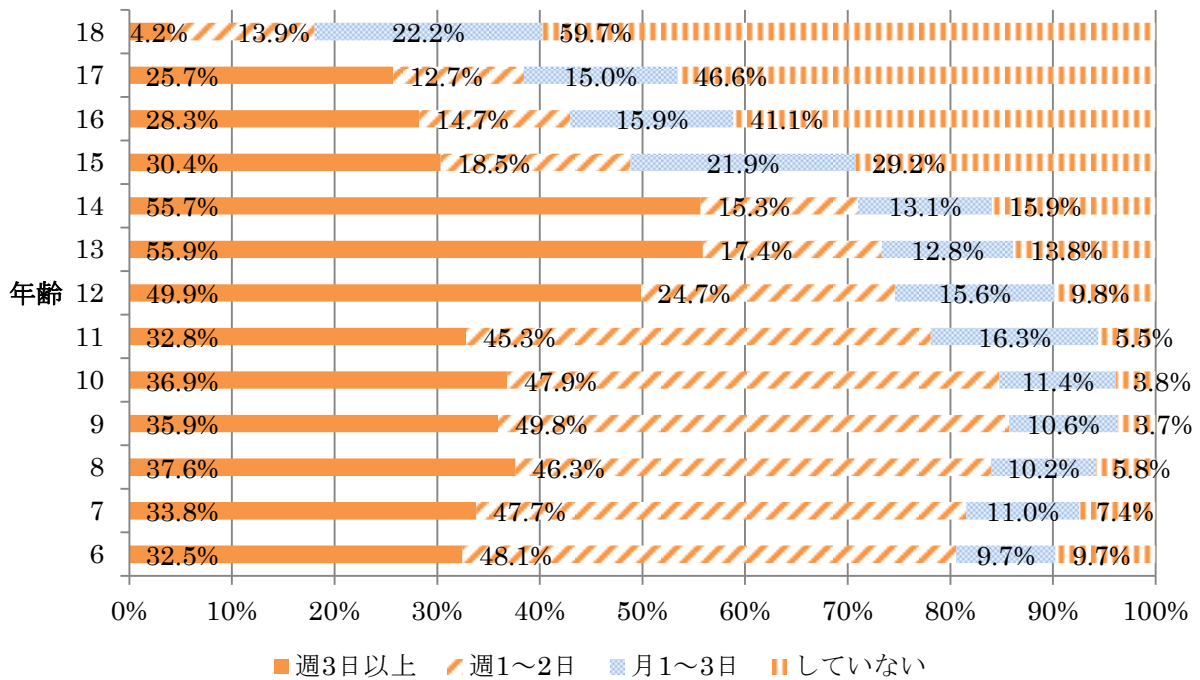


図 2-5 運動・スポーツの実施状況（男子）



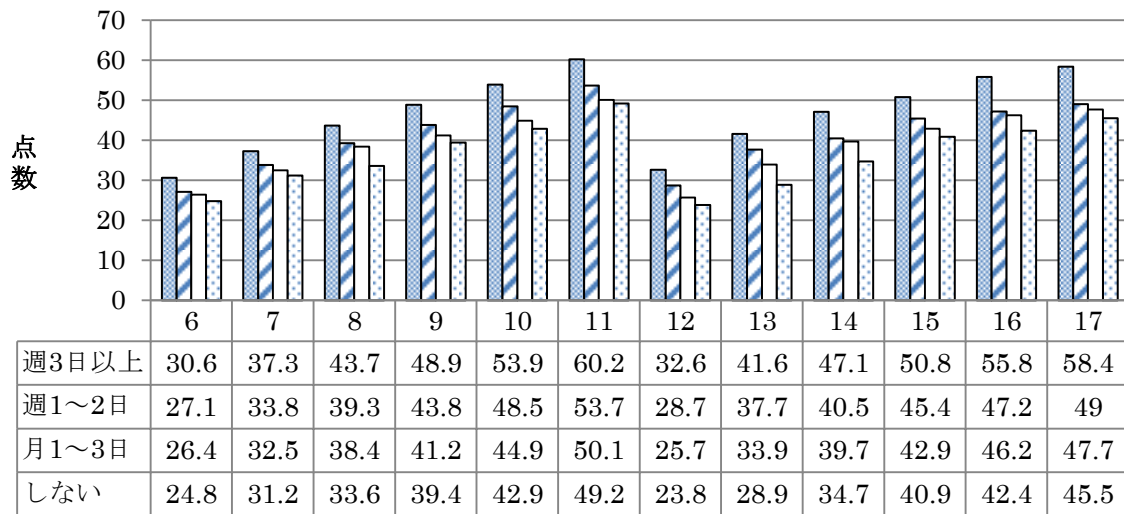
出典：平成 29 年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査

図 2-6 運動・スポーツの実施状況（女子）



出典：平成 29 年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査

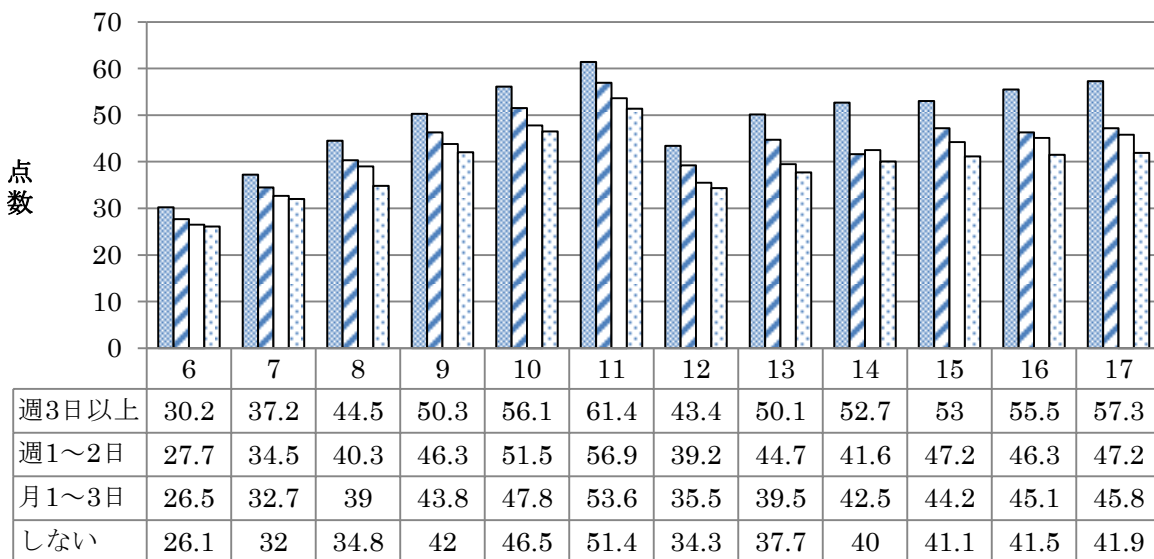
図 2-7 平塚市の 6 歳～17 歳の運動・スポーツの実施状況 (男子)



■週3日以上 □週1～2日 □月1～3日 □しない (下表：総合評価基準表を参照)

出典：平成 29 年度全国体力・運動能力調査、運動習慣調査 平塚市教育委員会 スポーツ課にて加工

図 2-8 平塚市の 6 歳～17 歳の運動・スポーツの実施状況 (女子)



(下表：総合評価基準表を参照)

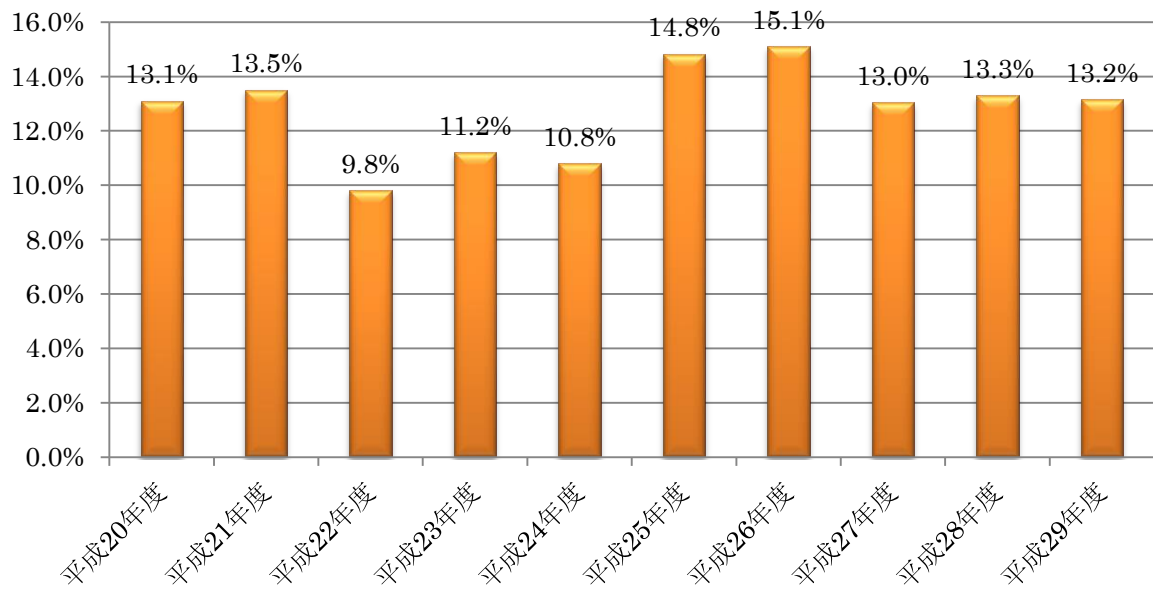
■週3日以上 □週1～2日 □月1～3日 □しない

出典：平成 29 年度全国体力・運動能力調査、運動習慣調査 平塚市教育委員会 スポーツ課にて加工

総合評価基準表 (段階 A～E は、新体力テストの各テスト項目の得点を合計した総合評価)

段階	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	13 歳	14 歳	15 歳	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳
A	39≥	47≥	53≥	59≥	65≥	71≥	51≥	57≥	60≥	61≥	63≥	65≥	65≥	65≥
B	33~38	41~46	46~52	52~58	58~64	63~70	41~50	47~56	51~59	52~60	53~62	54~64	54~64	54~64
C	27~32	34~40	39~45	45~51	50~57	55~62	32~40	37~46	41~50	41~51	42~52	43~53	43~53	43~53
D	22~26	27~33	32~38	38~44	42~49	46~54	22~31	27~36	31~40	31~41	31~42	31~42	31~42	31~42
E	21≤	26≤	31≤	37≤	41≤	45≤	21≤	26≤	30≤	30≤	30≤	30≤	30≤	30≤

図 2-9 本市の児童生徒に占める少年少女スポーツ大会・スポーツ教室の参加者数の割合



イ 成人のスポーツ

本市における成人の週1回以上のスポーツ実施率は55.4%となっており、国の51.5%と県の42.2%と比較すると高くなっています。しかしながら、平成24年度に実施したアンケート調査時の54.1%から上昇したものの、計画指標の平成30年度の目標値56.1%にはわずかながら届いていません。年代別でみると、20歳代から40歳代の週1回以上のスポーツ実施率が低くなっています（図2-10）。また、本市におけるスポーツ未実施率は、国の25.9%、県の24.3%よりは低く、21.2%となっていますが、平成24年度に実施したアンケート調査時の17.2%より高くなっており、（図2-11）スポーツ実施者と未実施者の二極化の傾向がうかがえます。

「スポーツをしていない理由」では、「仕事（家事・育児を含む）が忙しいから」が48.7%と最も高く、年代別では30歳代で70%を超えており、仕事や育児などが忙しくスポーツに取り組む時間がないことがうかがえます（表2-7）。

国民健康保険に加入している市民で病院を受診した人（40歳以上75歳未満）に占める生活習慣病の割合は、受診者全体の48.7パーセントで受診者全体の約半数を占めています（P.9 図2-2）。運動・スポーツをすることで生活習慣病を予防できることから、スポーツに取り組むことの意義を啓発することが必要です。

また、運動習慣のない市民にとって、運動・スポーツを始めるきっかけとなりそうなものとして挙げられた回答をみると、1位が「自宅から近距離（徒歩圏）に運動できる場所や施設の整備」、2位が「健康意識（ダイエット含む）への啓発」、3位が「仲間、家族などからの誘い」でした（図2-12）。同じ目的を持つ仲間がいることは、継続してスポーツを行う理由の一つとなることから、一緒にスポーツに取り組む仲間づくりが必要です。

1年間に行った運動・スポーツとして挙げられた回答をみると、1位が「ウォーキング」、2位が「体操（ストレッチ・ラジオ体操・縄跳びを含む）」、3位が「サイクリング」、4位が「室内運動器具（ダンベル等）を使用した運動」でした（図 2-13）。また、今後行いたい運動・スポーツとして挙げられた回答をみると、1位が「ウォーキング」、2位が「体操（ストレッチ・ラジオ体操・縄跳びを含む）」、3位が「水泳」、4位が「室内運動器具（ダンベル等）を使用した運動」でした（図 2-14）。いずれの回答にも「ウォーキング」「体操（ストレッチ・ラジオ体操・縄跳びを含む）」「室内運動器具（ダンベル等）を使用した運動」が上位に挙がっており、これらのスポーツの関心が高いことがうかがえます。また、これらは個人でもできる取り組みやすい運動です。年代別でも回答率が高く、特に高齢世代で最も高い回答率になっています（表 2-8）。そして、スポーツをしていないと回答した人で今後行いたい運動に「ウォーキング」「体操（ストレッチ・ラジオ体操・縄跳び含む）」「室内運動器具（ダンベル等）を使用した運動」を選択した割合も高くなっています（図 2-15）。「ウォーキング」等の取り組みやすい運動の回答率が高いことは、スポーツ未実施者にとっても、日常的運動習慣への関心が高い結果といえます。日常的運動習慣への関心が高いにも関わらず、スポーツ未実施率が増加している現状に対して、各世代が置かれている状況に合ったスポーツをする機会を提供するかが重要になります。

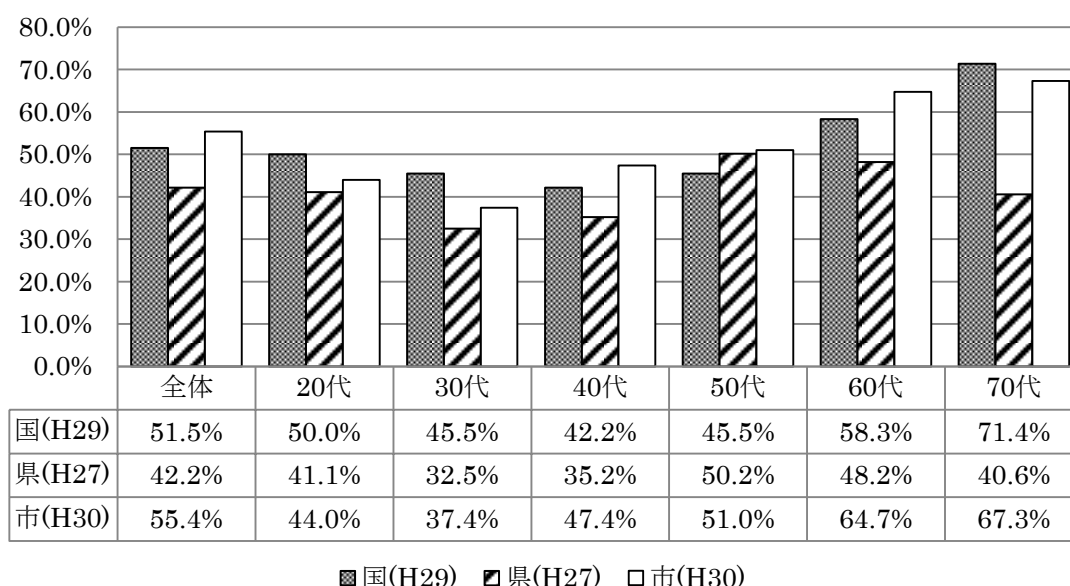
総合型地域スポーツクラブ について聞いたところ、「知らない」と答えた人が 72.9%でした（図 2-16）。また、総合型地域スポーツクラブに望むことや又はどのようなクラブなら参加するかでは、「安価な料金設定・明瞭な料金体系である」が 47.5%、「安心・安全に配慮し親しみやすい組織運営がされている」が 34.6%で高くなっています（図 2-17）。本市には港スポーツクラブ、NPO 法人湘南ベルマーレススポーツクラブ、NPO 法人トータルライフサポートクラブの 3つの総合型地域スポーツクラブがあります。まずは地域に密着した総合型地域スポーツクラブの存在が明確になることが重要ですが、身近な地域でスポーツに継続的に楽しむことが必要です。

本市のスポーツ振興に期待することを聞いたところ、1位が「年齢層にあったスポーツの普及活動」でした（図 2-18）。年齢に合わせて、いつまでもスポーツを楽しみたいと考えていることがうかがえます。

（公財）平塚市まちづくり財団が行っているスポーツ教室の参加者数をみると、平成 29 年度にはおよそ 9,297 人が参加しており、その数は増加傾向にあることから（図 2-19）、継続してスポーツ教室を充実させる必要があります。

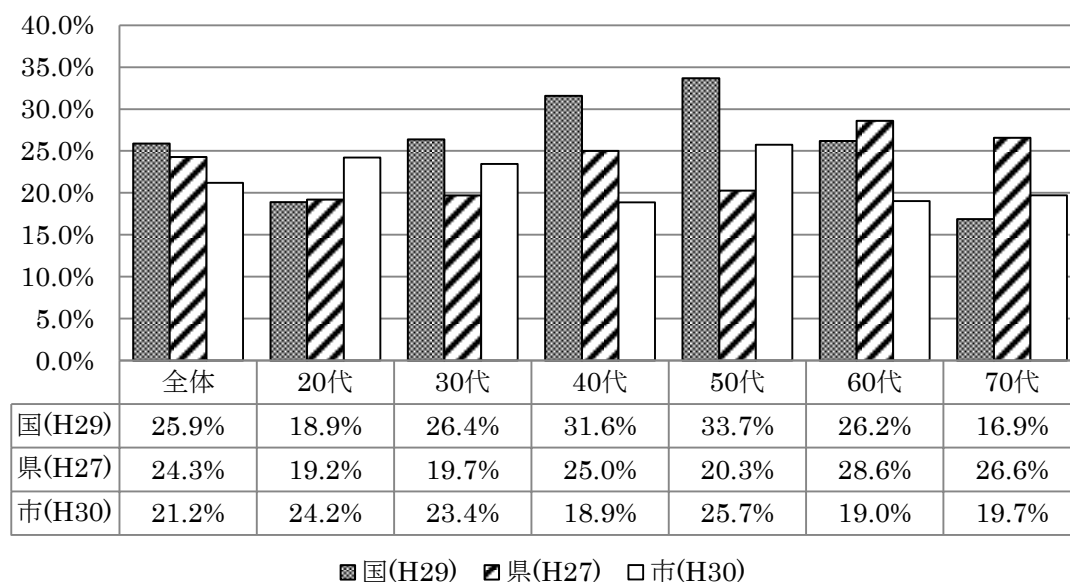
市民が継続的にスポーツに取り組むことで健康保持増進を図ることができるよう、また、楽しみながらスポーツに取り組めるよう工夫しながら、それぞれの興味・関心に応じて積極的にスポーツに取り組む機会を充実することが求められます

図 2-10 週 1 回以上のスポーツ実施率



出典：平成 29 年度スポーツに関する世論調査、平成 27 年度県民の体力・スポーツに関する調査、平成 30 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査 スポーツ課にて加工

図 2-11 スポーツ未実施率



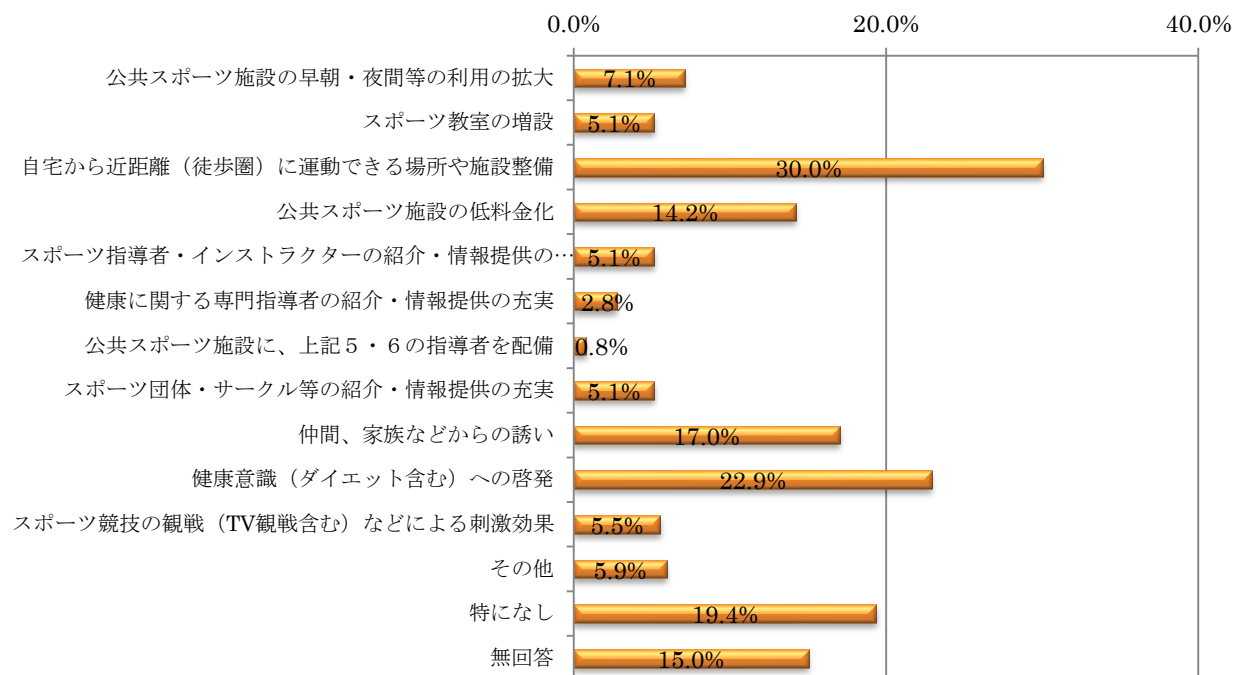
出典：平成 29 年度スポーツに関する世論調査、平成 27 年度県民の体力・スポーツに関する調査、平成 30 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査 スポーツ課にて加工

表 2-7 スポーツをしていない理由

項目 属性	仕事が忙しい	体力がない	歳を取った	場所や施設がない	施設が利用しづらい	仲間がない	指導者がいない	補助者・介護者がいない	お金がかかる	運動・スポーツが嫌い	スポーツをする機会がない	その他	特になし	無回答	
全体	48.7%	16.7%	9.8%	5.1%	6.4%	13.2%	0.4%	0.4%	14.5%	10.3%	35.0%	12.4%	10.7%	1.7%	
性別 年代別	男性	35.1%	16.9%	10.4%	2.6%	6.5%	18.2%	0.0%	0.0%	11.7%	9.1%	32.5%	10.4%	15.6%	2.6%
	女性	54.0%	16.7%	9.3%	6.0%	6.7%	11.3%	0.7%	0.7%	16.7%	10.7%	36.7%	13.3%	8.0%	1.3%
	20代	56.5%	21.7%	4.3%	8.7%	4.3%	26.1%	0.0%	0.0%	21.7%	30.4%	47.8%	4.3%	4.3%	4.3%
	30代	73.5%	2.9%	0.0%	8.8%	8.8%	23.5%	0.0%	0.0%	20.6%	14.7%	58.8%	0.0%	2.9%	0.0%
	40代	56.7%	16.7%	6.7%	3.3%	3.3%	16.7%	0.0%	0.0%	26.7%	3.3%	36.7%	3.3%	10.0%	0.0%
	50代	52.3%	6.8%	2.3%	9.1%	9.1%	11.4%	0.0%	2.3%	13.6%	2.3%	47.7%	13.6%	6.8%	0.0%
	60代	40.4%	19.1%	10.6%	2.1%	8.5%	6.4%	0.0%	0.0%	12.8%	12.8%	25.5%	17.0%	17.0%	4.3%
	70代	30.4%	28.6%	25.0%	1.8%	3.6%	7.1%	1.8%	0.0%	3.6%	7.1%	12.5%	23.2%	16.1%	1.8%

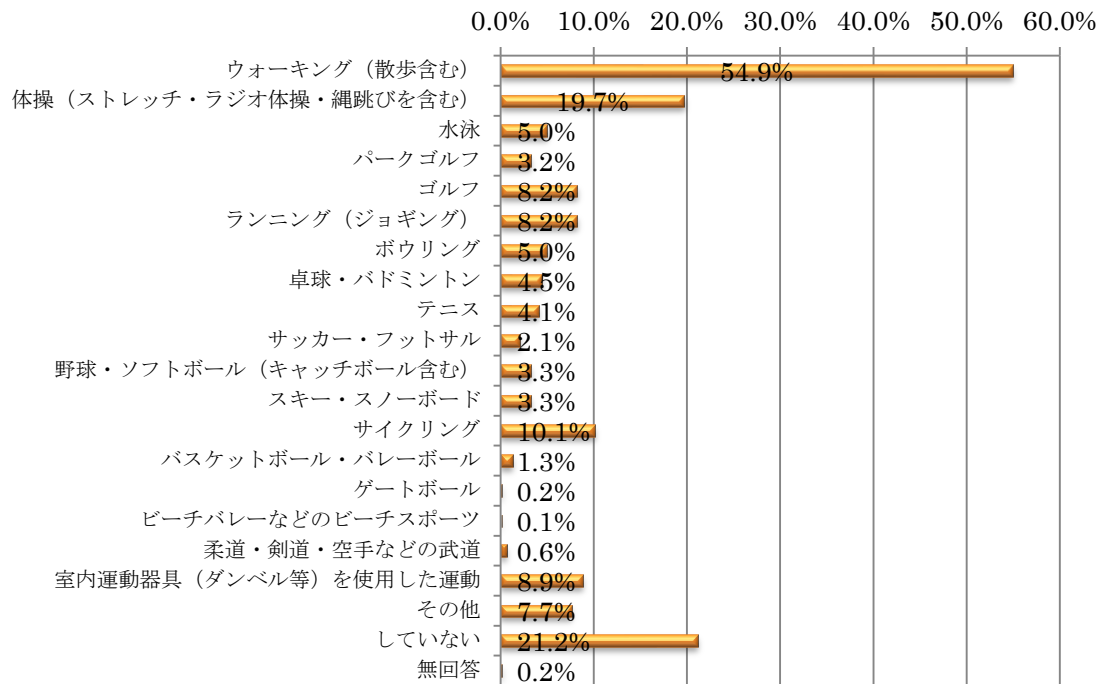
出典：平成 30 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-12 運動・スポーツを始めるきっかけとなりそうなもの



出典：平成 30 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-13 1年間で30分以上行った運動・スポーツ



出典：平成 30 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-14 今後行いたい運動・スポーツ

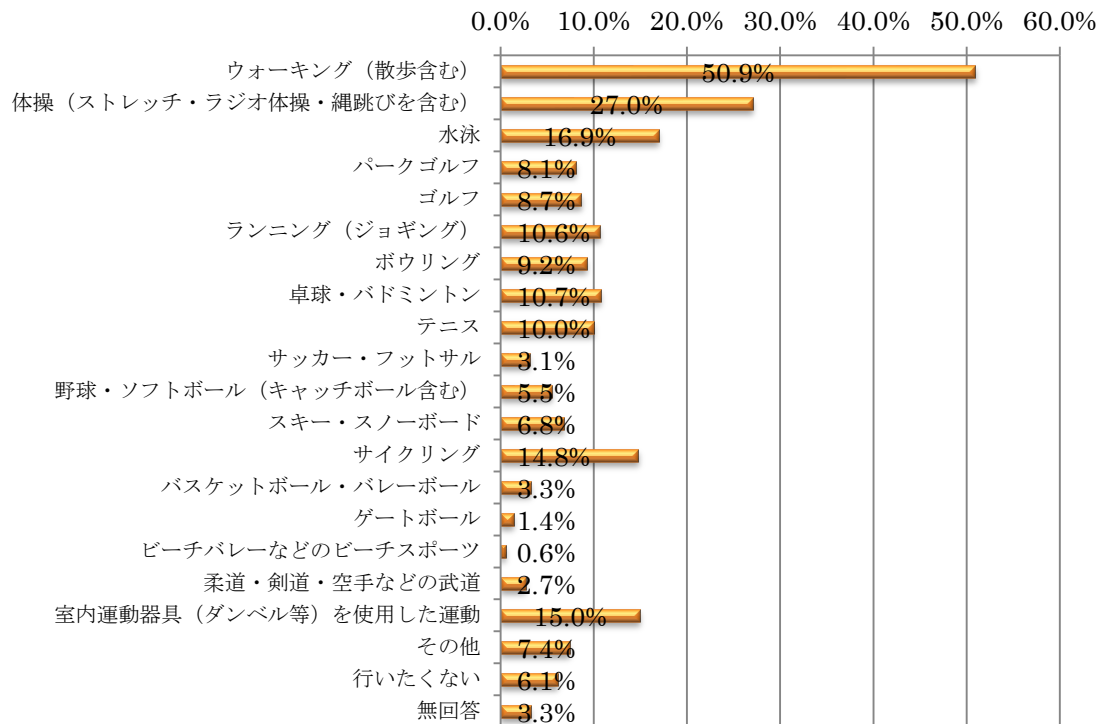
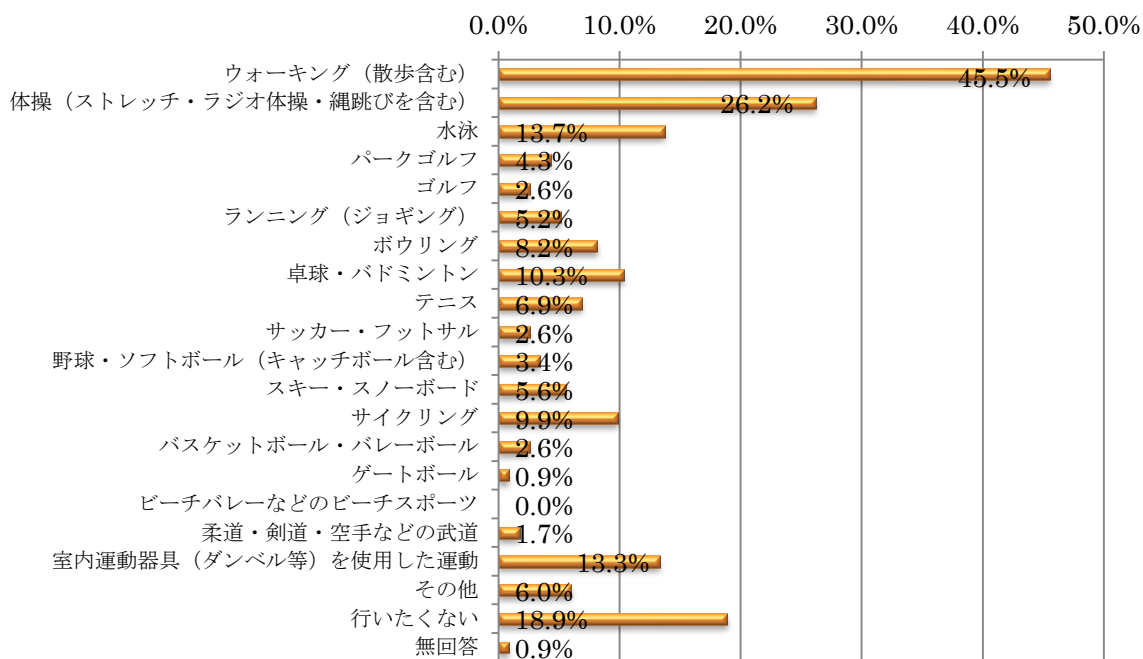


表 2-8 今後行いたい運動・スポーツ（年代別）

属性	項目	ウォーキング	体操	水泳	パークゴルフ	ゴルフ	ランニング	ボウリング	卓球・バドミントン	テニス	サッカー・フットサル	野球・ソフトボール
	全体		50.9%	27.0%	16.9%	8.1%	8.7%	10.6%	9.2%	10.7%	10.0%	3.1%
性別 年代別	男性	46.9%	14.6%	14.4%	10.2%	14.6%	12.5%	7.4%	8.3%	8.7%	5.5%	11.0%
	女性	53.8%	38.2%	18.0%	6.0%	3.6%	9.3%	10.4%	12.7%	11.3%	0.9%	0.9%
	20代	22.3%	18.1%	21.3%	2.1%	8.5%	14.9%	10.6%	17.0%	21.3%	4.3%	2.1%
	30代	33.6%	20.3%	25.2%	1.4%	7.0%	18.2%	8.4%	12.6%	13.3%	13.3%	9.8%
	40代	49.0%	22.6%	24.5%	5.2%	11.0%	14.2%	7.1%	7.7%	12.9%	5.2%	5.2%
	50代	48.8%	30.4%	19.6%	7.1%	7.7%	12.5%	8.9%	13.1%	14.3%	0.6%	7.1%
	60代	59.7%	28.4%	13.6%	12.7%	8.1%	4.7%	11.0%	11.9%	7.6%	0.4%	5.9%
70代	64.8%	33.3%	8.0%	12.1%	9.5%	7.2%	8.7%	6.4%	1.5%	0.0%	3.0%	

属性	項目	スキー・スノーボード	サイクリング	バスケットボール・バレーボール	ゲートボール	ビーチスポーツ	柔道・剣道・空手などの武道	室内運動器具を使用した運動	その他	行いたくない	無回答
	全体		6.8%	14.8%	3.3%	1.4%	0.6%	2.7%	15.0%	7.4%	6.1%
性別 年代別	男性	7.0%	18.5%	3.2%	1.3%	0.8%	3.2%	13.4%	5.1%	7.4%	2.7%
	女性	7.1%	10.9%	3.5%	1.6%	0.4%	2.5%	16.5%	9.6%	5.1%	3.5%
	20代	19.1%	11.7%	9.6%	2.1%	1.1%	4.3%	16.0%	7.4%	7.4%	1.1%
	30代	13.3%	18.9%	8.4%	0.0%	1.4%	5.6%	9.1%	8.4%	6.3%	1.4%
	40代	10.3%	12.9%	4.5%	1.3%	1.3%	3.2%	17.4%	12.3%	4.5%	2.5%
	50代	4.2%	15.5%	3.0%	1.2%	0.0%	4.2%	17.9%	7.1%	4.2%	1.8%
	60代	2.1%	16.5%	0.4%	1.7%	0.4%	0.8%	14.8%	6.8%	5.9%	4.5%
70代	2.7%	12.5%	0.4%	1.9%	0.0%	1.1%	14.8%	4.9%	8.0%	5.4%	

図 2-15 スポーツをしていない人が今後行いたい運動



出典：平成 30 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-16 総合型地域スポーツクラブへの参加意向

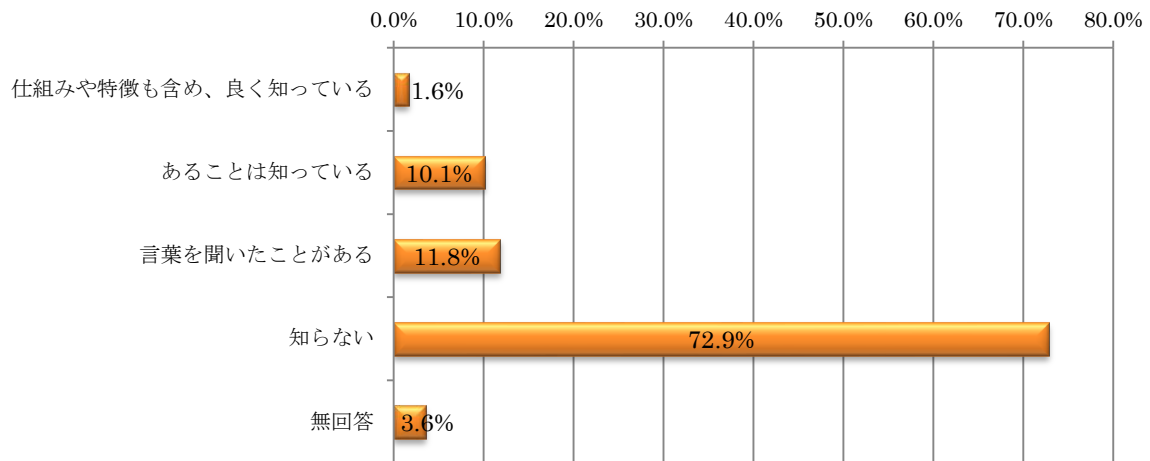
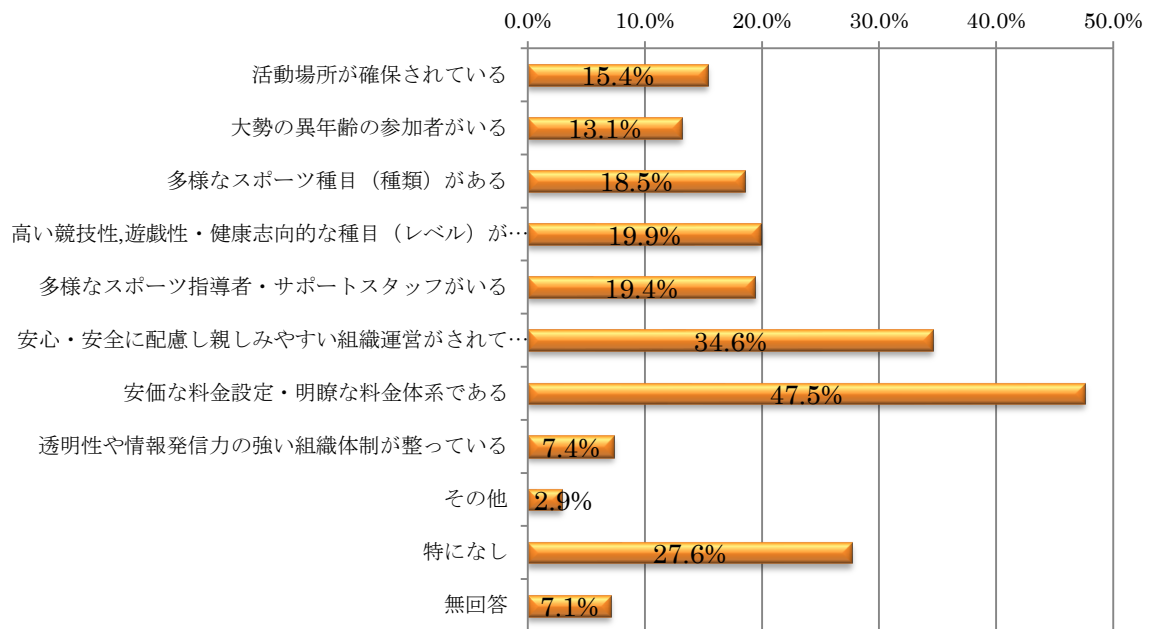
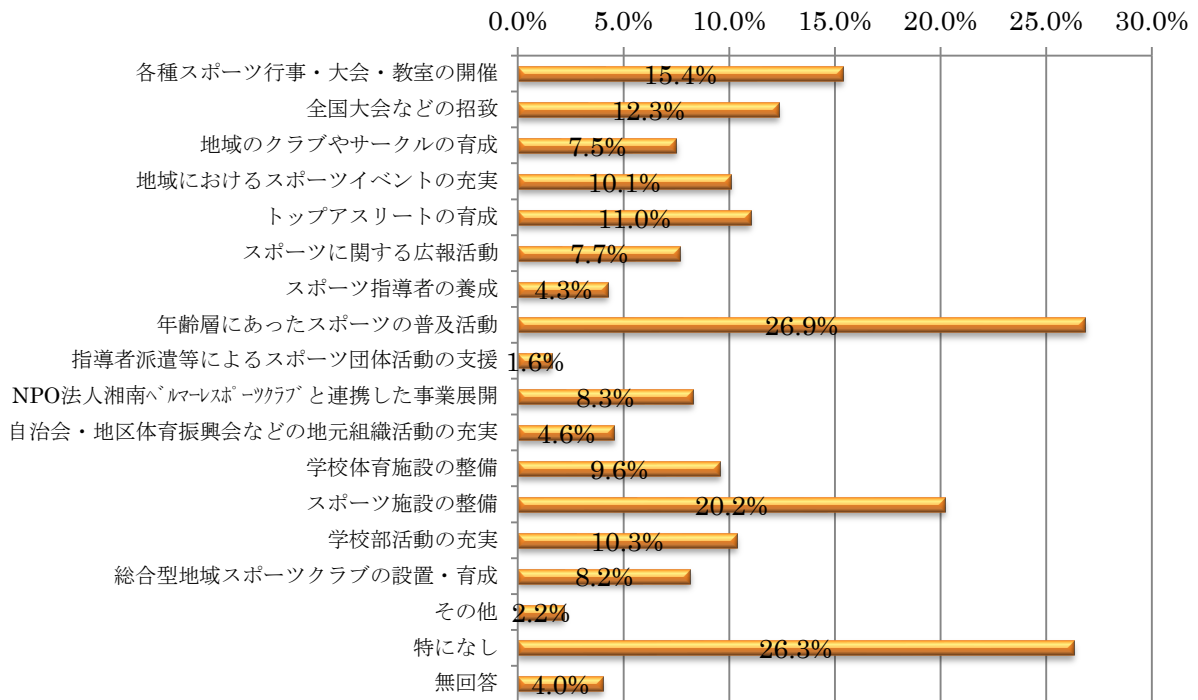


図 2-17 総合型地域スポーツクラブに望むこと



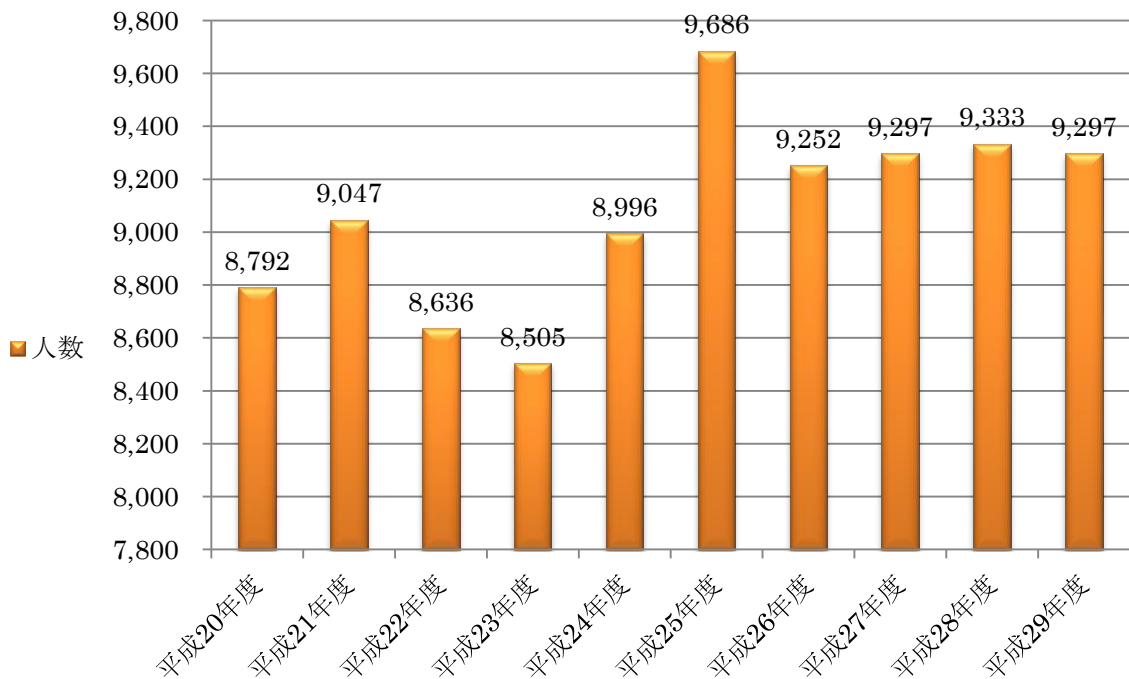
出典：平成 30 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-18 本市のスポーツ振興に期待すること



出典：平成 30 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-19 (公財) 平塚市まちづくり財団のスポーツ教室の参加者数



ウ 高齢者のスポーツ

今後、高齢化の進行により要介護（要支援）認定者数が増加することが見込まれています（P.10 表 2-1）。介護が必要となった主な原因は、「骨折・転倒」が最も高く、次いで「高齢による衰弱」、他には「脳卒中（脳出血・脳梗塞など）」などがあります。（P.10 図 2-3）。「高齢による衰弱」や「骨折・転倒」などの加齢に伴う身体機能、生活機能の低下によるものが高い傾向にあることから、健康なうちから介護予防の運動に取り組み、身体機能を維持することが必要です。

本市の成人の週1回以上のスポーツ実施率を年代別で見ると、70歳代が最も高く67.3%となっており、次いで60歳代の64.7%と続きます（P.20 図 2-10）。「スポーツをしていない理由」で、「仕事（家事・育児を含む）が忙しいから」と回答した割合は20歳代から50歳代で50%以上になっているのに対して、60歳代では40.4%、70歳代では30.4%に下がっています（P.21 表 2-7）。これは定年退職などによる余暇時間の増大が影響しているものとうかがえます。

「今後、行いたい運動」で、「ウォーキング（散歩含む）」と回答した60歳代の割合は59.7%、70歳代の割合は64.8%と高く（P.23 表 2-8）、高齢世代で取り組みやすい運動への高い関心がうかがえます。高齢者の増加に伴い、高齢者を対象とした健康事業への需要はさらに増加することが見込まれます。

スポーツは健康の保持増進だけでなく、精神的充足や楽しさ、喜びをもたらす、生活の質を向上させます。高齢者がいつまでも元気でいきいきとした生活を送ることができるよう、高齢者がスポーツに取り組む機会を充実することが求められます。

エ 障がい者のスポーツ

「障がい者スポーツの大会や普及啓発事業へ参加（観戦含む）したことがありますか」との回答では、「参加したことがない」と回答した人が9割以上となっており（図 2-20）、また、「障がい者にとってスポーツを身近なものにするために必要なもの」の回答では、「障がい者が利用できるスポーツ施設」が58.7%、「スポーツ施設のバリアフリー化」が41.5%と施設整備の要望が高いものの、その他の回答項目についても比較的回答率が高くなっています（図 2-21）。これは障がい者スポーツの推進体制が十分でないことを示していると考えられます。

平成29年度スポーツ庁委託事業「地域における障害者スポーツ普及促進事業報告書」によると、成人の障がい者の週1日以上スポーツ実施率は20.8%（週3日以上9.8%＋週1～2日11.0%）（図 2-22）で、国の成人一般の51.5%（P.20 図 2-10）と比較すると半分以下になっています。また、過去1年間でスポーツを「行っていない」障がい者は成人で58.9%と高く、7歳～19歳では43.8%と子どもの頃からスポーツに親しめていないこともわかります。

障がい者がスポーツに取り組むことは、心身の健康の保持増進や社会への参加機会の増加をもたらすことから、障がい者の生活の質の向上が期待されます。障がいの有無にかかわらず、それぞれの状況に応じてスポーツを楽しむことができるよう、障がい者がスポーツに取り組む機会を充実させるとともに、スポーツに取り組むやすい環境づくりが求められます。

図 2-20 障がい者スポーツの大会や普及啓発事業への参加

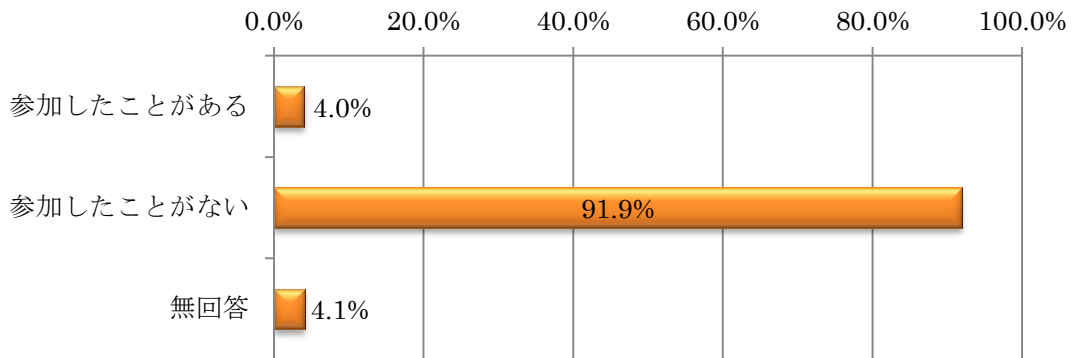
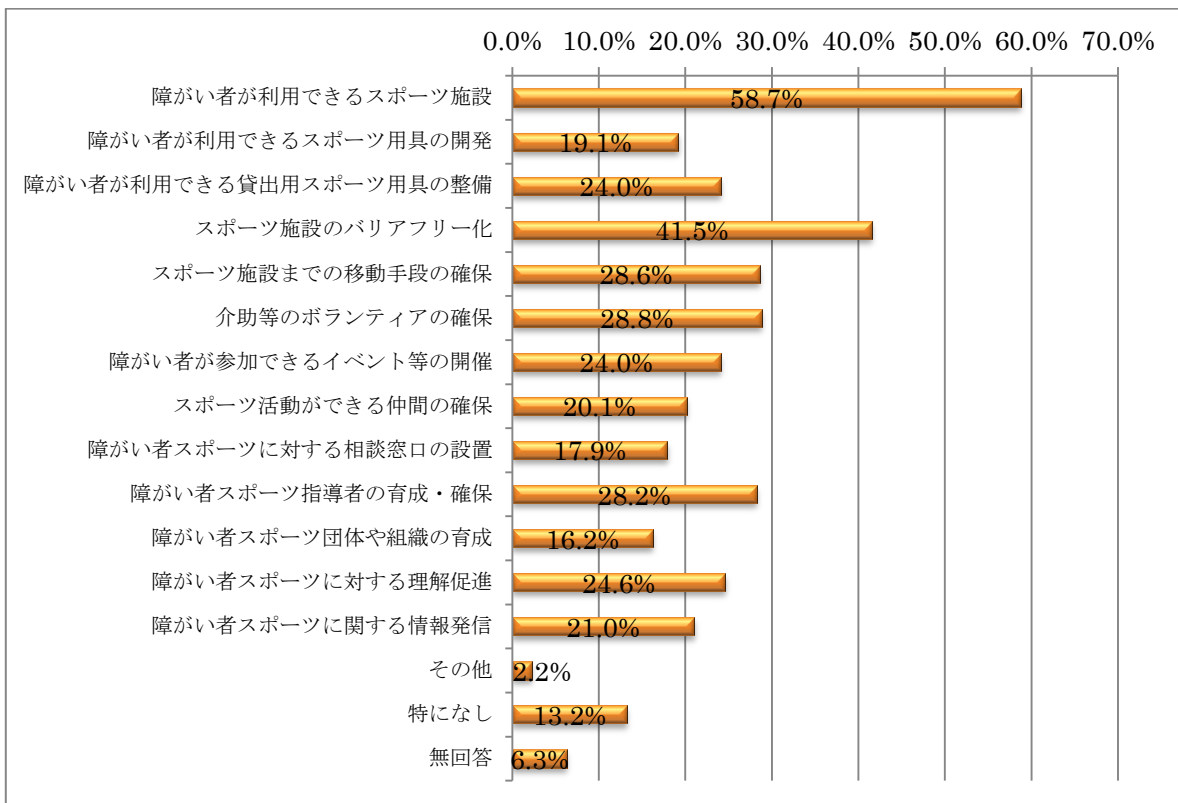
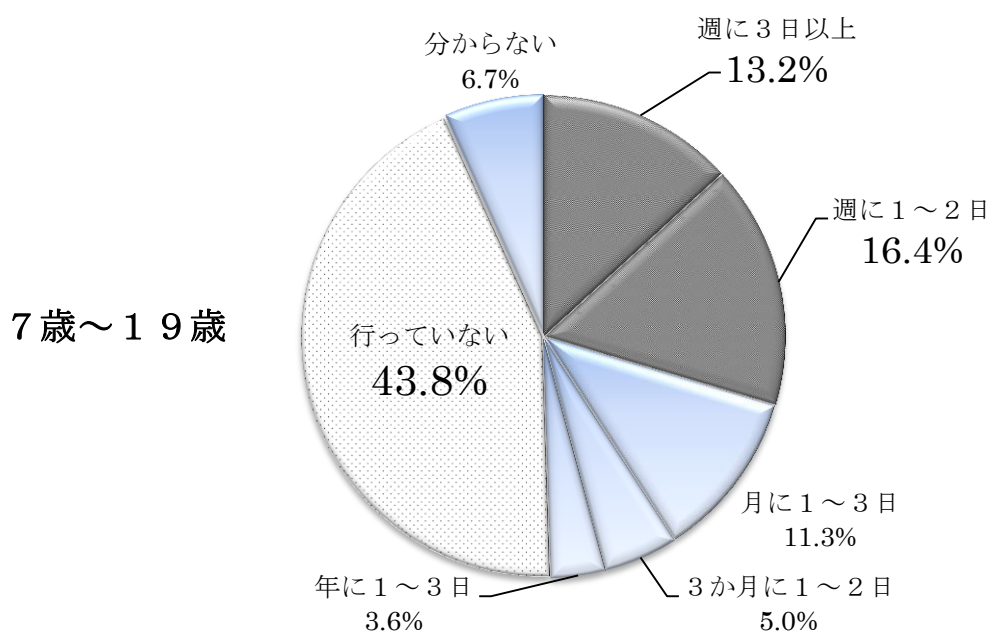
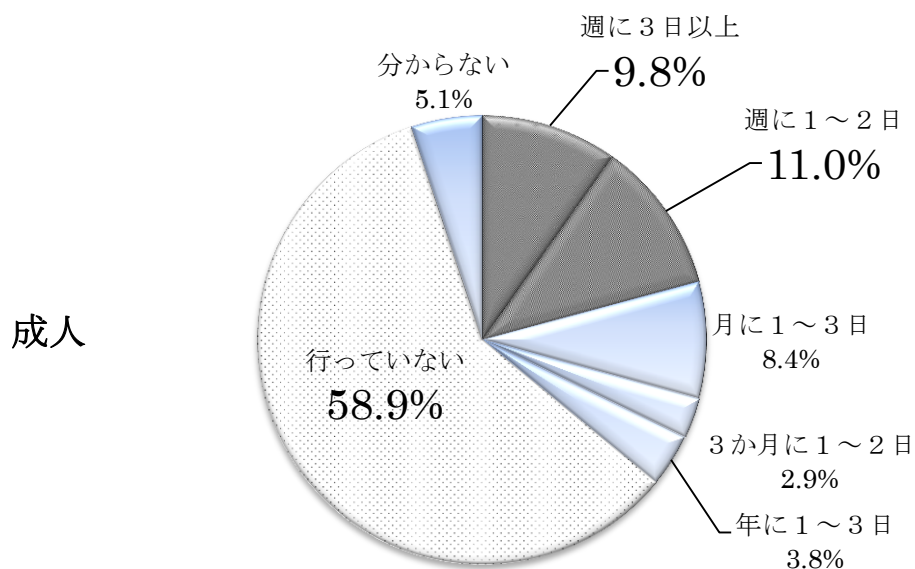


図 2-21 障がい者にとってスポーツを身近なものにするために必要なもの



出典：平成 30 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-22 障がい者のスポーツ実施率



出典：平成 29 年度スポーツ庁委託事業「地域における障害者スポーツ普及促進事業（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）」報告書（笹川スポーツ財団） スポーツ課にて加工

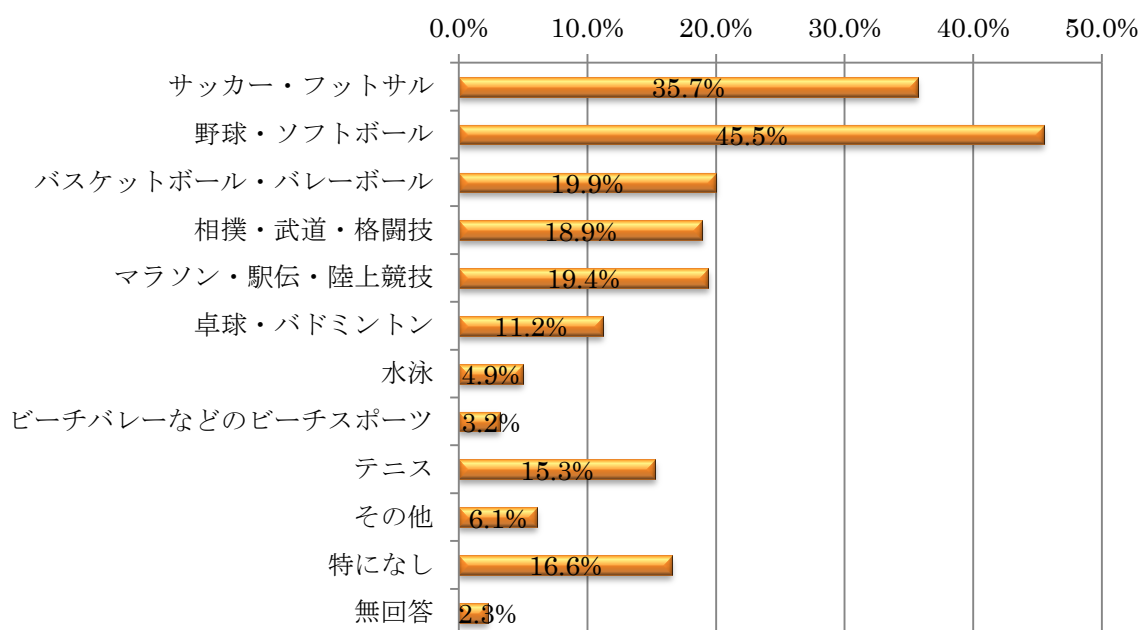
(2) 「観る」スポーツの現状と課題

観戦したいスポーツの1位が「野球・ソフトボール」、2位が「サッカー・フットサル」、3位が「バスケットボール・バレーボール」、4位が「マラソン・陸上競技」となっています(図2-23)。本市は、湘南ベルマーレがホームスタジアムとする Shonan BMW スタジアム平塚やバッティングパレス相石スタジアムひらつか、トッケイセキュリティ平塚総合体育館などのスポーツ施設があります。これらの施設では、湘南ベルマーレや横浜 DeNA ベイスターズ、横浜ビー・コルセアーズなどのトップスポーツの試合が行われています。また、本市を通る国道134号線は東京箱根間往復大学駅伝競走や湘南国際マラソンのコースとなっており、様々なスポーツを観戦できる環境が整っています(表2-9)。

トップスポーツの試合を生で観戦することは、普段の生活では体験できない臨場感や高揚感を味わうことができます。湘南ベルマーレや横浜 DeNA ベイスターズ、横浜ビー・コルセアーズの試合の平成29年度の総入場者数は約20万人となっています(表2-10)。また、トップスポーツチームに望むことでは、試合における高いパフォーマンス、好成績が36.2%、選手等との交流・ふれあいができるイベント事業の実施が18.6%、公開練習の観戦機会の充実が17.2%と高い割合になっています(図2-24)。また、湘南ベルマーレの1試合平均入場者数はJリーグ(J1・J2含む)の1試合平均入場者数と比べるとJ1リーグでは下回っていることがわかります(図2-25)。

「観る」スポーツは、年齢や体力などを問わず、比較的気軽に参加しやすいスポーツです。市民のスポーツへの意欲や興味・関心を高めるため、トップスポーツの試合開催を推進するとともに、トップアスリートと触れ合う機会を設けることが求められます。

図2-23 観戦したいスポーツ



出典：平成30年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

表 2-9 市内の主なスポーツイベント

種目	チーム・選手など
Jリーグ（サッカー）	湘南ベルマーレ
プロ野球	横浜DeNAベイスターズ
Bリーグ（バスケットボール）	横浜ビー・コルセアーズ
	川崎ブレイブサンダース
東京箱根間往復大学駅伝競走	大学陸上競技部
湘南国際マラソン	一般参加者
その他	全日本大学サッカー選手権
	関東大学サッカーリーグ
	首都大学野球

表 2-10 本市で開催されたプロスポーツチームの試合数及び総入場者数（平成 29 年度）

チーム名	試合数	総入場者数	会場
湘南ベルマーレ	19	158,295人	Shonan BMW スタジアム平塚 (収容人数：15,732人)
横浜DeNAベイスターズ	17	24,180人	バッティングパレス相石スタジアムひらつか (収容人数：16,000人)
横浜ビー・コルセアーズ	3	7,507人	トッケイセキュリティ平塚総合体育館 (収容人数：2,500人)
川崎ブレイブサンダース	6	11,851人	
合計	45	201,833人	

図 2-24 湘南ベルマーレ・横浜 DeNA ベイスターズ・横浜ビー・コルセアーズなどトップスポーツチームに望むこと

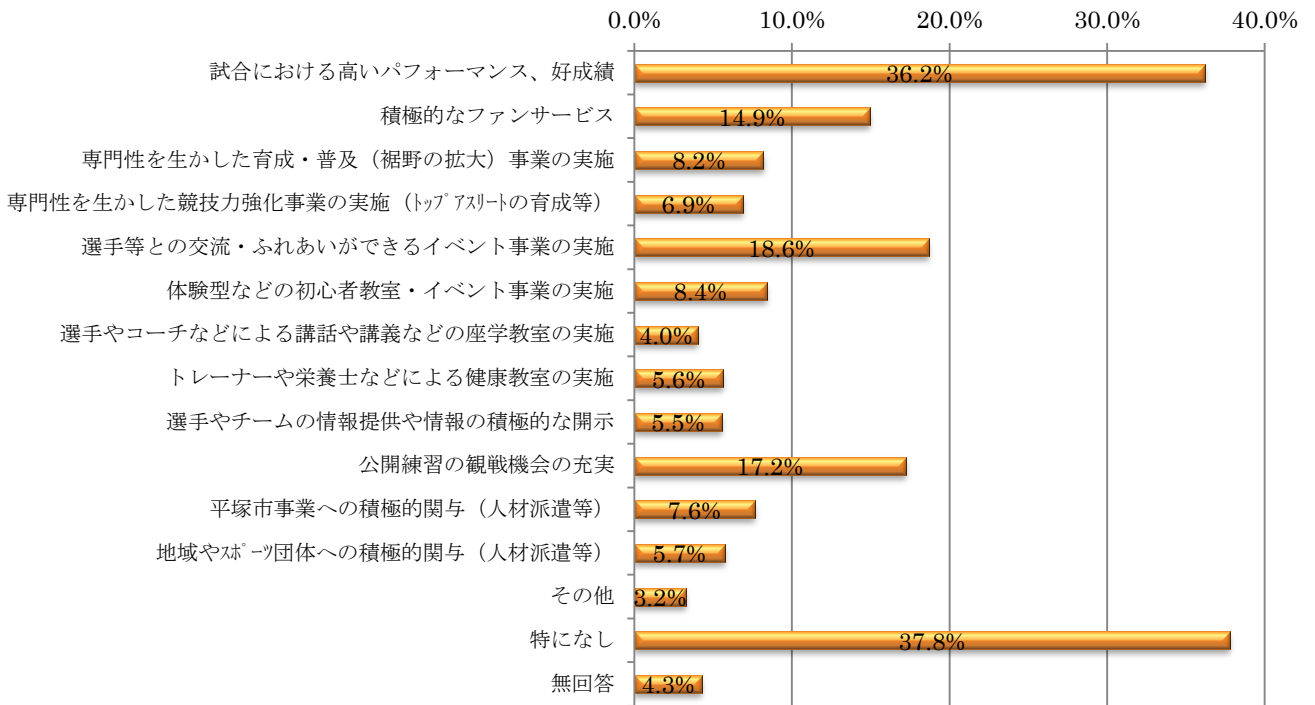
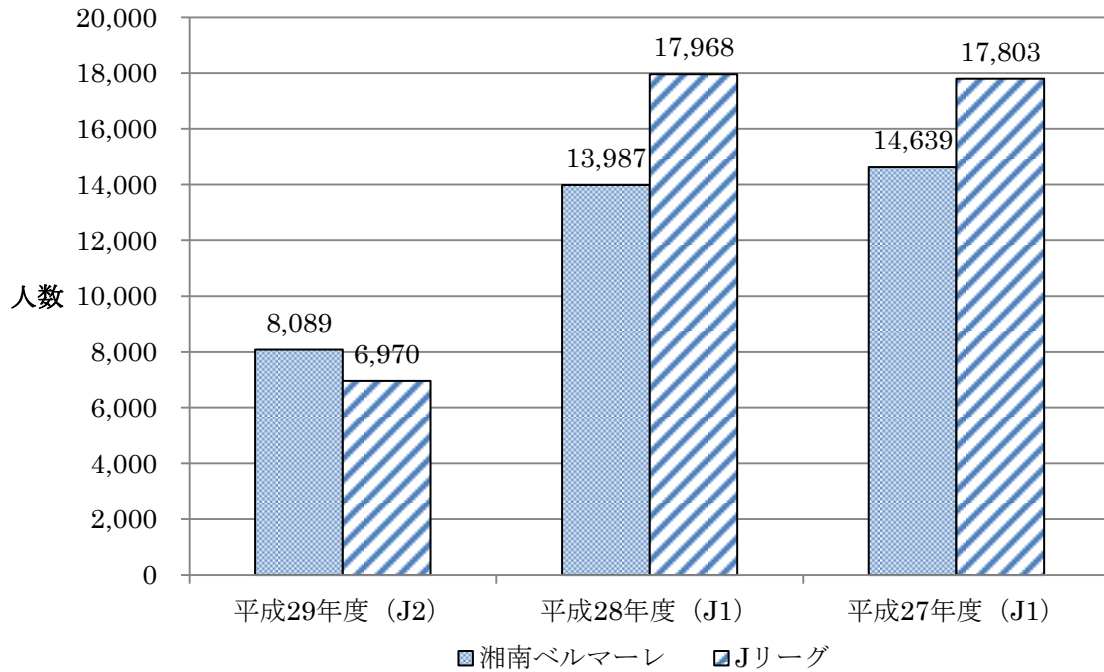


図 2-25 湘南ベルマーレ 1 試合平均入場者数と J リーグ 1 試合平均入場者数の比較



出典：Jリーグ公式ホームページ「J.LEAGUE Data Site」 スポーツ課にて加工

(3) 「支える」スポーツの現状と課題

本市では、地区体育振興会やスポーツ推進委員などが中心となり、地域で様々なイベントが行われています。地区体育振興会が設置されているのは、県内の政令指定都市を除いた16市のうち10市です(表2-11)。また、本市のスポーツ推進委員は94人で、これは県内の政令指定都市を除いた16市の中で3番目に多い人数となっており(図2-26)、地域スポーツを支える人材は充実しているように見えます。しかしながら、地域でスポーツを普及する担い手が不足しているとの意見もありました。各地区で行われている地区体育振興事業²¹の参加者数をみると、年度によって人数の増減が多少あるものの、増加傾向となっています(図2-27)。市民に積極的にスポーツに取り組んでもらうためには、行政だけでなく、スポーツ関係団体、大学など様々な主体が連携・協働することが必要です。

本市では、平塚市民・大学スポーツ交流フェスタなどの大学交流事業を開催しており、平成29年度では約1,500人の市民が参加しています(図2-28)。大学に蓄積された専門的な知識や優秀な人材を地域に還元することは、スポーツ実践者の知的探究心の充足や技術の向上に繋がります。地域のスポーツ活動を活性化するため、大学と地域との交流を深めるようなスポーツイベントを開催することが必要です。

スポーツに関するボランティア活動について聞いたところ、参加している、または参加したいものは「特になし」と答えた人が80%以上です(図2-29)。市民のスポーツボランティアへの意識は低いことがうかがえます。スポーツボランティアの活動を通じて地域スポーツを支援することは、自己実現や仲間づくりだけでなく、地域スポーツの活性化にも繋がることから、市民のスポーツボランティアへの意識の一層の向上が必要です。生涯にわたって「ささえる」スポーツに取り組む市民を増やすため、スポーツボランティアの意義を啓発するとともに、スポーツボランティアに気軽に参加できる機会を提供することが必要です。

また、本市には日本体育協会公認スポーツ指導者資格を持つ指導者だけでも240人います(表2-12)。それ以外にも競技団体に認定している資格などを持つ指導者が地域に眠っている可能性がうかがえます。スポーツ指導者の存在は、地域スポーツを活性化するとともに、スポーツ選手の競技水準の向上にも繋がります。このことから、本市のスポーツ指導者を把握することやスポーツ指導者の資質向上を図るとともに、スポーツ指導者が地域で活躍できる場の提供が必要です。

さらに、過去5年間の本市の国民体育大会・全国大会等の出場者数の推移をみると、平成25年度から100人前後で推移しています(図2-30)。平塚市体育協会には約20,000人のスポーツ選手が登録しています。本市から輩出されたトップアスリートが活躍することは、市民に誇りや喜びを与えると同時に、本市に活力を生み出します。本市からより多くのトップアスリートを輩出するため、各競技団体が行っている競技力強化に向けた取組みを支援するとともに、本市スポーツ選手の競技への意欲を高めることが必要です。

²¹ スポーツ大会、レクリエーション活動を通じて地区住民相互の親睦と健康な心身の育成を図るとともに地区体育の普及、振興を目的に、市内24地域で地区体育振興会、スポーツ推進委員が中心となってスポーツ大会及びレクリエーション事業などが開催されている。

表 2-11 県内各市（政令指定都市を除く）地区体育振興会の有無

市名	有無	地区数
横須賀市	○	46
平塚市	○	24
鎌倉市	○	16
藤沢市	○	35
小田原市	○	26
茅ヶ崎市	○	13
逗子市	○	8
三浦市	—	—
秦野市	—	—
厚木市	○	15
大和市	○	10
伊勢原市	○	8
海老名市	—	—
座間市	—	—
南足柄市	—	—
綾瀬市	—	—

図 2-26 県内各市（政令指定都市を除く）のスポーツ推進委員数

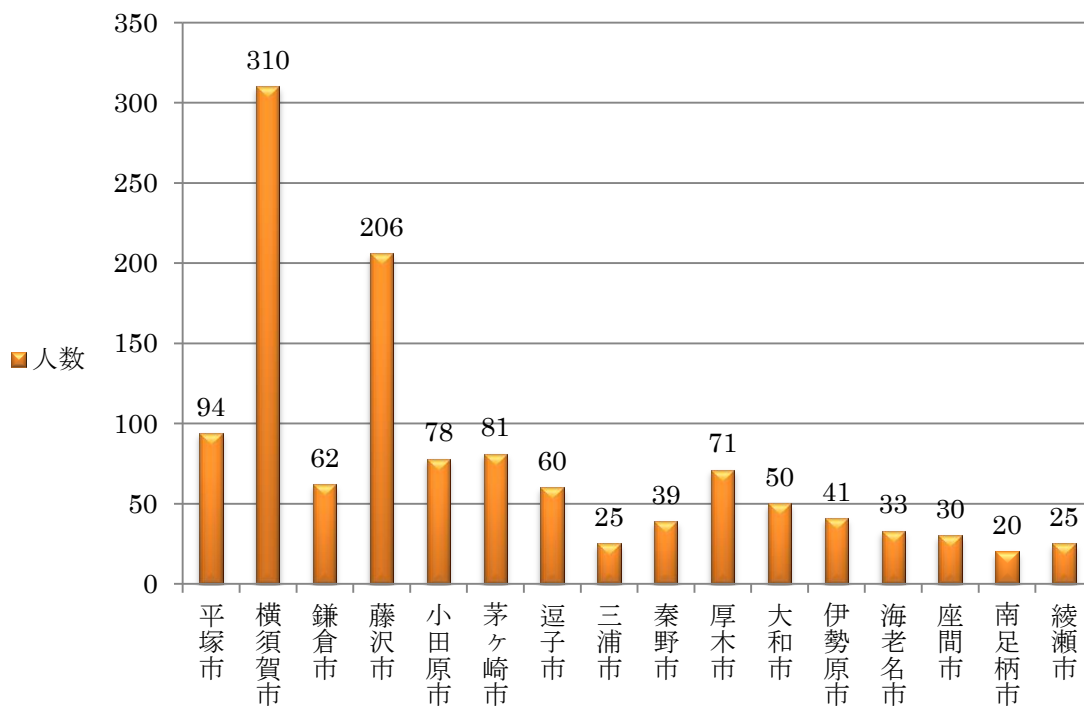


図 2-27 地区体育振興事業の参加者数の推移

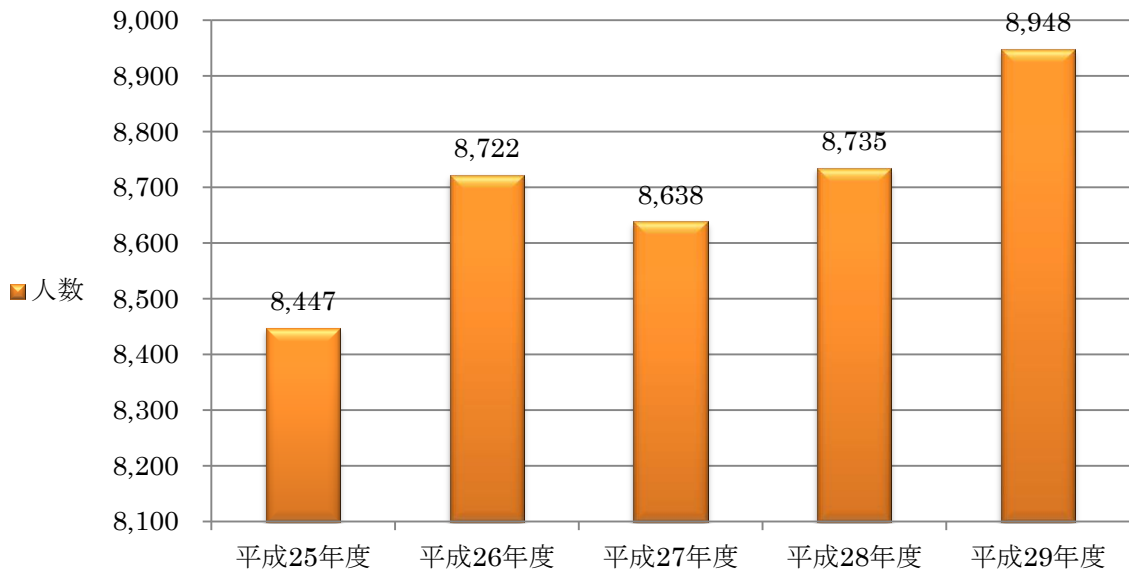
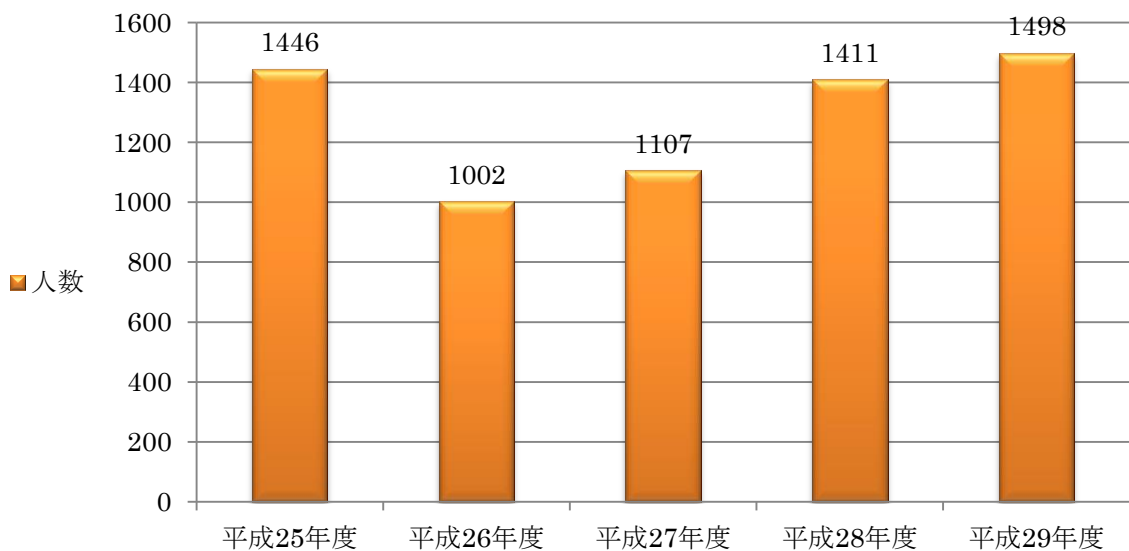


図 2-28 大学交流事業の参加者数の推移



※実施事業

平成 25 年度：中学生陸上競技教室、小学生サッカー教室、ニュースポーツ体験、ロードレース大会

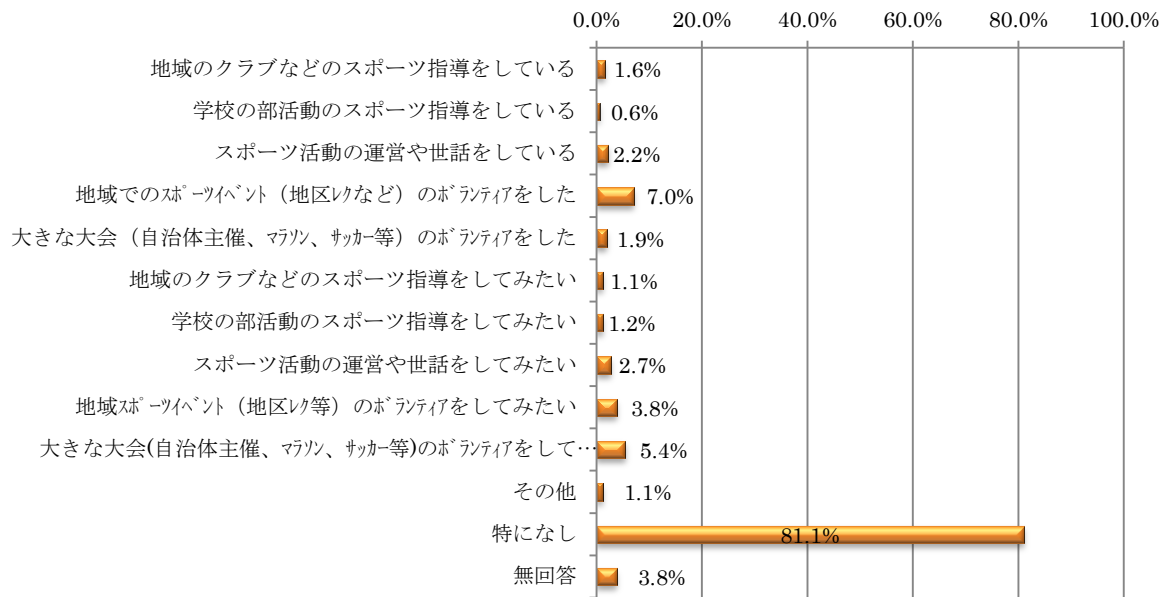
平成 26 年度：中学生陸上競技教室、小学生サッカー教室、ロードレース大会、中学生卓球教室、中学生バスケットボール教室

平成 27 年度：中学生陸上競技教室、小学生サッカー教室、ロードレース大会、中学生卓球教室、中学生バスケットボール教室

平成 28 年度：中学生陸上競技教室、小学生サッカー教室、ニュースポーツ体験、ロードレース大会、中学生卓球教室、中学生バスケットボール教室

平成 29 年度：中学生陸上競技教室、小学生サッカー教室、ニュースポーツ体験、ロードレース大会、中学生卓球教室、中学生バスケットボール教室

図 2-29 市民のスポーツに関するボランティア活動実績及び希望

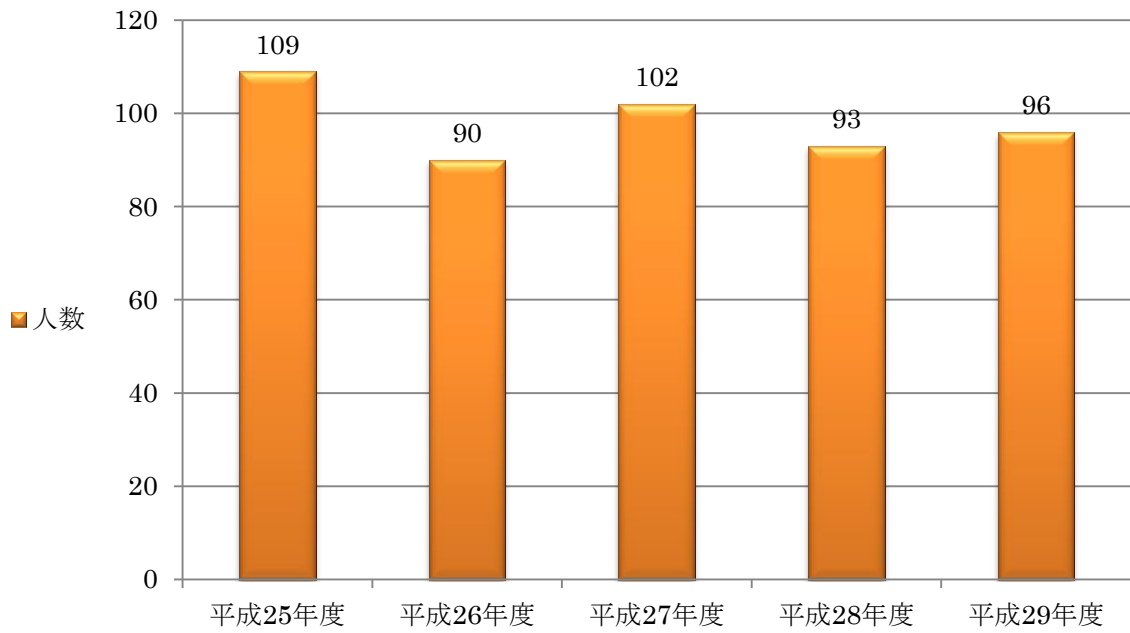


出典：平成 30 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

表 2-12 市内の日本スポーツ協会公認スポーツ指導者数（平成 30 年度）

資格名	男性	女性	計
指導員	56	39	95
上級指導員	19	17	36
コーチ	18	9	27
上級コーチ	9	0	9
教師	8	7	15
上級教師	2	1	3
ジュニアスポーツ指導員	6	1	7
スポーツリーダー	20	7	27
スポーツプログラマー	0	1	1
アシスタントマネージャー	1	2	3
スポーツドクター	8	1	9
アスレティックトレーナー	5	3	8
計	152	88	240

図 2- 30 国民体育大会・全国大会出場者数の推移



(4) スポーツ施設の現状と課題

運動習慣のない市民にとって、運動・スポーツを始めるきっかけとなりそうなものは、1位が「自宅から近距離（徒歩圏）に運動できる場所や施設の整備」でした（P.21 図 2-12）。本市には、バッティングパレス相石スタジアムひらつかや Shonan BMW スタジアム平塚のある平塚市総合公園、ひらつかサン・ライフアリーナや馬入ふれあい公園サッカー場のある馬入ふれあい公園などのスポーツ施設があり（表 2-13）、（公財）日本体育施設協会の「会員名簿／施設一覧」によると、近隣市と比較しても施設数が多いといえます（図 2-31）。その他にもプール施設や湘南海岸公園などのスポーツができる施設があります。公園・スポーツ施設は、延べ約 183 万人もの人々に利用されており（図 2-32）、その数は増加傾向にあります。しかしながら、新規のスポーツ施設の整備は難しいため、施設の有効利用や施設の健全な経営によるサービスの充実が望まれます。

本市のスポーツ施設では、平成 18 年度からひらつかアリーナと馬入ふれあい公園サッカー場、平成 21 年度から桃浜町庭球場と軟式庭球場の 4 施設で指定管理者制度²²を導入しています。指定管理者による利用者アンケートによると、満足度は高くなっています（図 2-33）（図 2-34）（図 2-35）。市民ニーズの変化をとらえながら、サービス向上による利用者満足度を高めていく必要があります。

また、市民が身近な地域でスポーツを楽しむことができるよう、市立小中学校の学校体育施設を市民に開放しています（表 2-14）。学校体育施設は延べ 40 万人以上の人々に利用されています（図 2-36）、団体による利用が中心となっています（表 2-15）。平成 29 年度のひらつかサン・ライフアリーナの一般開放日には、延べ 1,384 人の市民が利用しており（図 2-37）、個人での利用の需要があることがうかがえます。学校体育施設については、市民が身近な地域で個人でも気軽にスポーツを楽しむ場所として利用できることが求められます。

²² 市の指定する団体が、公の施設の管理を行うこと。指定管理者制度の目的は、民間事業者のノウハウを活用することにより、市民の様々なニーズに効果的・効率的に対応し、市民サービスの質を向上させることにある。

表 2-13 公園・スポーツ施設一覧

施設名 (設立年月)	所在地	施設内容
桃浜町庭球場 (S40. 9)	桃浜町34-18	テニスコート 1 (8面)
大神スポーツ広場 (S43. 4)	大神3450ほか	軟式野球場 9 サッカー場 3 管理棟 1
軟式庭球場 (S45. 8)	田村9-25-1	テニスコート 1 (10面)
王御住運動広場 (S48. 3)	岡崎3269-63	軟式野球場 1
バッティングパレス相石スタジアム平塚 (S60. 3)	大原1-1	野球場 1
Shonan BMWスタジアム平塚 (S62. 3)	大原1-1	陸上競技場 1
平塚市総合公園 (S62. 3)	大原1-1	硬式野球場 1・陸上競技場 1・体育館 1・体育室 3・武道場 2・弓道場 1・トレーニング室 1・屋内プール (50m×9コース、20m×5コース)・テニスコート 1 (4面)
トッケイセキュリティ平塚総合体育館 (H3. 3)	大原1-1	体育館 1・体育室 3・武道場 2・弓道場 1・トレーニング室 1・屋内プール (50m×9コース、20m×5コース)
総合公園テニスコート (H3. 3)	大原1-1	テニスコート 1 (4面)
馬入ふれあい公園サッカー場 (H14. 4)	中堂246-1	管理棟 1・多目的棟 1・シャワー棟 1・サッカー場 3 (人工芝 1、天然芝 2)
ひらつかサン・ライフアリーナ (H16. 8)	中堂246-1	体育館 1 (体育室 1 多目的ルーム 1 会議室 1)
土沢野球場 (H22. 10)	上吉沢1689-1	軟式野球場 1 (軟式野球、ソフトボール)
土沢多目的広場 (H22. 10)	上吉沢1689-1	多目的広場 1 (サッカー、グラウンドゴルフ、ラグビー(練習)他)
木村植物園湘南ひらつかパークゴルフ場 (H22. 10)	上吉沢1689-1	管理棟 1 パークゴルフ場 (18ホール)

出典：(公財)日本体育施設協会「会員名簿/施設一覧」

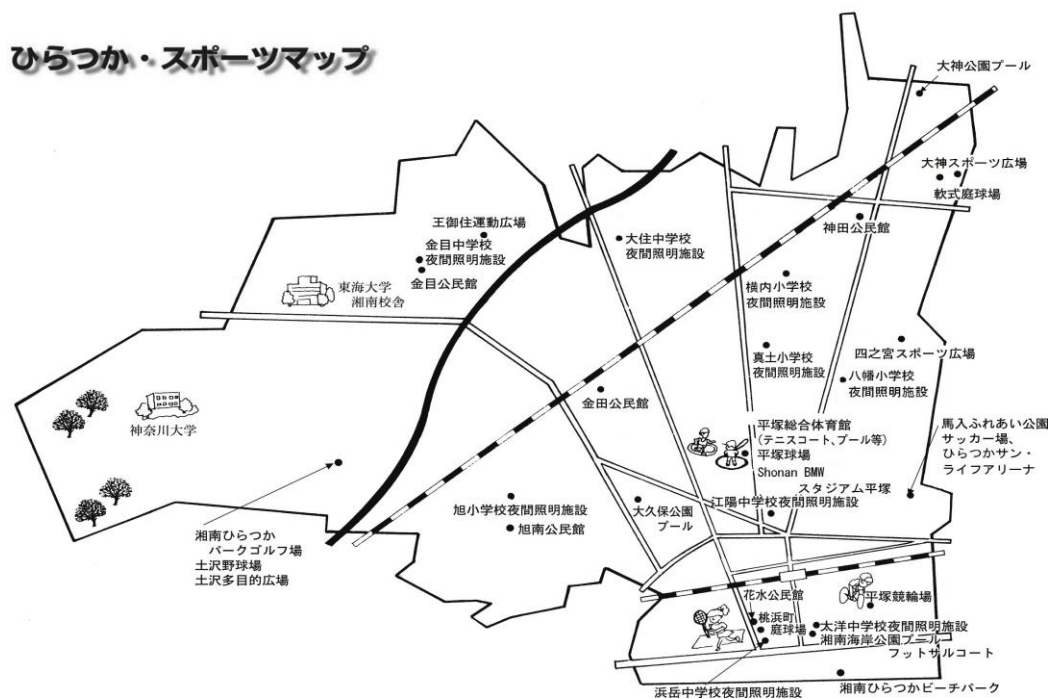
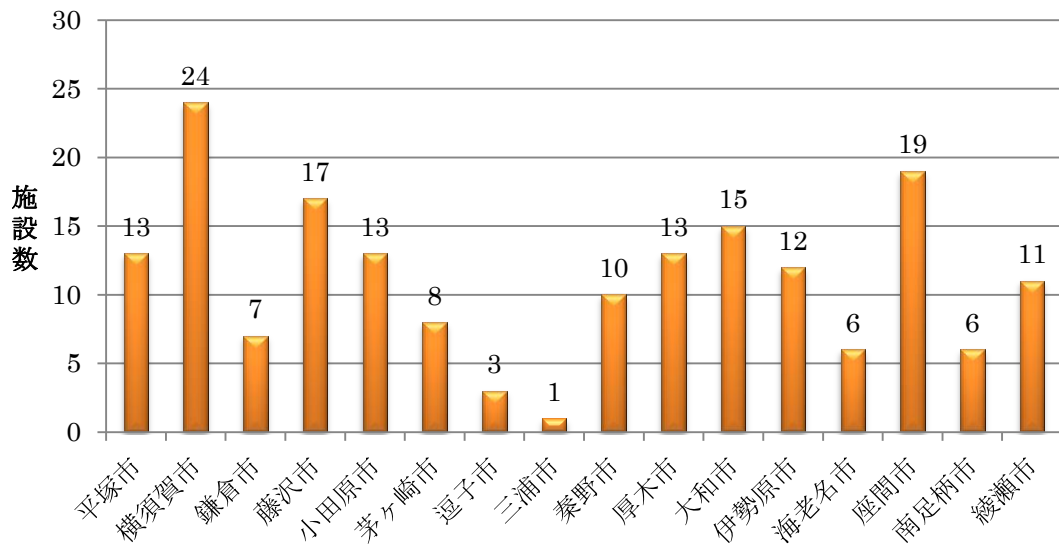


図 2-31 神奈川県体育施設協会加入施設の設置者別施設数（政令指定都市除く）



出典：（公財）日本体育施設協会 平成 29 年 会員名簿／施設一覧

図 2-32 公園・スポーツ施設利用者数

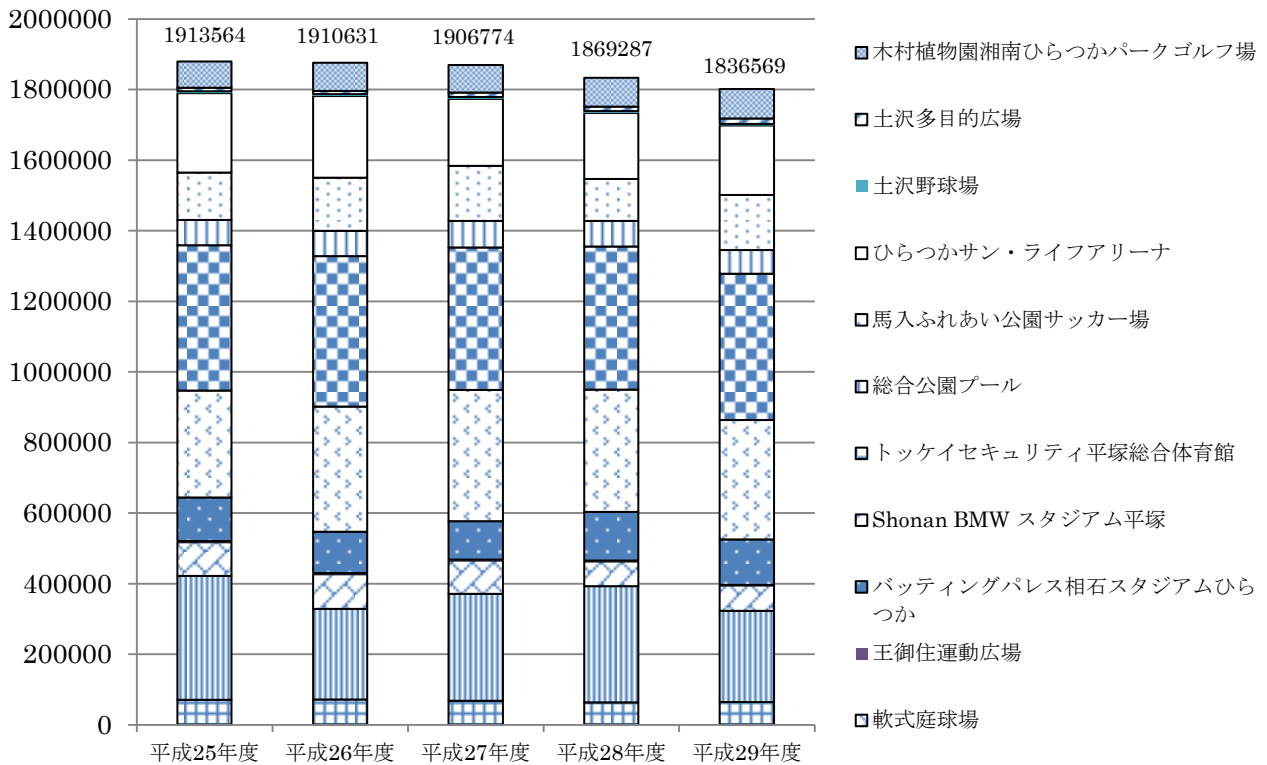
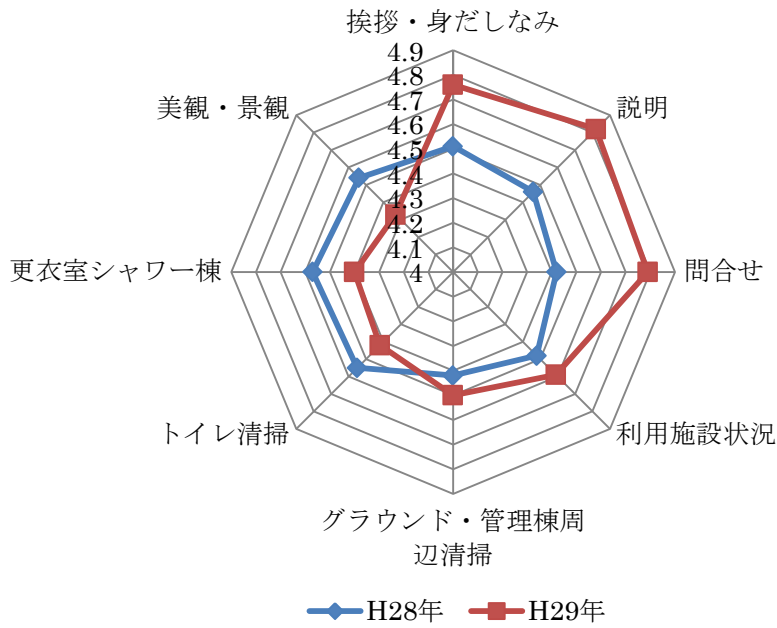
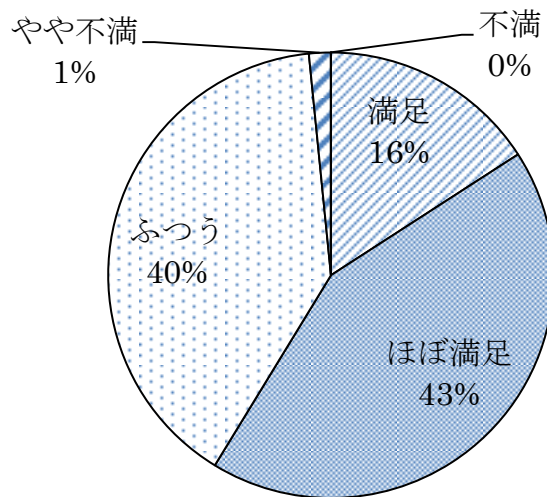


図 2-33 馬入ふれあい公園（ひらつかアリーナ）利用者アンケート項目別評価



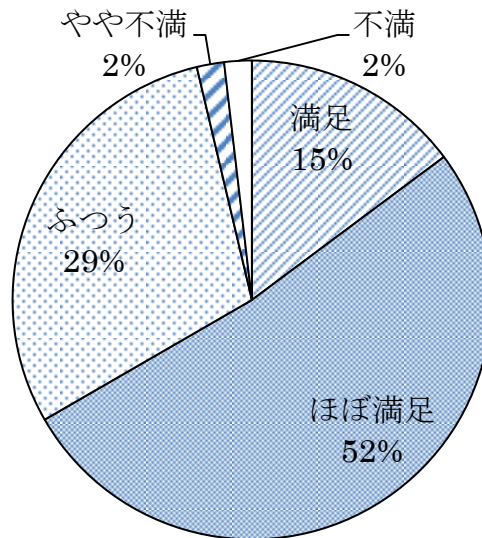
出典：平成 28・29 年度馬入ふれあい公園（ひらつかアリーナ）利用者アンケート実施結果

図 2-34 施設全体の利用における総合的な満足度（軟式庭球場）



出典：平成 29 年度軟式庭球場利用者アンケート調査結果

図 2-35 施設全体の利用における総合的な満足度（桃浜町庭球場）



出典：平成 29 年度桃浜町庭球場利用者アンケート調査結果

表 2-14 学校体育施設開放校

学校名(小学校)	開放体育施設	学校名(小学校)	開放体育施設
崇善小学校	体育館	岡崎小学校	運動場・体育館
港小学校	体育館	金田小学校	運動場・体育館
松原小学校	運動場・体育館	土屋小学校	運動場・体育館
富士見小学校	体育館	吉沢小学校	運動場・体育館・クラブハウス
花水小学校	運動場・体育館・体育室	金目小学校	運動場・体育館
なでしこ小学校	運動場・体育館	みずほ小学校	運動場・体育館
旭小学校	運動場・体育館	学校名(中学校)	開放体育施設
勝原小学校	運動場・体育館	江陽中学校	運動場・体育館
松延小学校	体育館	太洋中学校	運動場・体育館
山下小学校	運動場・体育館	春日野中学校	運動場・体育館・柔剣道場
大野小学校	体育館	浜岳中学校	運動場・体育館・柔剣道場
八幡小学校	運動場・体育館	大野中学校	体育館・柔剣道場
真土小学校	運動場・体育館	中原中学校	運動場・体育館
中原小学校	体育館	神明中学校	体育館
松が丘小学校	運動場・体育館	神田中学校	運動場・体育館
南原小学校	体育館	横内中学校	運動場・体育館
大原小学校	運動場・体育館	土沢中学校	体育館
豊田小学校	運動場・体育館	金旭中学校	運動場・体育館
神田小学校	運動場・体育館	山城中学校	体育館
相模小学校	体育館	旭陵中学校	運動場・体育館・クラブハウス
横内小学校	運動場・体育館	金目中学校	運動場・体育館
城島小学校	運動場・体育館	大住中学校	運動場・体育館

図 2- 36 学校体育施設開放利用者数の推移

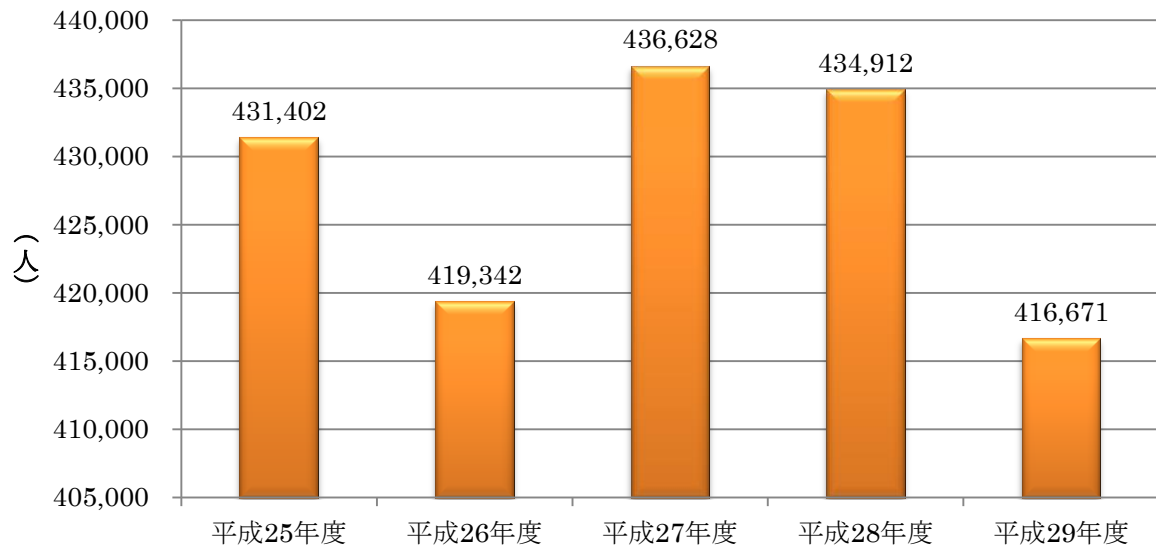
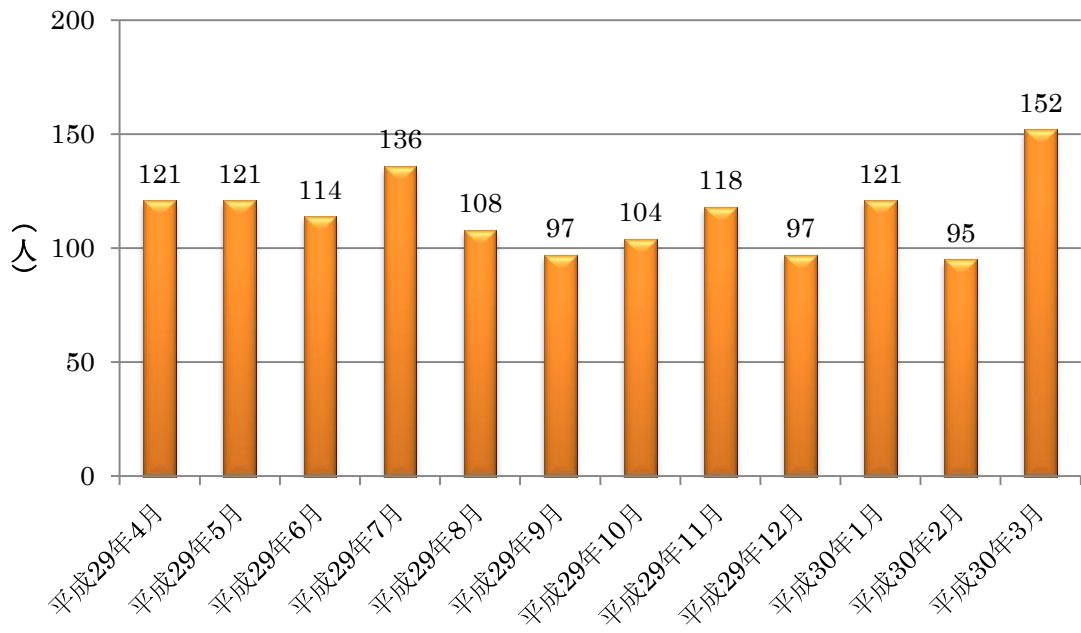


表 2- 15 学校体育施設開放の状況 (平成 29 年度)

	学校数	利用登録数		利用件数	延べ利用者数
		(団体)	(個人)		
小学校	28校	347団体	0人	11,364件	315,868人
中学校	15校			5,446件	100,803人
合計	43校	347団体	0人	16,810件	416,671人

図 2- 37 平成 29 年度 ひらつかサン・ライフアリーナー一般開放日 利用者数



(5) スポーツに関する情報の現状と課題

平成 27 年度総務省調査によると、何かを自発的に調べようとする際、具体的な場面を提示して、どのような手段を最も頻繁に利用するかを尋ねたところ、年代を問わず「インターネットの検索サイトで検索する」との回答が多数（約 7 割）を占めています。例えば、「健康や医療について調べたいことがある場合」（図 2-38）、他にも「仕事や研究、勉強について調べたいことがある場合」（図 2-39）など、何かを調べる際の最も一般的な手段として、インターネットが広く浸透していることがわかります。スポーツ実施率を上げるうえで、インターネットによる情報発信は有効であると考えます。しかしながら、平塚市では、市内のスポーツ情報に特化したポータルサイト「ひらつかスポーツナビ」を開設していますが、知らないと回答した割合は 80.2% でした（図 2-40）。情報収集が可能なスポーツのインターネットサイトとして、更なる周知と情報の充実を合わせて行う必要があります。また、運動やスポーツに関する情報について、欲しい情報は、「健康・体力づくりに関する情報」が 38.6%、「スポーツ行事やスポーツイベントの情報」が 34.6% と高い割合になっています。（図 2-41）。

スポーツに関する情報はスポーツへの興味・関心を高めるとともに、スポーツを楽しむためのきっかけの一つとなります。そのため、スポーツに関する情報の質と量を充実させるとともに、スポーツ関係団体やスポーツイベントに関する情報などを一元化した「市内スポーツ情報ポータルサイト」の利用推進と情報の充実、地元メディアの活用など、多様な手段で情報を提供することが求められます。

図 2-38 健康や医療について調べたいことがある場合

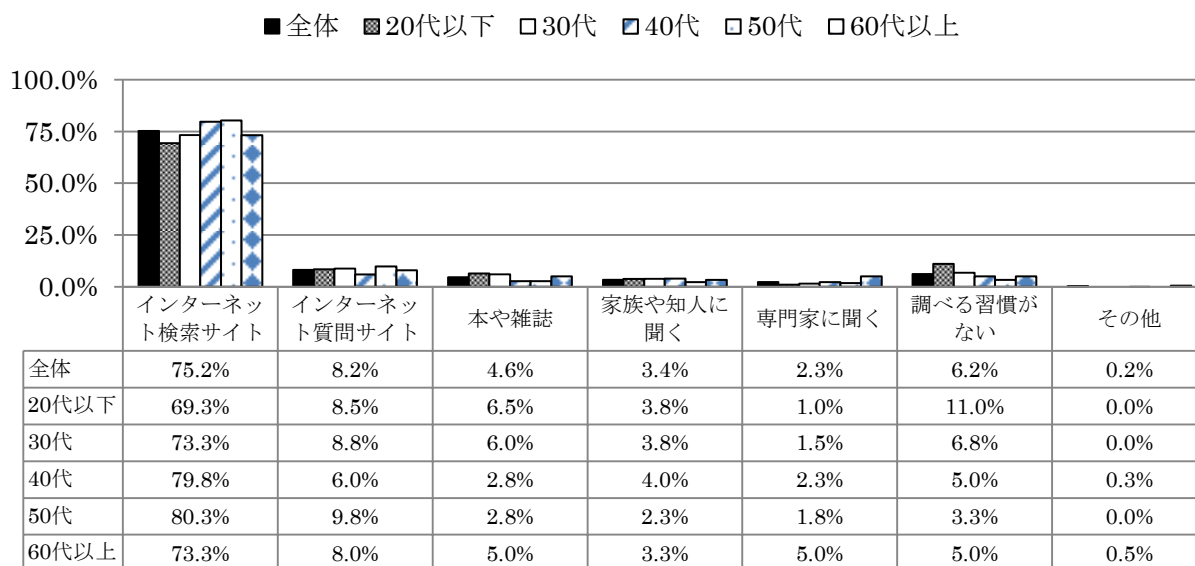
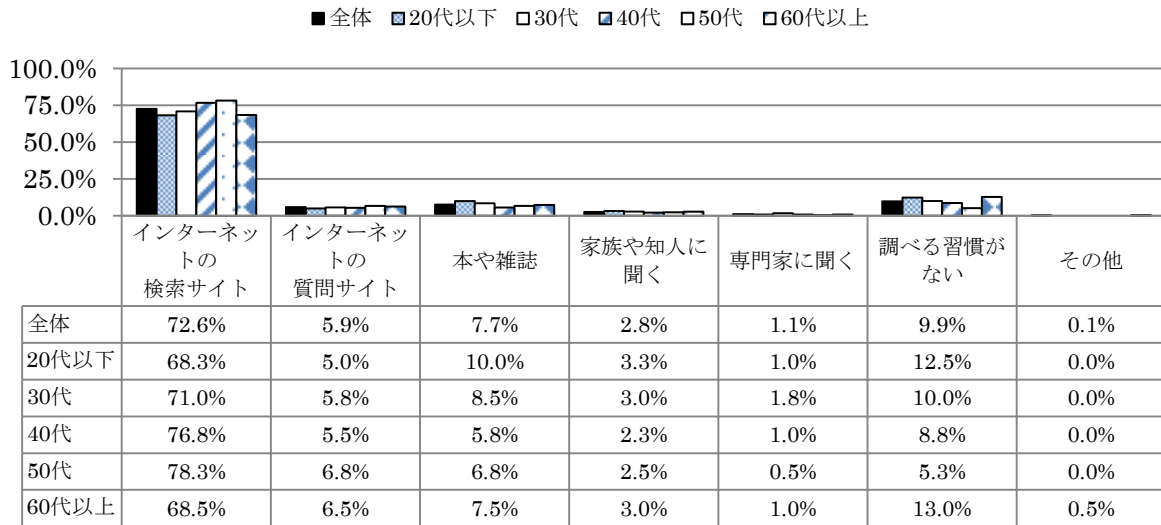


図 2-39 仕事や研究、勉強について調べたいことがある場合



出典：平成 27 年度総務省「社会課題解決のための新たな ICT サービス・技術への人々の意識に関する調査研究」スポーツ課にて加工

図 2-40 「ひらつかスポーツナビ」を知っていますか

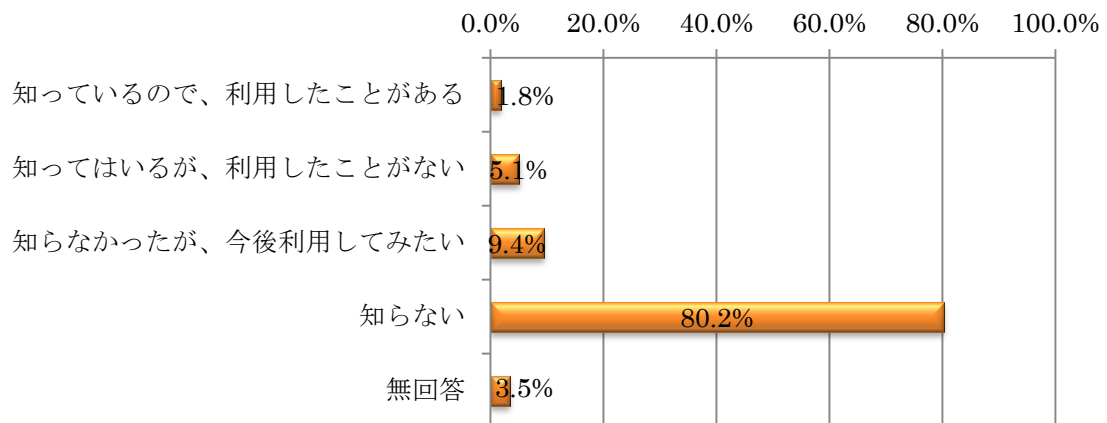
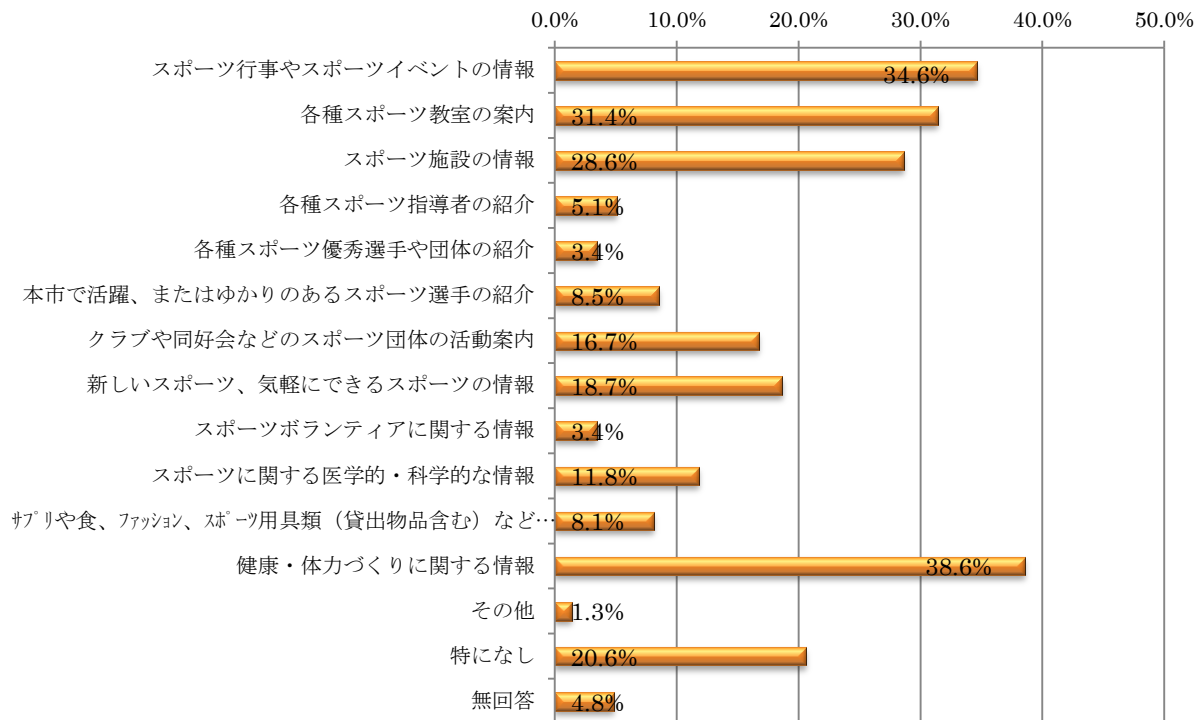


図 2-41 運動やスポーツに関する欲しい情報



出典：平成 30 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査



第3章

第3章 計画の方向と取組み

1 平塚市の目指す姿

近年、生活の利便性の向上などにより、市民の身体活動量が減少するとともに、生活習慣病の罹患リスクが増加しています。スポーツを行うことは、健康・体力づくりの推進につながり、医療費の抑制等の様々な効果が期待されています。また、市民のライフスタイルの変化や少子高齢化の進行、平均寿命の延伸、価値観の多様化などにより、スポーツの果たす役割はますます重要となっています。

本市の現状や課題、特徴を踏まえて、継続的にスポーツに取り組む市民の人口の拡大を図るため、「**スポーツを楽しみ、健康で長寿のまち ひらつか**」を目指す姿として、市民の誰もが生涯にわたってスポーツを楽しみ、いつまでもいきいきとした生活を送ることができるよう、市民、スポーツ関係団体、大学、トップスポーツ、行政などが連携・協働して、スポーツを通じた活力ある社会づくりを実現します。

【平塚市の目指す姿】

「スポーツを楽しみ、健康で長寿のまち ひらつか」

スポーツへの関わり方は、スポーツを「する」ことだけでなく「みる」「ささえる」ことも含まれ、様々な形で積極的にスポーツに参画し、スポーツを楽しみ、喜びを得ることで、それぞれの人生を生き生きとしたものにします。国のスポーツ基本法や第2期スポーツ基本計画、県のアクティブかながわ・スポーツビジョン、神奈川県スポーツ推進計画、平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査、スポーツ関係団体などの意見からみえた、「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」、「スポーツ施設」、「スポーツに関する情報」の5つの現状と課題を踏まえ、本計画策定当初からの「**スポーツを楽しみ、健康で長寿のまち ひらつか**」の実現を目指し、スポーツの主体者である市民、地域、トップスポーツに着目し、さらに、市民の主体的な取組みをサポートするために、「生涯スポーツの推進」、「地域スポーツの推進」、「トップスポーツの推進」、「**スポーツを楽しむ環境づくり**」の4つを引き続き、基本目標と定め、本市の更なるスポーツ推進を図ります。

2 計画の体系

計画の体系は、4つの基本目標を推進していくために必要な取組みを施策構成として整理したものです。基本目標を実現するために必要な施策を「**基本的施策**」として位置づけます。さらに「**基本的施策**」を推進するために必要な施策を「**具体的施策**」として位置づけ、施策の展開を図ります。施策の展開にあたっては「する」、「みる」、「ささえる」の取組視点を踏まえながら行います。

【スポーツを楽しみ、健康で長寿のまち ひらつか】

基本目標	基本的施策	取組視点			具体的施策
		する	みる	ささえる	
1 生涯 スポーツの 推進	(1) 成人のスポーツ機会の充実	○		○	①スポーツの普及啓発 ②生活習慣病予防のための運動教室 ③健康づくりの推進 ④地域における身近な運動機会の充実 ⑤スポーツ・レクリエーション活動の充実 ⑥ボランティアする機会の提供
	(2) 子どものスポーツ機会の充実	○			①親子で楽しむスポーツ活動の充実 ②小中学校体育の授業内容の充実 ③中学校部活動の推進 ④子どもを対象としたスポーツ活動の充実
	(3) 高齢者のスポーツ機会の充実	○			①介護予防の運動の充実 ②高齢者を対象とした地域における身近な運動機会の充実
	(4) 障がい者のスポーツへの参加促進	○			①障がい者スポーツ活動の支援 ②障がい者のスポーツ・レクリエーション活動の充実
2 地域 スポーツの 推進	(5) 地区体育・スポーツの普及・発展			○	①地区体育・スポーツの振興 ②地域スポーツの底辺拡大
	(6) ニュースポーツ・レクリエーションの普及			○	①スポーツ推進委員の資質向上
	(7) 総合型地域スポーツクラブの育成・支援	○			①総合型地域スポーツクラブの育成・支援
	(8) 大学などとの連携強化			○	①大学と地域との連携強化
3 トップ スポーツの 推進	(9) 地元トップアスリートの輩出	○		○	①選手の競技力強化 ②選手の派遣 ③表彰制度の充実 ④優秀選手などによる支援 ⑤平塚市体育協会の自立・支援
	(10) 湘南ベルマーレとの連携強化			○	①サッカー文化の振興 ②サッカーを中心としたスポーツ振興 ③自転車を活用したスポーツの推進
	(11) スポーツ指導者の発掘と活用			○	①スポーツ指導者の確保と派遣 ②スポーツ指導者の育成
	(12) トップスポーツの活用			○	①トップスポーツに触れる機会の充実 ②全国規模の大会などの支援 ③トップアスリートの活用
4 スポーツを 楽しむ 環境 づくり	(13) スポーツ施設等の充実			○	①効率的な施設の運営・管理 ②その他の施設の情報把握 ③スポーツ用具の有効活用
	(14) スポーツ情報の提供の充実			○	①スポーツ情報の提供

基本目標 1 生涯スポーツの推進

3 中間年の見直し後の施策の展開

「スポーツを楽しみ、健康で長寿のまち ひらつか」を実現するために、市民、スポーツ関係団体、大学、トップスポーツ、行政などが連携・協働して、施策を展開しますが、計画策定から5年が経過し、具体的施策として実施している各個別事業については、事業の廃止、統合等が行われているため、中間年による見直しを実施いたします。

見直し事項【スポーツを楽しみ、健康で長寿のまち ひらつか】

基本目標	基本的施策	取組視点			具体的施策
		する	みる	ささえる	
1 生涯スポーツの推進	(1)成人のスポーツ機会の充実	○		○	①スポーツの普及啓発 ②生活習慣病予防のための運動教室 ③健康づくりの推進 ※ ④地域における身近な運動機会の充実 ⑤スポーツ・レクリエーション活動の充実 ⑥ボランティアする機会の提供 ※
	(2)子どものスポーツ機会の充実	○			①親子で楽しむスポーツ活動の充実 ②小中学校体育の授業内容の充実 ③中学校部活動の推進 ④子どもを対象としたスポーツ活動の充実 ※
	(3)高齢者のスポーツ機会の充実	○			①介護予防の運動の充実 ※ ②高齢者を対象とした地域における身近な運動機会の充実
	(4)障がい者のスポーツへの参加促進	○			①障がい者スポーツ活動の支援 ②障がい者スポーツ・レク活動の充実 ※
2 地域スポーツの推進	(5)地区体育・スポーツの普及・発展	○		○	①地区体育・スポーツの振興 ②地域スポーツの底辺拡大 ※
	(6)ニュースポーツレクリエーションの普及			○	①スポーツ推進委員の資質向上
	(7)総合型地域スポーツクラブの育成・支援	○			①総合型地域スポーツクラブの育成・支援
	(8)大学などとの連携強化			○	①大学と地域との連携強化
3 トップスポーツの推進	(9)地元トップアスリートの輩出	○		○	①選手の競技力強化 ②選手の派遣 ③表彰制度の充実 ④優秀選手などへの支援 ⑤平塚市体育協会の自立・支援
	(10)湘南ベルマーレとの連携強化			○	①サッカー文化の振興 ②サッカーを中心としたスポーツ振興 ③自転車を活用したスポーツの推進
	(11)スポーツ指導者の発掘と活用			○	①スポーツ指導者の確保と派遣 ※2 ②スポーツ指導者の育成
	(12)トップスポーツの活用			○	①トップスポーツに触れる機会の充実 ②全国規模の大会などの支援 ※3 ③トップアスリートの活用 ※
4 スポーツを楽しむ環境づくり	(13)スポーツ施設等の充実 ※1			○	①効率的な施設の運営・管理 ②その他の施設の情報把握 ※4 ③スポーツ用具の有効活用 ※5
	(14)スポーツ情報の提供の充実			○	①スポーツ情報の提供

※1 基本的施策「(13)スポーツ施設の充実」を「(13)スポーツ施設等の充実」に変更。

※2 具体的施策「①スポーツ指導者の確保」を「①スポーツ指導者の確保と派遣」に変更、「③スポーツ指導者の派遣」を削除。

※3 具体的施策「②全国規模の大会などの招致」を「②全国規模の大会などの支援」に変更。

※4 具体的施策「②その他の施設の有効活用」を「②その他施設の情報把握」に変更。

※5 具体的施策「③スポーツ用具の有効活用」を新規追加。

その他※の「具体的施策」について見直しを実施。

基本目標 1 生涯スポーツの推進

スポーツには、心身の健康の保持増進や生活習慣病予防などの効果があることから、市民の一人ひとりがそれぞれのライフステージに応じて、主体的・継続的にスポーツを楽しむことが求められます。市民がいつまでもいきいきとした生活を送ることができるよう、市民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむことができる生涯スポーツ社会の実現のため、「成人」、「子ども」、「高齢者」、「障がい者」のライフステージに応じたスポーツ活動を推進します。

基本目標 2 地域スポーツの推進

基本的施策

(1) 成人のスポーツ機会の充実

国、県及び市の調査結果を比較すると、本市の週1回以上のスポーツ実施率は高くなっています（P.20 図 2-10）。また、スポーツ未実施率においても、国、県よりも低くなっています（P.20 図 2-11）。しかしながら、本市のスポーツ実施率は平成24年度に実施したアンケート調査時から上昇したものの、計画指標の平成30年度の目標値にはわずかながら及ばないという結果で、スポーツ未実施率も前回調査と比較し、高くなり、スポーツの実施者と未実施者の二極化が進んでいます。運動不足は生活習慣病の大きな要因とされています。スポーツには生活習慣病を予防し、身体機能を強化する効果があることから、継続的なスポーツ実践者を増やす必要があります。成人の健康保持増進のため、成人が積極的にスポーツに取り組む機会を充実します。

具体的施策

①スポーツの普及啓発（スポーツ団体、みどり公園・水辺課、スポーツ課、（公財）平塚市まちづくり財団）【する】

本市におけるスポーツ未実施率は21.2%となっています（P.20 図 2-11）。意識的にスポーツすることを心がけている人を増やすため、運動習慣のない市民がスポーツを始めるきっかけとなるよう、市民にスポーツの楽しさや効果を知る機会を提供します。

②生活習慣病予防のための運動教室（健康課）【する】

運動には、健康の維持・増進や生活習慣病を予防する効果があります。しかし、週1回以上スポーツを行っている市民はおよそ半数ということから（P.20 図 2-10）、今後もその効果について関心を高める必要があります。そのきっかけづくりの1つとして生活習慣病予防のための運動教室を開催します。

③健康づくりの推進（健康課、スポーツ課）【する】

平成24年度に実施したアンケート結果から、市民が行っている、または行いたい運動は、ウォーキングや体操など身近な場所で手軽に取り組めるもので、計画の見直しに伴い、平成30年に改めて実施したアンケート結果でも同様の結果でした（P.22 図 2-14）。市では、市民を対象に一般公募を行い、運動や健康づくりの重要性を学び普及啓発活動を担う健康推進員を養成・育成しています。さらに、平塚市健康推進員連絡協議会に事業を委託し、ウォーキングやくすの木体操など市民が気軽に参加できる運動の機会を提供します。また、日常的運動習慣への啓発のため、ウォーキングによるイベントを検討します。

④地域における身近な運動機会の充実（健康課、中央公民館）【する】

アンケート結果から、仲間、家族など身近な人から誘われることも運動を始めるきっかけづくりになります（P.21 図2-12）。地域で声を掛け合うことは、運動をするきっかけだけではなく、仲間づくりができ、運動を楽しく長続きする効果も期待できます。そのため、地域主体の健康づくりを目的とした自主的な運動グループの活動を支援します。また、市民団体などからの依頼に応じて、健康づくりのための手軽な運動に関する教育を実施します。地区公民館においては、地域における自主運動グループの拠点づくりに取り組むほか、日常生活における運動のきっかけづくりとして公民館事業を行います。

⑤スポーツ・レクリエーション活動の充実（中央公民館、スポーツ課、（公財）平塚市まちづくり財団）【する】

国や県と比較して、本市は市民のスポーツ実施率が高くなっています。スポーツは継続することにより効果が期待できます。目的をもってスポーツに取り組むことは継続に繋がることから、継続的なスポーツ実践者の増加のため、スポーツ大会、スポーツ教室、市民体育レクリエーション地区大会²³などスポーツ・レクリエーション活動を充実します。

⑥ボランティアする機会の提供（スポーツ課）【する・ささえる】

アンケートで、スポーツに関するボランティア活動について聞いたところ、参加している人、または参加したいものは「特になし」と答えた人が81.1%います（P.35 図2-29）。しかしながら、スポーツボランティアの存在はこれからのスポーツの振興には欠かせないものであり、スポーツボランティアなどのスポーツ活動を通じて、地域社会に参加し積極的な役割を得ることは、自己実現、仲間づくりなどに繋がります。また、「ささえる」から「する」スポーツに興味を持ち、スポーツ参画人口の拡大にもつながるように、スポーツボランティアに気軽に取り組む機会を提供します。

²³ 体育レクリエーション活動を通じて、地域住民相互の親善と交流を深め、明るい地域づくりの推進や、スポーツ・レクリエーション活動の向上と健康の増進を図ることを目的に、地域ごとに特色ある内容で小学校区ごとに開催されている。

基本目標 2 地域スポーツの推進

主な事業

事業名	事業概要
スポーツ普及事業の開催（スポーツ団体、みどり公園・水辺課、スポーツ課、（公財）平塚市まちづくり財団）	新たにスポーツに取り組む人を増やすため、スポーツに取り組むきっかけづくりとなるイベントを開催します。
運動体験教室の開催（健康課）	市民の運動習慣を促進するため、運動の基礎教室を開催します。
ビーチスポーツ普及事業の開催（みどり公園・水辺課、スポーツ課）	新たにスポーツに取り組む人を増やすため、海辺を活かし、ビーチスポーツを普及します。
市民総合体育大会・各種スポーツ大会（スポーツ課）	市民にスポーツに取り組む機会を提供するため、市民総合体育大会や各種スポーツ大会を開催します。
スポーツボランティアの活用（スポーツ課）	ボランティア活動の機会を提供するため、市が開催するスポーツ大会などにスポーツボランティアを活用します。
日常的運動習慣への啓発事業（スポーツ課）	日常的な運動習慣への啓発のため、楽しみながら行うことのできるウォーキングイベントの開催を検討します。

【中間年による見直し】

日常的運動習慣への啓発事業（スポーツ課）【新規】

スポーツ実施者が今後もスポーツを継続し、スポーツ未実施者である、働く世代、高齢世代、子育て世代など、多くの市民が参加しやすいスポーツイベントを提供するために、「楽しむこと」を重要視して、結果的に「スポーツをすること」に繋がるようなウォーキングイベントを検討します。

スポーツボランティア登録制度（スポーツ課）【見直し】

計画策定時にスポーツボランティア登録制度の創設を検討し、平成27年度に平塚市スポーツボランティア制度の運用を開始いたしました。ボランティアをする人にとって、競技種目、イベント規模、日程など、ボランティア内容を事前に確認した上で、参加の有無を決定すると考えますが、登録制度ではボランティア内容の詳細を確認する前の登録となり、ボランティア参加者の積極的な参加を抑制してしまう懸念があります。

そのため、登録制度は見直し、イベント毎のスポーツボランティアの募集を推進します。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に伴い、市民のスポーツへの関心が高まっていることを好機と捉え、各種スポーツイベント毎にボランティアの募集を実施し、スポーツ参画人口の拡大を目指し、スポーツボランティアの活用を推進します。

基本的施策**(2) 子どものスポーツ機会の充実**

「平成 29 年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査」によると、県内の子どもの体力・運動能力は、各テスト項目の合計点の平均値を全国平均値と比較すると、すべての年齢において下回っています (P.15 図 2-4)。また、男女ともに 15 歳以上になると運動しない子どもが急増しています (P.16 図 2-5) (P.16 図 2-6)。運動頻度の増加が体力の向上に繋がることから、体育授業の質の向上、スポーツ大会などの体育行事・イベントの実施が求められます。子どもの体力向上のため、スポーツに取り組む機会を充実するとともに、学校での体育・保健体育の授業や運動部活動を充実します。

具体的施策**①親子で楽しむスポーツ活動の充実 (保育課) 【する】**

「平成 29 年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査」によると、県内の子どもの体力・運動能力は、小学校入学時から既に全国・他県よりも体力が低い傾向にあります (P.15 図 2-4)。これは、幼児期または家庭での運動の取組みが少ないのではないかと考えられます。近年子どもの生活環境の変化に伴い問題となっているニューメディアの普及や、時間、空間、仲間の 3 つの間の減少による外遊びの減少によるものと推察されます。子どものスポーツを楽しむ習慣や意欲、さらに運動能力を育成するため、未就学児とその保護者を対象に体を動かして楽しめるゲーム、ふれあい遊びなどを実施します。

②小中学校体育の授業内容の充実 (教育指導課) 【する】

平塚市の 6 歳～17 歳の運動・スポーツの実施状況では男子も女子も運動の頻度が高い人の方が運動の頻度が低い人に比べて点数が高いことから、運動している児童生徒ほど体力が高いことがわかりました (P.17 図 2-7) (P.17 図 2-8)。運動頻度を多くすることが体力の向上に繋がることから、子どもの体力づくりや運動能力向上のため、体育・保健体育の授業内容を充実します。

③中学校部活動の推進 (教育指導課) 【する】

平塚市の 6 歳～17 歳の運動・スポーツの実施状況では男子も女子も運動の頻度が高い人の方が運動の頻度が低い人に比べて点数が高く (P.17 図 2-7) (P.17 図 2-8)、運動部・スポーツクラブに加入している生徒ほど体力が高い傾向にあります。運動頻度を多くすることが体力の向上に繋がることから、子どもの体力づくりや運動能力向上のため、中学校における運動部活動を充実します。

基本目標 2 地域スポーツの推進

④子どもを対象としたスポーツ活動の充実（平塚市体育協会、スポーツ課、（公財）平塚市まちづくり財団）【する】

子どものころから運動習慣を身につけて、思春期以降も継続することが必要です。目的をもってスポーツに取り組むことは継続につながることから、子どものスポーツを楽しむ習慣や意欲、さらに運動能力を育成するため、子どもがスポーツに取り組む機会を充実します。また、高校生が継続的にスポーツを実施するよう、市民総合体育大会への参加を促進します。

主な事業

事業名	事業概要
少年少女スポーツ大会（スポーツ課）	自らスポーツを楽しむ態度を身に付け、併せて体力の向上並びに健全な心身の育成を図るため、子どもを対象としたスポーツ大会を開催します。
小学校プール開放事業（スポーツ課）	児童の心身の健全な育成と体力の向上を図るため、夏季休業中の小学校のプールを開放します。
市民総合体育大会・各種スポーツ大会（スポーツ課）（再掲）	高校生のスポーツに取り組む機会を提供するため、市民総合体育大会への参加を促進します。
青少年交流体験事業（平塚市体育協会）	青少年の共同体験を通じ、相互理解を深め、自主性、創造性等の育成を目的として、平塚市の友好都市である花巻市との青少年交流を推進します。

【中間年による見直し】

青少年交流体験事業（平塚市体育協会）【新規】

平塚市体育協会では、平塚市の友好都市である花巻市及び花巻市体育協会が実施するイーハトーブ花巻キッズアスリート研修会²⁴に参加する児童との交流を実施しております。湘南ひらつかビーチパークで行うビーチバレー等のスポーツや、親睦会などにより交流を実施しております。青少年同士の共同体験、集団活動は、相互理解を深め、自主性、協調性、創造性等を育成します。平塚市体育協会が実施する花巻市キッズアスリートの青少年交流体験事業を推進します。

²⁴ 花巻市及び一般財団法人花巻市体育協会が主催で、運動能力の優れた児童及びその保護者を対象に、専門的知識や多様なスポーツトレーニング体験の機会を提供し、競技技術の向上に資するための研修会を実施している。

基本的施策**(3) 高齢者のスポーツ機会の充実**

運動・スポーツの実施頻度は、60歳代と70歳代は、運動を継続的に行っている市民が男女ともに6割以上となっています(P.20 図2-10)。平均寿命の延伸や余暇時間の増大などにより、高齢者が日々の生活に潤いを求め、自ら体を動かして楽しむ生涯スポーツに対する欲求は、今後ますます増えていくものと考えられます。また、高齢化の進行により、要介護(要支援)認定者数は増加しており、要介護(要支援)認定者が高齢化人口に占める割合も増加が見込まれます(P.10 表2-1)。高齢者の生活の質の向上のため、高齢者がスポーツに取り組むことの大切さを理解し、スポーツを継続的にできるよう、高齢者がスポーツに取り組む機会を充実します。

具体的施策**①介護予防の運動の充実(スポーツ課)【する】**

介護が必要となった主な原因は、「骨折・転倒」が最も高く、次いで「高齢による衰弱」、他には「脳卒中(脳出血・脳梗塞など)」などです。(P.10 図2-3)。「高齢による衰弱」や「骨折・転倒」などの加齢に伴う身体機能、生活機能の低下によるものが高傾向にあります。従って、健康なうちから介護予防の運動に取り組み、身体機能を維持することが必要です。高齢者のスポーツをする機会を確保するため、ウォーキングイベントを検討します。

②高齢者を対象とした地域における身近な運動機会の充実(高齢福祉課、地域包括ケア推進課)【する】

アンケート結果から、仲間、家族など身近な人から誘われることもスポーツを始めるきっかけづくりになることが分かりました(P.21 図2-12)。地域で声を掛け合うことは、運動をするきっかけだけではなく、仲間づくりができ、運動を楽しく長続きする効果も期待できます。スポーツは継続することでより効果が期待できます。地域で自主的に運動教室を開催するサークルなどの支援を行います。また、ゆめくらぶ(老人クラブ)への支援を行います。

基本目標 2 地域スポーツの推進

主な事業

事業名	事業概要
介護予防のための運動の習慣化（スポーツ課） （再掲）	高齢者の身体機能維持を目的に、スポーツをする機会の確保を図るため、ウォーキングイベントの開催を検討します。
地域運動教室支援事業（地域包括ケア推進課）	地域で自主的に運動教室を開催するサークルなどの支援を行います。また、新たにサークルなどの設立を希望する団体の支援を行います。
ゆめクラブ湘南平塚スポーツ大会（高齢福祉課）	スポーツを楽しむことを通じて高齢者の生きがいの高揚を図るとともに社会との連帯感を養成し、もって老人福祉の向上を図るため、高齢者を対象としたスポーツ大会を開催します。
ゆめクラブ湘南平塚グラウンドゴルフ大会（高齢福祉課）	グラウンドゴルフを愛好するゆめクラブ会員が、競技を通し有効と連帯を深めつつ、お互いに生きがいと健康の保持増進に役立て、高齢者の福祉の発展に寄与することを目的にグラウンドゴルフ大会を開催します。

【中間年による見直し】

介護予防のための運動の習慣化（スポーツ課）【新規】

高齢者にとって、健康なうちから介護予防の運動に取り組み、身体機能を維持することが重要です。アンケートの結果では、今後行いたい運動やスポーツの回答率では「ウォーキング」が60歳代で59.7%、70歳代で64.8%となっています（P.23 表 2-8）。高齢者のスポーツをする機会を確保し、身体機能の維持を目的にウォーキングイベントの開催を検討します。

筋肉はつらつ教室・お体はつらつ教室・転倒骨折予防教室（高齢福祉課）【廃止】

計画策定当初、高齢者に対し、器具を使った運動、ストレッチ、有酸素運動などができる運動教室や転倒予防の教室を開催する事業を行政としても実施しておりましたが、現在は行政主体の介護予防運動教室は廃止となり、介護予防への取り組みを実施している団体等の活動の支援が中心となっています。

基本的施策**(4) 障がい者のスポーツへの参加促進**

平成 29 年度スポーツ庁委託事業「地域における障害者スポーツ普及促進事業報告書」によると、成人の障がい者の週 1 日以上スポーツ実施率は 20.8% (P.28 図 2-22) で、国の成人一般の 51.5% (P.20 図 2-10) と比較すると半分以下になっています。また、過去 1 年間でスポーツを「行っていない」障がい者は成人で 58.9% と高く、7 歳～19 歳では 43.8% と子どもの頃からスポーツを親しめていないこともわかります。多くの障がい者がスポーツに親しみ、イベントなどを通じて、障がいのある人とない人が共にスポーツを楽しむ場を作るなど、共生社会の実現を目指し、障がい者のスポーツ活動を支援するとともに、障がい者がスポーツに取り組む機会を充実します。

具体的施策**①障がい者スポーツ活動の支援 (障がい福祉課) 【する】**

より多くの障がい者が各種障がい者スポーツ大会への参加などを通じて、生活の質を向上するため、各種障がい者スポーツ大会への参加を始めとした障がい者のスポーツ活動を支援します。

②障がい者のスポーツ・レクリエーション活動の充実 (スポーツ課) 【する】

より多くの障がい者にスポーツ・レクリエーションに取り組んでもらうためには、スポーツに取り組むきっかけづくりが必要です。本市障がい者がスポーツ・レクリエーションを通じて、生活の質を向上するため、障がい者がスポーツ・レクリエーション活動に取り組む機会を提供します。

主な事業

事業名	事業概要
障がい者スポーツ大会などへの参加支援 (障がい福祉課)	各種障がい者スポーツ大会への参加や、障がい者施設や障がい者団体などが積極的、主体的に行う各種スポーツ教室を支援します。
ひらつかパラスポーツフェスタの開催 (スポーツ課)	障がい者スポーツ関係団体や企業等と連携して、ひらつかパラスポーツフェスタを開催し、障がい者スポーツの理解促進を図ります。

【中間年による見直し】**ひらつかパラスポーツフェスタ開催事業 (スポーツ課) 【新規】**

障がい者のスポーツ実施率は低く、障がい者スポーツの普及促進のためには、障がいの程度や種類に応じた配慮が求められ、また、障がい者スポーツ関係団体、行政、企業等が連携し、障がい者がスポーツに親しみやすい環境づくりが必要です。

基本目標 2 地域スポーツの推進

本市では、リトアニア共和国オリンピック及びパラリンピック委員会と事前キャンプに関する協定を締結しており、今後も様々な交流が実施されます。また、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会開催は、障がい者や障がい者スポーツへの理解の向上が期待できます。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催を好機として、障がい者スポーツの普及・啓発イベントなどを通じて、障がい者スポーツへの社会の関心を高めることが重要です。したがって、新たに「ひらつかパラスポーツフェスタ」を開催し、開催を契機に、障がい者スポーツに対する理解促進を図り、障がいのある人となない人がスポーツを一緒に楽しむなど、共生社会の実現を目指します。

※平成30年度に神奈川県と共催で「かながわパラスポーツフェスタ」を平塚市で開催。

心身障がい児者レクリエーション大会（障がい福祉課）【廃止】

平塚市社会福祉協議会で実施していた「福祉フェスティバル」に付随して実施していた事業で、ふれあいミニ運動会などを実施しておりましたが、「福祉フェスティバル」の終了に伴い、心身障がい児者レクリエーション大会も平成27年度で廃止されています。

基本目標 2 地域スポーツの推進

生涯スポーツを推進するためには、地域のサポートが欠かせません。本市では、平塚市体育振興連絡協議会や平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚市スポーツクラブ連合、平塚レクリエーション連盟などによって、地域のスポーツ活動が行われています。しかしながら、地域のスポーツ活動に関わる人々が固定化しており、活動が広がっていかない現状があります。今後、市民に積極的にスポーツに取り組んでもらうためには、行政だけでなく、スポーツ関係団体、大学など様々な主体が連携・協働し、身近な地域でスポーツを楽しむことができる環境を整える必要があります。

そのため、スポーツ関係団体による地域のスポーツ活動の活性化、総合型地域スポーツクラブの育成・支援、大学との連携などを通じて、地域住民の交流を深め、地域の一体感や活力を醸成し、地域住民が主体的に参画するよう、地域のスポーツ活動を推進します。

基本目標 2 地域スポーツの推進

基本的施策

(5) 地区体育・スポーツの普及・発展

本市には県内各市（政令指定都市を除く）のうち10市にしかない体育振興連絡協議会があり、地区体育振興事業を始めとした地域のスポーツ活動が活発に行われています。しかしながら、地区体育振興事業の参加人数は増加傾向にあるものの（P.34 図 2-27）、地域のスポーツ活動への参加者が固定化しています。地域の一体感や活力を醸成するため、地域住民がスポーツを通じて交流を深められるよう、地域のスポーツ活動に参画する機会を充実します。

具体的施策

①地区体育・スポーツの振興（平塚市体育振興連絡協議会、スポーツ課）【する・ささえる】

市民相互の親睦と心身の健康の保持増進を図るとともに地区体育の普及、振興のため、体育振興連絡協議会と連携し、地域でスポーツ大会やレクリエーション事業などを開催します。

②地域スポーツの底辺拡大（スポーツ課）【ささえる】

地域スポーツ水準の向上を目指し、市民の体育・スポーツ活動の普及・振興を図るため、平塚市スポーツ普及員認定制度を定め、スポーツ活動の促進に向けて優れた取組やスポーツ分野における社会貢献活動を実施している個人を「平塚市スポーツ普及員」として認定します。

主な事業

事業名	事業概要
地区体育振興事業（平塚市体育振興連絡協議会、スポーツ課）	地区体育の普及、振興のため地区体育振興会が主体となって、地域でスポーツ大会やレクリエーション事業などを開催します。
スポーツ普及員の認定（スポーツ課）	地域でスポーツの普及を担う個人をスポーツ普及員として認定します。

基本的施策**(6) ニュースポーツ・レクリエーションの普及**

本市におけるスポーツ未実施率は 21.2 パーセントとなっています。スポーツをしていない人の年代別では、50 歳代の割合が高く、次いで 20 歳代、30 歳代となっています (P.20 図 2-11)。運動が苦手だと思っている人は、スポーツ関係の地域行事への参加を遠慮しがちです。本市には政令指定都市を除き、県内でも 3 番目に多い 94 人のスポーツ推進委員がいます (P.33 図 2-26)。運動が苦手な人、子ども、高齢者でも始めやすいニュースポーツやレクリエーション活動の活性化のため、スポーツ推進委員が中心となって、関係団体と連携しながら、ニュースポーツやレクリエーションの普及を図ります。

具体的施策**①スポーツ推進委員の資質向上 (平塚市スポーツ推進委員協議会、スポーツ課) 【ささえる】**

スポーツ振興に期待することを聞いたところ、1 位が「年齢層にあったスポーツの普及活動」でした (P.25 図 2-18)。ニュースポーツは競技性を重視せず、誰でも参加できることを目的としたスポーツであることから、気軽にスポーツを楽しむ人を増やすため、地域住民に対するニュースポーツの指導、助言を行うスポーツ推進委員の資質の向上を図ります。

主な事業

事業名	事業概要
スポーツ推進委員研修会 (平塚市スポーツ推進委員協議会、スポーツ課)	スポーツ推進委員の資質向上のため、スポーツ推進委員協議会が主体となって研修会を行います。
県スポーツ推進委員研修会などへの派遣 (平塚市スポーツ推進委員協議会、スポーツ課)	スポーツ推進委員の資質向上のため、県などが行う研修会などへスポーツ推進委員を派遣します。

基本目標 2 地域スポーツの推進

基本的施策

(7) 総合型地域スポーツクラブの育成・支援

運動習慣のない市民にとって、運動・スポーツを始めるきっかけとなりそうなものは、1位が「自宅から近距離（徒歩圏）に運動できる場所や施設の整備」、3位が「仲間、家族などからの誘い」でした（P.21 図 2-12）。老若男女を問わず、いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも、スポーツを楽しむことができるような環境を整えるためには、地域に根づいた総合型地域スポーツクラブの存在は欠かせません。しかしながら、総合型地域スポーツクラブを知らない人は約 72.9%います（P.24 図 2-16）。地域住民が自発的にクラブをつくり、運営していくことにより、地域に根ざした個性豊かな総合型地域スポーツクラブが誕生します。市民の自発的・自主的なスポーツ活動を活性化するため、総合型地域スポーツクラブの育成・支援を図ります。

具体的施策

①総合型地域スポーツクラブの育成・支援（スポーツ課）【する】

総合型地域スポーツクラブは地域住民の自主的な運営を求められることから、市民の自発的・自主的なスポーツ活動を活性化するため、総合型地域スポーツクラブの育成・支援をします。

主な事業

事業名	事業概要
総合型地域スポーツクラブの相談窓口の設置（スポーツ課）	総合型地域スポーツクラブの育成・支援及び創設を目指す団体の相談に応じます。

基本的施策**(8) 大学などとの連携強化**

本市には、東海大学と神奈川大学がキャンパスを構えています。大学に蓄積された専門的な知識や優秀な人材を地域に還元することは、スポーツ実践者の知的探究心の充足や技術の向上に繋がります。大学と地域との交流が深まることによって、地域のスポーツ活動の活性化が期待されることから、地域のスポーツ活動を活性化するため、地域と大学などとの連携を深めます。

具体的施策**①大学と地域との連携強化（大学、スポーツ課）【ささえる】**

大学の持つ専門的な知識や優秀な人材を地域に還元することは、スポーツ実践者の知的探究心の充足や技術の向上に繋がるため、東海大学や神奈川大学と地域との連携が深まるようなスポーツイベントなどを開催します。

主な事業

事業名	事業概要
平塚市中学生陸上競技・バスケットボール教室 (東海大学、スポーツ課)	大学が有する人材や施設、ノウハウなどを活かし、中学生を対象とした陸上競技及びバスケットボール教室を開催します。
平塚市民・大学スポーツ交流事業（東海大学、神奈川大学、スポーツ課）	各種スポーツ及びニュースポーツなどによる地域と大学の交流を通して、生涯スポーツの普及、地域と大学の発展を図ります。
東海大学への委任による小中学校体育施設個人開放事業（東海大学、スポーツ課）	東海大学地域スポーツクラブに委任して、東海大学などの施設を利用して、子どもたちを中心とした地域住民に様々なプログラムを提供します。

基本目標 3 トップスポーツの推進

生涯スポーツを推進するためには、トップスポーツのサポートが欠かせません。本市は、湘南ベルマーレのホームタウン（本拠地）の一つに定められ、さらにホームスタジアムが置かれています。全国 1,718 市町村（平成 30 年 10 月 1 日現在）のうち、54 クラブある J クラブのホームタウンに定められている市町村は少なく、本市はトップスポーツに触れ合う機会が充実していると言えます。

湘南ベルマーレは、その知識やノウハウを活かして、子どもたちに対して、幼稚園・保育園巡回教室や小学校巡回授業、サッカースクール、トレーニングセンターへの指導者派遣などを行い、次代を担う子どもにスポーツの楽しさを伝えるとともに、技術の向上を図っています。スポーツの楽しさを知ることで、サッカーのみならずスポーツに取り組む子どもたちが増えることが期待されます。また、本市から J リーガーを始めとしたトップアスリートが生まれ、活躍することは、市民に誇りや喜びを与え、市民のスポーツへの意欲や興味・関心を高めるとともに、スポーツに取り組むきっかけづくりとなります。

さらに、スポーツに取り組む市民の様々な欲求に対し、適切にサポートするために、スポーツ指導者は欠かせません。市民一人ひとりが多様な目的や能力に応じて主体的な実践能力を高め、継続的なスポーツ実践者の増大を図るため、スポーツ文化を豊かに享受する能力を育成することができる、資質や能力の高いスポーツ指導者が必要とされます。

そのため、地元トップアスリートの輩出、湘南ベルマーレとの連携、スポーツ指導者の発掘と活用、トップスポーツの活用などを通じて、市民に誇りや喜び、夢や感動を与え、市民の活気があふれるよう、トップスポーツによるスポーツ活動を推進します。

基本的施策**(9) 地元トップアスリートの輩出**

国際大会や全国規模の大会における地元トップアスリートの活躍は、市民に誇りや喜びを与えます。そのため、スポーツ選手や競技団体の強化活動の支援を通じて、本市の競技スポーツ水準を向上させ、地元トップアスリートを輩出します。

具体的施策**①選手の競技力強化（平塚市体育協会、スポーツ課）【ささえる】**

本市の競技スポーツ水準の向上のため、市内スポーツ選手が国内外の大会で活躍できるよう、選手の競技力強化を図ります。

②選手の派遣（平塚市体育協会、スポーツ課）【ささえる】

本市の競技スポーツ水準の向上のため、市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会²⁷などに選手を派遣します。

③表彰制度の充実（平塚市体育協会、スポーツ課、（公財）平塚市まちづくり財団）【ささえる】

本市の競技スポーツ水準の向上のため、全国大会などで優秀な成績を収めた選手や本市体育の振興に顕著な成果をあげた体育関係者及び社会体育団体を表彰します。

④優秀選手などに対する支援（平塚市体育協会、（公財）平塚市まちづくり財団）【ささえる】

本市の競技スポーツ水準の向上のため、関東・全国または国際大会に出場し、優秀な成績を収めた選手を支援します。また、市内の団体が主催する全市的に一般市民を対象とする大会の会場使用料を支援します。

⑤平塚市体育協会の自立・支援（平塚市体育協会、スポーツ課）【ささえる】

²⁷ 各市町村から選抜された選手が、秦野市カルチャーパーク（陸上競技場）をスタートし、フィニッシュ地点の県立相模湖公園を目指し、7区間（51.5km）をたすきリレーするもの。

基本目標3 トップスポーツの推進

本市では、主に平塚市体育協会が競技スポーツを牽引しています。さらに本市の競技力を強化するには、平塚市体育協会の組織力を強める必要があります。本市の競技スポーツ水準を向上するため、平塚市体育協会の自立を支援します。

主な事業

事業名	事業概要
競技力強化事業（平塚市体育協会、スポーツ課）	平塚市体育協会に委託して本市スポーツ選手の強化育成を行います。
市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会などへの選手派遣（平塚市体育協会、スポーツ課）	市民スポーツ振興のため、市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会などに選手を派遣します。
スポーツ優秀選手表彰（平塚市体育協会、スポーツ課（公財）平塚市まちづくり財団）	全国大会などで優秀な成績を収めた選手の表彰を行います。
体育功労者表彰（スポーツ課）	スポーツの健全な普及・発展に貢献し、本市体育の振興に顕著な成果をあげた体育関係者及び社会体育団体を表彰します。
平塚市体育協会の法人化に向けた自立・支援（平塚市体育協会、スポーツ課）	平塚市体育協会の自主的な活動を推進するため、法人化に向けた支援を行います。

基本的施策

(10) 湘南ベルマーレとの連携強化

『Jリーグ規約』には、Jクラブはホームタウン（本拠地）と定めた地域で、その地域社会と一体となったクラブづくりを行いながらサッカーの普及、振興に努めなければならないことが記されています。つまり、「Jクラブと地域社会が一体となって実現する、スポーツが生活に溶け込み、人々が心身の健康と生活の楽しみを享受することができる町」を意味しています。本市は、湘南ベルマーレがホームタウンと定めた地域のひとつで、かつホームスタジアムがあります。

トップスポーツにより培われるアスリートの技術や経験、人間的な魅力は社会的な財産であり、それらを地域におけるスポーツに還元することは、スポーツの活性化と裾野の拡大に繋がるとともに、新たな次世代アスリートの発掘・育成によるトップスポーツの伸長にも寄与するものと考えられます。スポーツ界の好循環の創出のため、本市をホームタウンとする湘南ベルマーレとの連携を深め、サッカーを中心としたスポーツの振興を図ります。

具体的施策

① サッカー文化の振興（湘南ベルマーレ、スポーツ課）【みる・ささえる】

トップスポーツにより培われるアスリートの技術や経験、人間的な魅力を地域におけるスポーツに還元することは、スポーツの活性化と裾野の拡大に繋がるとともに、新たな次世代アスリートの発掘・育成によるトップスポーツの伸長にも寄与します。スポーツ界の好循環の創出のため、湘南ベルマーレの指導者を小学校体育巡回授業、幼稚園・保育園巡回教室²⁸、平塚市トレーニングセンター²⁹に指導者を派遣し、サッカーを楽しむ機会を充実します。

② サッカーを中心としたスポーツ振興（湘南ベルマーレ、総合公園課）【みる・ささえる】

トップスポーツにより培われるアスリートの技術や経験、人間的な魅力を地域におけるスポーツに還元することは、スポーツの活性化と裾野の拡大に繋がるとともに、新たな次世代アスリートの発掘・育成によるトップスポーツの伸長にも寄与します。スポーツ界の好循環の創出のため、湘南ベルマーレによるサッカースクールなどを開催します。

²⁸ ホームタウン 10 市町の小学校の正規の授業の中でベルマーレのコーチが子どもたちにボール運動を指導している。また、小学校体育巡回授業に加え、2007 年より本市では幼稚園や保育園での巡回教室に対する補助を行っている。

²⁹ 日本サッカー協会が「日本サッカーの強化、発展のため、将来日本代表選手となる優秀な素材を発掘し、良い環境、良い指導を与えること」を目的に始めた選抜した選手の強化練習制度で、平塚市サッカー協会が開催する地区トレセンのこと。

基本目標3 トップスポーツの推進

③自転車を活用したスポーツの推進（湘南ベルマーレ、事業課、（公財）平塚市まちづくり財団） 【みる・ささえる】

本市には全国初の本格的なサイクリングコースや競輪場があり、自転車を活用したスポーツの基礎的条件に恵まれています。さらに、今後行いたい運動・スポーツでも「サイクリング」が上位となっています（P.22 図2-14）。自転車を活用したスポーツの活性化や裾野の拡大のため、湘南ベルマーレのサイクルロードチームと連携してサイクルイベントなどを開催します。

主な事業

事業名	事業概要
小学校体育巡回授業、幼稚園・保育園巡回教室（湘南ベルマーレ、スポーツ課）	子どもたちがサッカーを楽しむ機会を設けるため、小学校の体育授業や幼稚園・保育園に湘南ベルマーレの指導者を派遣します。
平塚市トレーニングセンターへの指導者派遣（湘南ベルマーレ、スポーツ課）	本市ジュニアサッカー選手育成のため、優れた指導力を備える湘南ベルマーレの指導者を平塚市トレーニングセンターに派遣します。



基本的施策**(11) スポーツ指導者の発掘と活用**

本市には、日本体育協会公認スポーツ指導者資格を持つ指導者が240人います(P.35 表2-12)。それ以外にも競技団体に認定している資格などを持つ指導者が地域に眠っています。スポーツ指導者は、生涯スポーツ社会を実現していくための先導者として欠くことのできない存在です。スポーツに取り組む市民の様々な欲求に対し、適切にサポートしていくことが必要です。本市のスポーツ水準向上のため、スポーツ指導者が地域で活躍できる場を提供します。

具体的施策**①スポーツ指導者の確保と派遣（スポーツ課）【ささえる】**

本市のスポーツ水準向上のため、市内スポーツ指導者を積極的に活用するとともに、スポーツ指導者登録制度を運用します。また、スポーツ指導者が、スポーツ関係団体やサークル団体のニーズに応じて活躍する場を確保するため、スポーツ指導者の派遣先を募集します。

②スポーツ指導者の育成（平塚市体育協会、平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚市スポーツクラブ連合、スポーツ課）【ささえる】

スポーツ指導者の資質向上を図るため、平塚市体育協会、平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚市スポーツクラブ連合と連携し、スポーツ指導者を対象とした講習会を実施します。

主な事業

事業名	事業概要
平塚市スポーツ指導者制度の運用（スポーツ課）	資格や能力を活かしていないスポーツ指導者が活躍できるよう、平塚市スポーツ指導者制度を運用します。
スポーツ指導者講習会 ³¹ （平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚市スポーツクラブ連合、スポーツ課）	スポーツ指導者の資質向上を図るため、平塚市スポーツ推進委員協議会と平塚市スポーツクラブ連合が主体となり、地域で活動するスポーツ指導者を対象とした講習会を行います。
平塚市体育協会指導者講習会（平塚市体育協会）	スポーツ指導者の資質向上を図るため、平塚市体育協会が主体となり、競技スポーツの指導者を対象とした講習会を行います。

³¹ 平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚市スポーツクラブ連合が中心となり開催している地域で活動する指導者の資質向上を図るための講習会のこと。

基本目標3 トップスポーツの推進

基本的施策

(12) トップスポーツの活用

本市では、様々なトップスポーツの試合や全国規模のスポーツ大会が開催されています(P.30 表2-9)。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、リトアニア共和国オリンピック及びパラリンピック委員会と事前キャンプの実施に関する協定を締結しており、リトアニア共和国のトップアスリートと触れ合う機会があります。トップアスリートの技術や経験は財産であり、トップスポーツを身近に感じることは市民に夢や感動を与えます。試合観戦の臨場感・高揚感を味わうことのできる機会を充実するとともに、選手と直に触れ合えるようなイベントを開催します。

具体的施策

① トップスポーツに触れる機会の充実（みどり公園・水辺課、総合公園課）【みる】

市民のスポーツへの興味・関心を高めるため、湘南ベルマーレや横浜 DeNA ベイスターズ、横浜ビー・コルセアーズなどの試合を開催し、スポーツ観戦の臨場感・高揚感を味わうことのできる機会を充実します。

② 全国規模大会などの支援（スポーツ課）【みる】

市民のスポーツへの興味・関心を高めるため、広く市民が観覧できる全国規模のスポーツ大会などを開催する団体を支援します。

③ トップアスリートの活用（スポーツ団体、総合公園課、オリンピック・パラリンピック推進課、（公財）平塚市まちづくり財団）【みる】

市民のスポーツへの興味・関心を高めるため、ひらつか市民スポーツフェスティバル開催に伴い実施される各競技の体験教室、湘南ベルマーレや横浜 DeNA ベイスターズ、横浜ビー・コルセアーズなどのプロスポーツチームのイベント、リトアニア共和国事前キャンプ実施に伴う交流事業等で、トップアスリートと直に触れ合う機会を設けます。

主な事業

事業名	事業概要
全国規模のスポーツ大会などの主催者への支援 (スポーツ課)	市民のスポーツへの興味・関心を高めるため、広く市民が観覧できる全国規模のスポーツ大会などを開催する団体を支援します。
トップアスリートを活用したイベントの開催(オリンピック・パラリンピック推進課)	市民のスポーツへの興味・関心を高めるため、市民がトップアスリートと直に触れ合えるイベントを開催します。

【中間年による見直し】**トップアスリートの活用 (オリンピック・パラリンピック推進課、総合公園課) 【新規】**

本市では2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、リトアニア共和国オリンピック及びパラリンピック委員会と神奈川県との三者で事前キャンプの実施に関する協定を締結しており、リトアニア共和国のトップアスリートと触れ合う機会があります。既にテストキャンプを通じて、トップアスリートとの交流を実施しております。また、リトアニア共和国からの訪問団による文化的交流も実施しており、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を契機として、スポーツを通じた共生社会、経済、地域活性化の実現を目指します。

基本目標 4 スポーツを楽しむ環境づくり

生涯スポーツを推進するためには、身近で気軽に利用できるスポーツ施設の充実や市民のニーズに応じたスポーツ情報の提供などのスポーツを楽しむ環境づくりが欠かせません。

運動習慣のない市民にとって、運動・スポーツを始めるきっかけとなりそうなものは、1位が「自宅から近距離（徒歩圏）に運動できる場所や施設の整備」でした（P.21 図 2-12）。しかしながら、新規のスポーツ施設の整備は難しいため、施設の有効利用の観点から、必要に応じて施設の使用方式、使用時間、使用区分などの見直し、市民が施設を利用しやすい環境整備が必要です。また、受益者負担の観点から、施設の健全な経営を図り、サービスを充実させるため、使用料の見直しを実施しています。本市のスポーツ施設では、平成 18 年度からひらつかアリーナと馬入ふれあい公園サッカー場、平成 21 年度から桃浜町庭球場と軟式庭球場の 4 施設で指定管理者制度を導入しています。指定管理者による利用者アンケートによると、満足度は高くなっています（P.40 図 2-33）（P.40 図 2-34）（P.41 図 2-35）。市民ニーズの変化をとらえながら、サービス向上による利用者満足度を高めていく必要があります。

また、運動習慣のない市民にとって、運動・スポーツを始めるきっかけになりそうなものとして挙げられた回答をみると、2位が「健康意識（ダイエットを含む）への啓発」でした（P.21 図 2-12）。市民のスポーツへの自発的な参加を促進するため、「ひらつかスポーツナビ³²」、「広報ひらつか」、（公財）平塚市まちづくり財団が発行する「スポーツタウンひらつか」などを用いて、健康意識の啓発を図ります。総務省調査によると、何かを自発的に調べようとする際、年代を問わず何かを調べる際の最も一般的な手段として、インターネットが広く浸透していることがわかります（P.44 図 2-38）（P.45 図 2-39）。そのため、「ひらつかスポーツナビ」の内容の充実とサイト自体の周知を図り、スポーツ団体やサークルの情報やスポーツ大会・教室の情報などのスポーツ情報を提供していきます。

³² 平塚市民のスポーツ活動の推進や健康増進のきっかけづくりになることを目指し、スポーツを希望する市民が「いつでも、どこでも、手軽に」市内のスポーツ情報を得ることができるよう、スポーツ団体、イベント、施設等の情報を一元化したスポーツ情報ポータルサイト。

基本的施策

(13) スポーツ施設等の充実

運動習慣のない市民にとって、運動・スポーツを始めるきっかけとなりそうなものは、1位が「自宅から近距離（徒歩圏）に運動できる場所や施設の整備」でした（P.21 図2-12）。スポーツの習慣化を図るためには、気軽にスポーツを楽しむことができる場所やスポーツ用具の充実が欠かせません。継続的なスポーツ実践者を増やすため、市民が自宅から近距離でスポーツをすることができるよう、既存スポーツ施設を活用してスポーツ施設を充実します。

具体的施策

①効率的な施設の運営・管理（みどり公園・水辺課、総合公園課、中央公民館、スポーツ課）

【ささえる】

気軽にスポーツを楽しむことができる場所を増やすとともに、サービス向上による利用者満足度を高めるため、必要に応じて施設の使用法、使用時間、使用区分などの見直しや使用料の見直しを行います。

②その他の施設の情報把握（スポーツ課）【ささえる】

市民が気軽にスポーツを楽しむことができる機会を増やすためには、スポーツを楽しむ場所が必要です。スポーツを楽しむ場所を提供するため、民間スポーツ施設等の情報把握を行います。

③スポーツ用具の有効活用（スポーツ課）【ささえる】

市民が気軽にスポーツを楽しむことができる機会を増やすためには、スポーツを楽しむ用具が必要です。スポーツを楽しむ機会を提供するため、スポーツ用具の貸出しを行います。

基本目標 4 スポーツを楽しむ環境づくり

主な事業

事業名	事業概要
スポーツ施設の運営・管理（スポーツ課）	利用者がより利用しやすい施設となるよう運営・管理していきます。
指定管理者制度の活用（みどり公園・水辺課、総合公園課、スポーツ課）	市民サービスの向上と経費の節減を図るため、指定管理者制度を活用します。
学校体育施設開放の個人利用の促進（スポーツ課）	市民がスポーツに取り組む場所を増やすため、学校体育施設開放の個人利用を促進します。
民間スポーツ施設の情報把握（スポーツ課）	市民が気軽にスポーツを楽しむことができる機会を増やすために民間スポーツ施設等の情報把握を行います。
スポーツ用具の貸し出し（スポーツ課）	市民が気軽にスポーツを楽しむことができる機会を増やすためにスポーツ用具の貸し出しを行います。

【中間年による見直し】

スポーツ用具の有効活用（スポーツ課）【新規】

本市ではニュースポーツを中心としたスポーツ用具を取り揃えています。市民が気軽にスポーツを楽しむことができるように、各種団体にスポーツ用具の貸出しを行います。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、市民のスポーツへの関心が高まっていることを好機と捉え、市民が継続してスポーツに取り組むように貸出し用のスポーツ用具の充実も図りながら、市民のスポーツ活動の実施を側面から推進します。

未利用地所有者との調整、県スポーツ施設及び民間スポーツ施設の借用（スポーツ課）【見直し】

計画策定時に新たにスポーツを楽しむ場所として未利用地を探すことや、県及び民間スポーツ施設を借用することを検討しましたが、借用等の新規の施設整備は難しいことから、民間スポーツ施設等の設備内容、利用実績、借用の可否などを市民に情報として提供できるよう情報把握を行います。

基本的施策**(14) スポーツ情報の提供の充実**

運動習慣のない市民にとって、運動・スポーツを始めるきっかけとなりそうなものを聞いたところ、2位が「健康意識（ダイエット含む）への啓発」でした（P.21 図 2-12）。豊富な情報はスポーツへの興味・関心を高めるとともに、スポーツを始めるきっかけづくりとなります。継続的なスポーツ実践者を増やし、スポーツ未実施者の減少のため、スポーツに関する情報を多様な手段を用いて提供します。

具体的施策**①スポーツ情報の提供（スポーツ課、（公財）平塚市まちづくり財団）【ささえる】**

スポーツへの興味・関心を高めるため、「広報ひらつか」や「スポーツタウンひらつか」、地元メディアなどを活用して、スポーツに関する情報を充実させます。さらに、スポーツを始めたい人が手軽に情報を得られるよう、「ひらつかスポーツナビ」などを用いて、スポーツに関連する団体やサークルの情報やスポーツ大会・教室の情報などを一元化して提供していきます。

主な事業

事業名	事業概要
スポーツに関する情報の提供（スポーツ課、（公財）平塚市まちづくり財団）	スポーツを始めたい人が手軽にスポーツに関する情報を得られるよう、「ひらつかスポーツナビ」「スポーツタウンひらつか」などを用いて広く市民に提供します。
地元メディアの活用（スポーツ課）	地元メディアを活用し、スポーツに関する情報を広く市民に提供します。



第4章

第4章 スポーツ推進計画の実現に向けて

1 計画の推進体制

(1) スポーツ関係団体などとの連携による推進

スポーツ関係団体、大学、トップスポーツなどの役割を明確にした上で連携し、計画的な事業の推進を図ります。（表 2-16）

表 2-16 スポーツ関係団体などの主な役割

スポーツ関係団体	内容
平塚市体育協会	各種目競技の大会開催や競技力強化事業などの実施を通して、競技スポーツの推進を担う。
平塚市体育振興連絡協議会	地区体育の普及・発展を目指し、地域のスポーツ活動の推進を担う。
平塚市スポーツ推進委員協議会	スポーツの実技指導や行政との連絡調整などを通して、本市及び地域のスポーツ推進を担う。
平塚レクリエーション連盟	各種レクリエーションの実践を通して、本市レクリエーションの普及・発展を担う。
平塚市スポーツクラブ連合	スポーツクラブの育成及び相互の連絡、協調を通して、スポーツクラブ活動を活性化し、地域スポーツの推進を担う。
(公財) 平塚市まちづくり財団	本市スポーツ施策を補完する団体として、スポーツ教室などによるスポーツをする機会の提供をはじめ、スポーツ団体などの活動支援、スポーツ情報の提供などを担う。
湘南ベルマーレ	プロサッカーチームとして、市民に夢や希望を与え、スポーツの興味・関心を高めるとともに専門的知識やノウハウの提供を通して、市民のスポーツ活動及び健康づくりの推進を担う。
横浜 DeNA ベイスターズ	プロ野球チームとして、市民に夢や希望を与え、スポーツの興味・関心を高めるとともに専門的知識やノウハウの提供を通して、市民のスポーツ活動の推進を担う。
横浜ビー・コルセアーズ	プロバスケットボールチームとして、市民に夢や希望を与え、スポーツの興味・関心を高めるとともに専門的知識やノウハウの提供を通して、市民のスポーツ活動の推進を担う。
東海大学	大学が有する専門的知識や人材の提供及び交流を通して、本市及び地域のスポーツ活動の推進を担う。
神奈川大学	大学が有する専門的知識や人材の提供及び交流を通して、本市及び地域のスポーツ活動の推進を担う。

基本目標 4 スポーツを楽しむ環境づくり

(2) 庁内連携による推進

市民のスポーツへの志向は、従来の競技スポーツから、健康づくりや余暇時間を利用した生きがいづくりとしてスポーツを楽しむ生涯スポーツまで多様化しています。市民の多様なニーズに対応する施策を効率的に展開するため、スポーツに係る課との役割を明確にした上で連携をし、水平展開しながら計画的な事業の推進を図ります。（表 2-17）

表 2-17 関係課の主な役割

関係課 (所管する計画)	内容
オリンピック・パラリンピック推進課	2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を契機として、多くの市民が様々な形でスポーツへ関わることのできる環境づくりを担う。
事業課	競輪事業の一環として自転車を活用したスポーツの普及・振興を担う。
協働推進課	スポーツに関わる市民活動団体の活動支援や行政との協働へつなぐ役割を担う。
高齢福祉課 (平塚市高齢者福祉計画(介護保険事業計画))	高齢者の健康づくりや生きがいづくりを目指す中で、スポーツに関連する分野を担う。
地域包括ケア推進課	
障がい福祉課 (平塚市障がい者福祉計画)	障がい者の自立と社会参加を目指す中で、スポーツに関連する分野を担う。
保育課 (次世代育成支援行動計画)	幼児の心身の健全な発達を目指す中で、スポーツに関連する分野を担う。
健康課 (平塚市健康増進計画)	市民の健康づくりを目指す中で、スポーツに関連する分野を担う。
みどり公園・水辺課	スポーツをする場やトップスポーツに触れる機会の提供を担う。
総合公園課	スポーツをする場、トップスポーツに触れる機会の提供及びトップアスリートの活用を担う。
教育指導課	学校での体育・保健体育の授業及び運動部活動などの指導的・統括的な役割を担う。
スポーツ課	各種スポーツ事業の実施やスポーツをする場の提供など、スポーツ施策を統括し、推進役を担う。
中央公民館	生涯学習の推進を目指す中で、スポーツをする場の提供やスポーツ・レクリエーションをする機会の提供を担う。

2 計画の進行管理

計画の着実な推進を図るため定期的な進行管理を行います。スポーツ関連事業を効果的に推進するために、計画・実施・評価・見直しという PDCA サイクルを確立し継続的に改善を図っていきます。

計画の進捗状況の点検及び評価については、「平塚市スポーツ推進審議会³³」に報告し、改善の検討などを行います。進捗状況はホームページなどで市民に公表します。

³³ スポーツの推進に関する重要事項について調査審議し、教育委員会に建議する審議会のこと。

3 計画指標

「スポーツを楽しむ、健康で長寿のまち ひらつか」を実現するために、基本目標ごとに目標値を掲げ、取り組みの成果を図ります。また、今後、平塚市スポーツ推進審議会や関係団体の意見なども踏まえ、柔軟な進行管理に努めてまいります。

(目標値は、現状値を基に平成 26 年度から 10 年間の計画期間に取り組む指標としています。)

(1) 基本目標 1 「生涯スポーツの推進」の指標

- 市民の週 1 回以上のスポーツ実施率

現状値 (H24)	目標値 (H30)	目標値 (H35)
54.1%	56.1%	58.1%

参考：市アンケート。目標値 (H30)、目標値 (H35) は、国の週 1 回以上スポーツ実施率の 1 年あたりの変化率³⁴である 0.3 ポイントを 0.1 ポイント上回る 0.4 ポイントの上げ幅とする。

- 児童生徒に占める少年少女スポーツ大会・スポーツ教室の参加者数の割合

現状値 (H24)	目標値 (H30)	目標値 (H35)
10.8%	12.2%	13.5%

参考：市、関係団体からの情報。目標値 (H35) は、H20~H24 の期間での最高値である 13.5% (H21) とする。目標値 (H30) は、現状値から目標値 (H35) までのおよそ半数の 12.2% とする。

- 介護予防事業の参加者数

現状値 (H24)	目標値 (H30)	目標値 (H35)
4,653 人	増加	増加

参考：市の情報。国の方針に合わせ事業の内容が変わることなどから、数値目標を掲げていない。

³⁴ 国の平成 18 年度の週 1 回以上のスポーツ実施率 44.4%と平成 21 年度の週 1 回以上のスポーツ実施率 45.3%の差は 0.9 ポイントであるため、1 年あたりの変化率は 0.3%である。

- 県障害者スポーツ大会の参加者数

現状値 (H25)	目標値 (H30)	目標値 (H35)
119 人	増加	増加

参考：大会主催者からの情報。大会開催日の天候などにより、参加者数が左右されることが多いため、数値目標を掲げていない。

(2) 基本目標 2 「地域スポーツの推進」の指標

- 地区体育振興事業の参加者数

現状値 (H24)	目標値 (H30)	目標値 (H35)
9,567 人	9,760 人	9,950 人

参考：市の情報。目標値 (H30)、目標値 (H35) は、国の週 1 回以上スポーツ実施率の 1 年あたりの変化率である 0.3 ポイントを 0.1 ポイント上回る 0.4 ポイントの上げ幅とする (1 年あたり約 38 人の増加)。なお、地区体育振興事業には、地区体育振興会、スポーツ推進委員が共に携わっている。

- 大学と連携したスポーツイベントの参加者数

現状値 (H24)	目標値 (H30)	目標値 (H35)
1,596 人	1,750 人	1,900 人

参考：市の情報。目標値 (H35) は、H20～H24 の期間での最高値である 1,900 人 (H20) とする。目標値 (H30) は、現状値から目標値 (H35) までのおよそ半数の 1,750 人とする。

基本目標4 スポーツを楽しむ環境づくり

(3) 基本目標3「トップスポーツの推進」の指標

- 平塚市トレーニングセンターから輩出したJリーガーの累計数

現状値 (H24)	目標値 (H30)	目標値 (H35)
5人	8人	10人

参考：湘南ベルマーレからの情報。目標値 (H30) は、現状値の約 1.5 倍の 8 人とする。目標値 (H35) は、現状値の 2 倍である 10 人とする。

- 国民体育大会、全国大会などの出場者数

現状値 (H24)	目標値 (H30)	目標値 (H35)
99人	105人	110人

参考：関係団体からの情報。目標値 (H35) は、H20～H24 の期間での最高値である 110 人 (H21) とする。目標値 (H30) は、現状値から目標値 (H35) までのおよそ半数の 105 人とする。

- 湘南ベルマーレ、横浜 DeNA ベイスターズ、横浜ビー・コルセアーズの試合における Shonan BMW スタジアム平塚、平塚球場、平塚総合体育館の総収容人数に占める総入場者数の割合

現状値 (H24)	目標値 (H30)	目標値 (H35)
27.4%	28.8%	30.1%

参考：市の情報。目標値 (H35) は、湘南ベルマーレの所属リーグによる不確定要素があるため、1 割増の 30.1% とする。目標値 (H30) は、現状値から目標値 (H35) までのおよそ半数の 28.8% とする。

- スポーツ指導者登録数

現状値 (H24)	目標値 (H30)	目標値 (H35)
新規	55人	110人

参考：関係団体からの情報。目標値 (H35) は、平塚市体育協会との連携の上、平成 24 年度時点での本市の日本体育協会公認スポーツ指導者 225 人の約半数の 110 人とする。目標値 (H30) は、目標値 (H35) の半数である 55 人とする。

(4) 基本目標4「スポーツを楽しむ環境づくり」の指標

- 施設全体の利用における総合的な満足度（軟式庭球場）の「満足」と「ほぼ満足」の割合

現状値 (H24)	目標値 (H30)	目標値 (H35)
54.3%	56.3%	58.3%

参考：指定管理者調査結果。目標値（H30）、目標値（H35）は、国の週1回以上スポーツ実施率の1年あたりの変化率である0.3ポイントを0.1ポイント上回る0.4ポイントの上げ幅とする。

- 施設全体の利用における総合的な満足度（桃浜町庭球場）の「満足」と「ほぼ満足」の割合

現状値 (H24)	目標値 (H30)	目標値 (H35)
66.0%	68.0%	70.0%

参考：指定管理者調査結果。目標値（H30）、目標値（H35）は、国の週1回以上スポーツ実施率の1年あたりの変化率である0.3ポイントを0.1ポイント上回る0.4ポイントの上げ幅とする。

- 学校体育施設開放事業利用者数

現状値 (H24)	目標値 (H30)	目標値 (H35)
450,073 人	463,500 人	470,250 人

参考：市の情報。既に学校体育施設開放事業の利用率が高く、利用されていない時間が少ないことから、大幅な利用者増が望めないため、目標値（H30）は、H20～H24の期間での最高値である463,100人（H23）を若干上回る463,500人とする。目標値（H35）は、現状値（H24）から目標値（H30）までの増加分である13,500人の半分である6,750人を加えた470,250人とする。

- ホームページ上でのスポーツ団体・サークルの掲載数

現状値 (H24)	目標値 (H30)	目標値 (H35)
新規	100 団体	450 団体

参考：目標値（H30）は、スポーツ関係団体に加盟する100団体とする。目標値（H35）は、さらに公民館利用団体・グループ数、市民活動団体などの総数およそ700の半数を加えた450団体とする。